

ORIGAMI

TANTEIDAN

折紙探偵団

M A G A Z I N E

クローズアップ Close-up

折り紙作品のデフォルメ表現 —イラストレーションと対比して—

Deformation in Origami: In Contrast to Illustration

尾川 知

Ogawa Tomo

折り図 Diagrams

イルカ

Dolphin

川畑文昭

Kawahata Fumiaki



展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge!

カマキリ

Mantis

今井幸太

Imai Kota

つまみおり Information

第20回折紙探偵団コンベンション参加受付開始

The 20th Origami Tanteidan Convention Now Open for Registration

通巻 **145** 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、知的財産権等の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

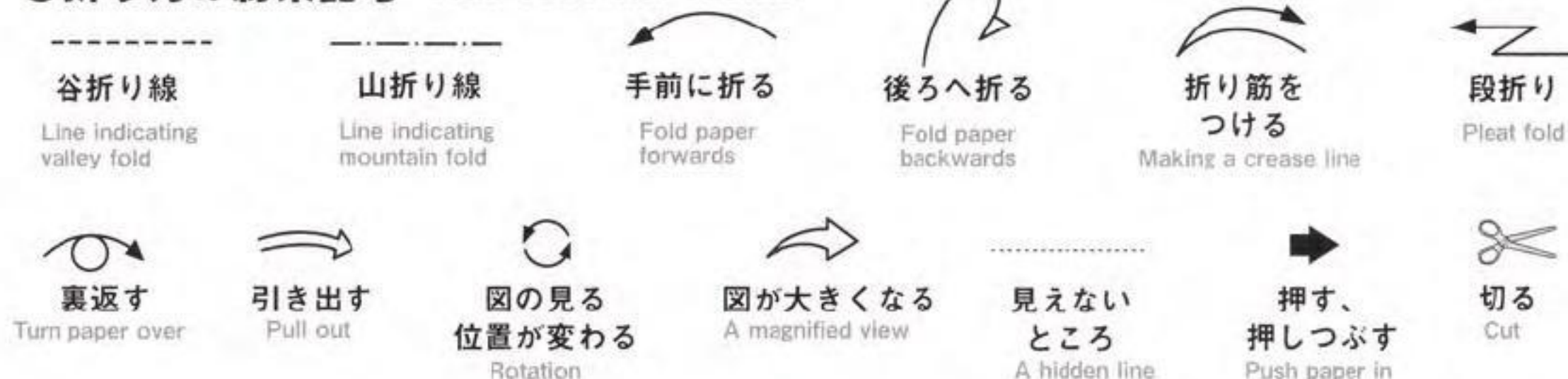
Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies of the intellectual property rights, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号 SYMBOLS FOR FOLDING



「カマキリ」(P.36)
Mantis (P.36)

作: 今井幸太
by Imai Kota

■的確なサイズと配置で折り出された、全身の構成部品と多数のトゲトゲ群。もちろん、というか期待通りと言うべきか、このシルエットを導き出すためにふさわしい高密度な展開図構成となっています。初回のチャレンジは破れにくい大きめの紙で、破れたところを粘着テープでふさぎながら。立体構成を十分把握してから、次の段階に進みましょう。 (解説: 北條高史) Comments: Hojyo Takashi

No. **145**



Mantis: Imai Kota

クローズアップ / Close-up

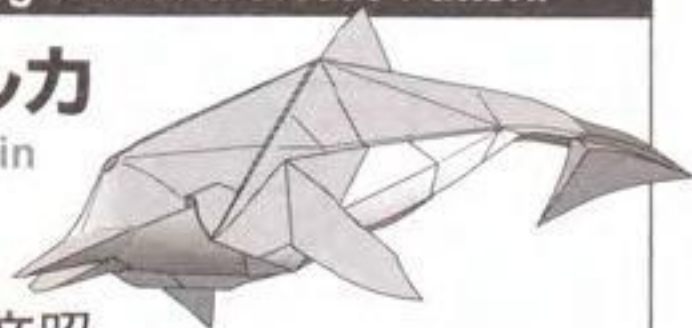
**P.13 折り紙作品の
デフォルメ表現**

—イラストレーションと対比して—
 Deformation in Origami: In Contrast
 to Illustration

尾川 知
 Ogawa Tomo

折り図 / Diagrams and Crease Pattern

P.26 イルカ
 Dolphin



川畑文昭
 Kawahata Fumiaki

P.36 展開図折りに挑戦!
 Crease Pattern Challenge!

カマキリ

Mantis
 今井幸太
 Imai Kota

カラーページ / Color

P.20 オリガミ・フォトギャラリー
 Origami Photo Gallery

今号の折り図・展開図掲載作品より
 Models Based on Diagrams and Crease
 Patterns of This Issue

解説・北條高史
 Comments: Hojyo Takashi

折り図 / Thematic Series with Diagrams

P.4 知子の部屋
 Tomoko's Room

ビッグスター
 Big Star

布施知子
 Fuse Tomoko

P.8 おりがみ我楽多市
 Origami Odds and Ends

ティーバッグのウサギ
 Tea-Bag Rabbit

やまぐち真
 Yamaguchi Makoto

読み物 / Articles

P.16 折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library
 『新・おりがみランド』シリーズ
 The "Neo-Origami Land" Series

森末 圭
 Morisue Kei

P.18 ぼくらは折紙探偵団

Here We Are, THE ORRRIGAMI TANTEIDAN

折り紙と音楽の深い(?)関係

Profundity of the Relationship between Origami and Music

羽鳥公士郎
 Hatori Koshiro

P.37 ペーパーフォルダーの横顔

Paper Folders on File

津田良夫
 Tsuda Yoshio

P.38 大学折紙サークル交流会レポート

Report: The Inter-College Origami Circles Assembly

報告:堀口直人
 Horiguchi Naoto

コラム / Columns

P.7 折り紙の周辺

Origami and Its Neighbors

布施知子
 Fuse Tomoko

P.34 おりすじ

Orisuzi ("Fold-Creases")

櫻井明美
 Sakurai Akimi

P.35 折紙三昧

Origami-Zanmai (This Origami and That)

西川誠司
 Nishikawa Seiji

情報 / Information

P.39 つまみおり Rabbit Ear

第20回折紙探偵団コンベンション参加受付開始
 The 20th Origami Tanteidan Convention Now Open for
 Registration

知子の部屋

Tomoko's Room

布施 知子
Fuse Tomoko

第 19 回

ビッグスター

Big Star

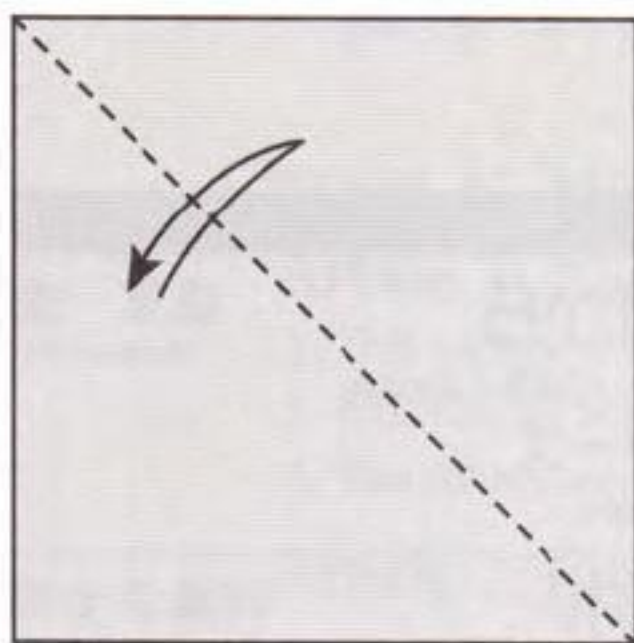
この星を見て、イタリアの Paolo Bascetta さんの作品を思い出す人は多いでしょう。私はかねがね彼の作品のように簡単で丈夫な星を作りたいと思っていました。そこでできたのがこの星です。

「ビッグスター」という名前は、使用する紙にたいして出来上がりが大きくなるのでそうつけました。紙の寸法は表記してあるくらいが適当です。



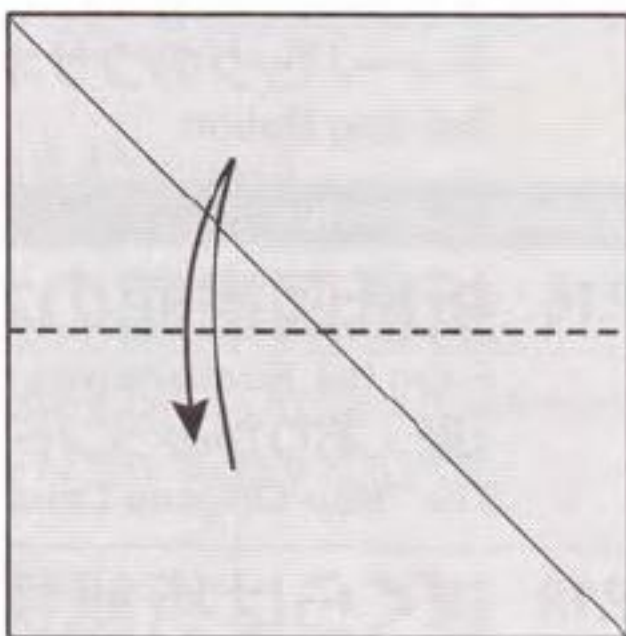
10×10cm

1

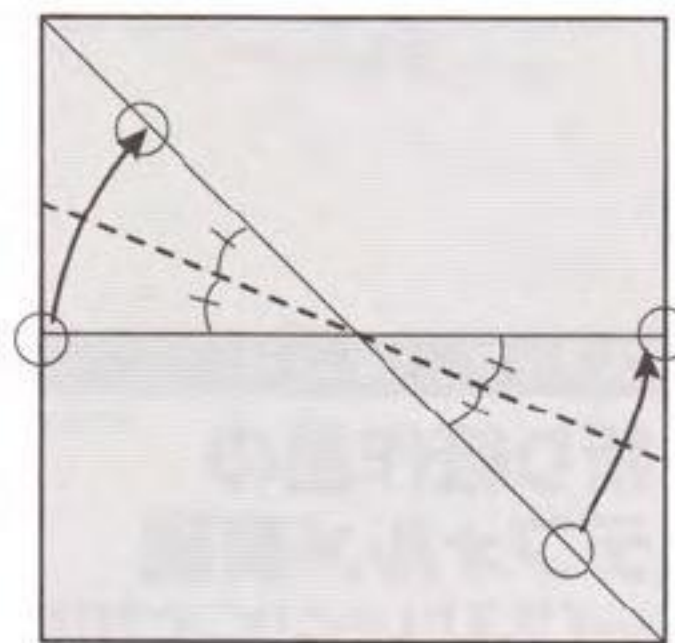


折り線をつける

2

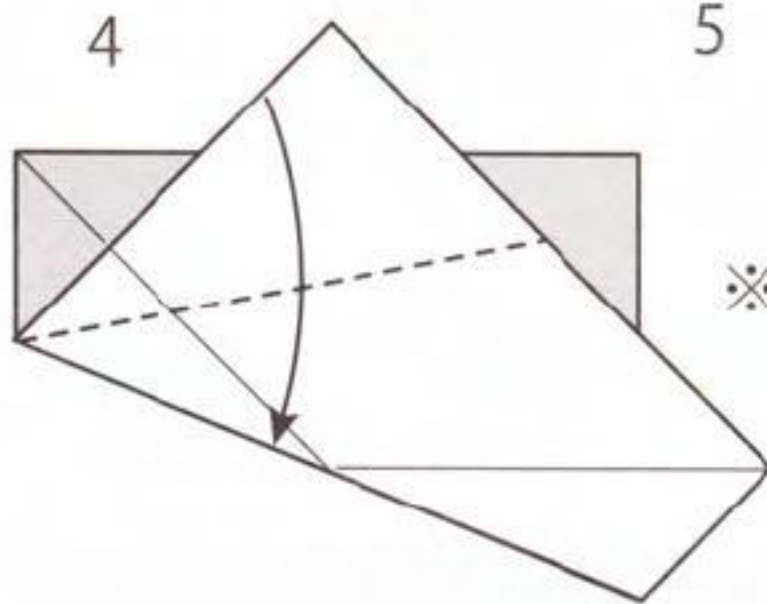


3

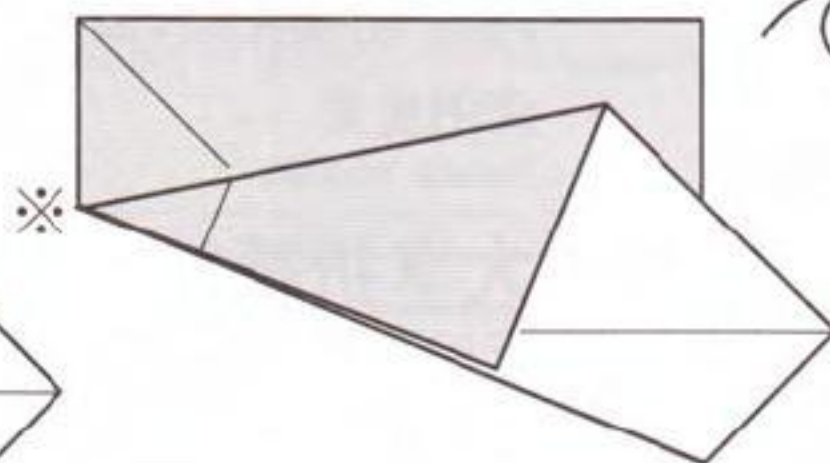


○印を合わせて折る

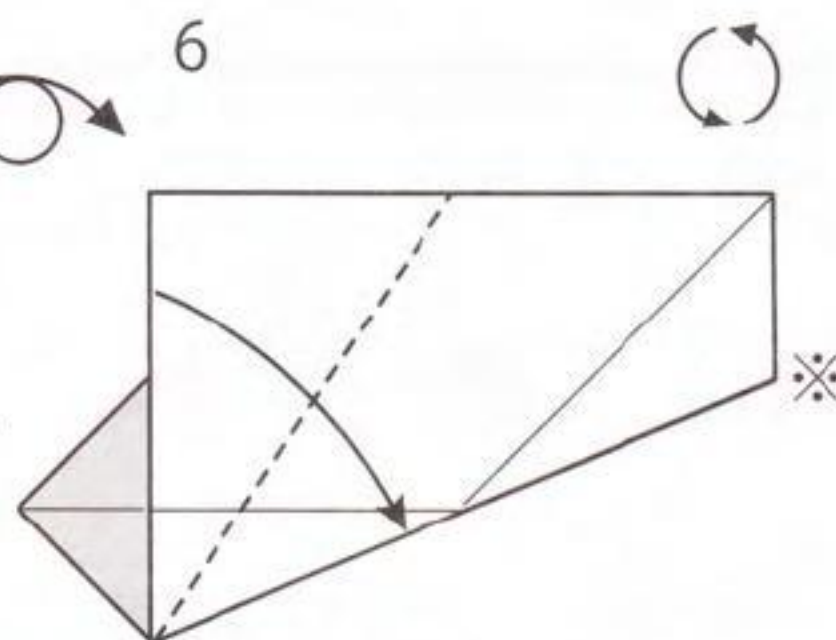
4



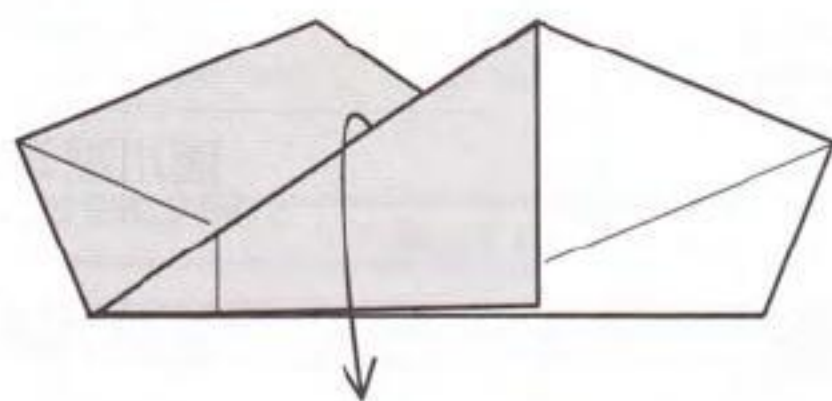
5



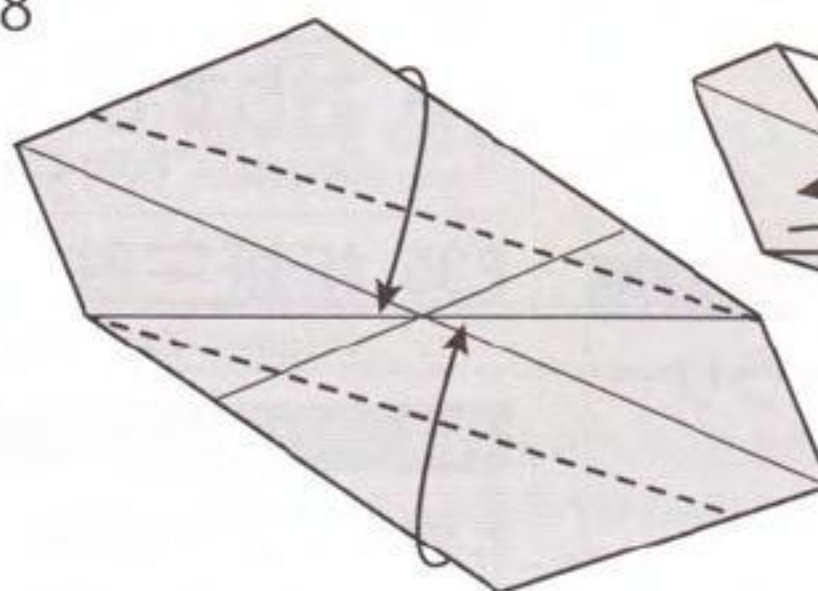
6



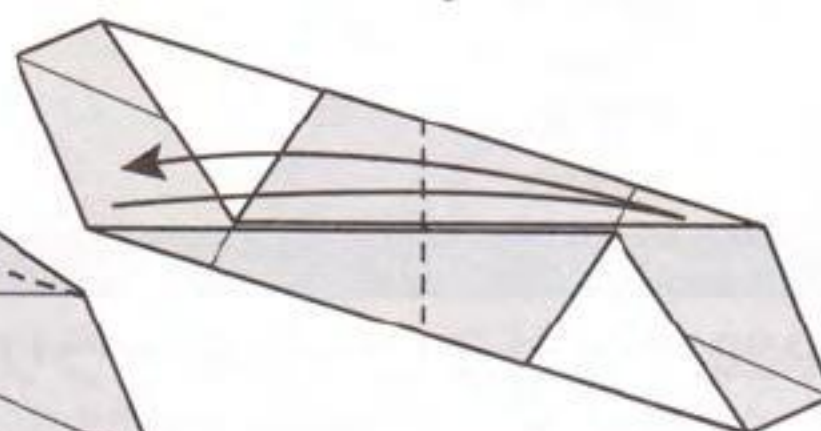
7



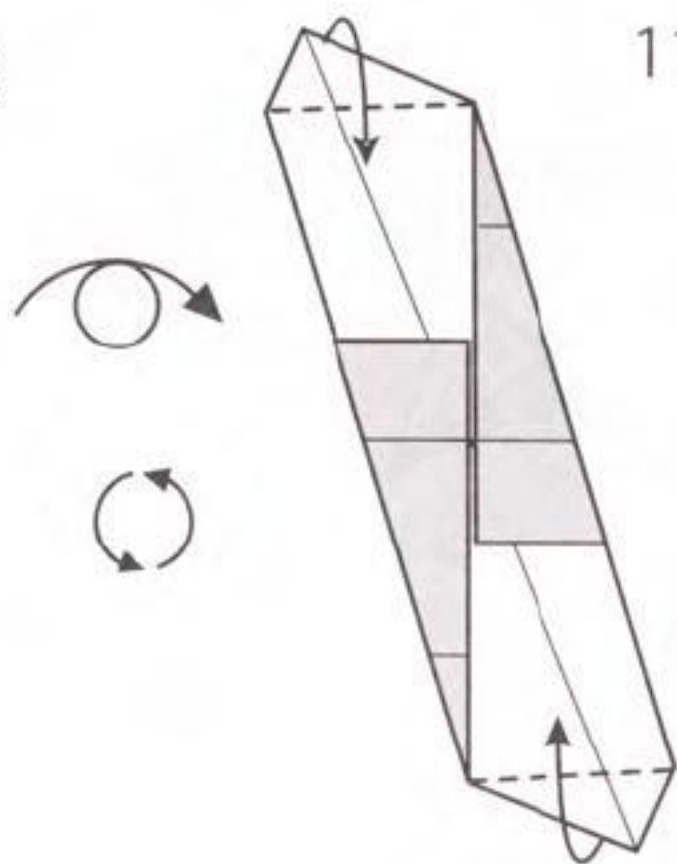
8



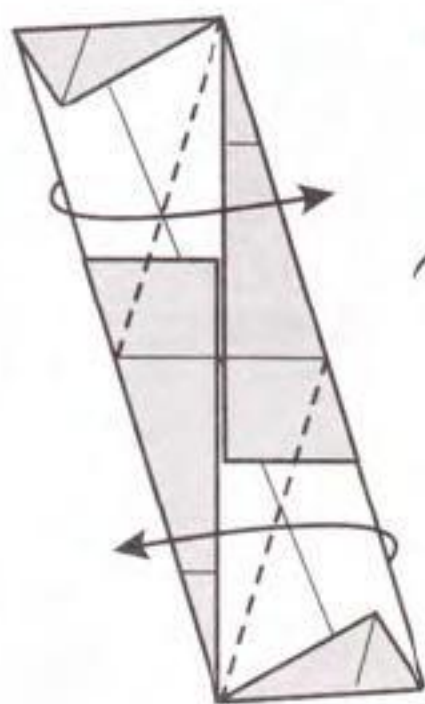
9



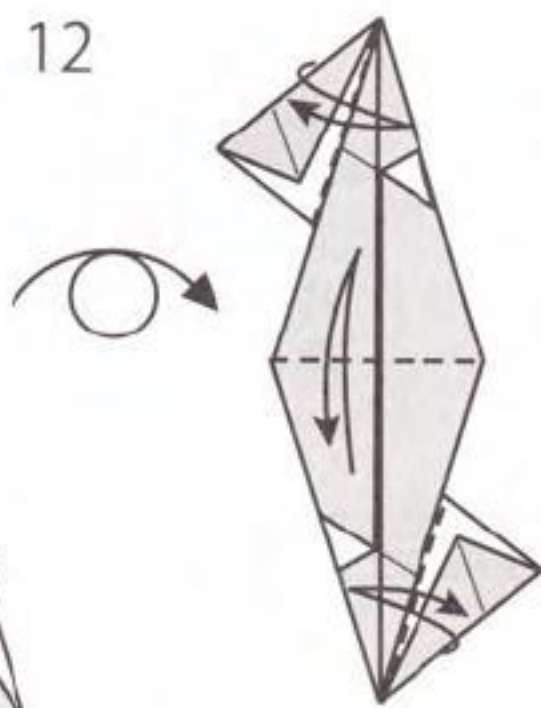
10



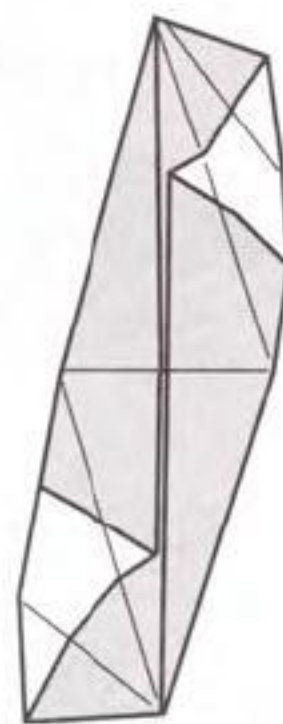
11



12



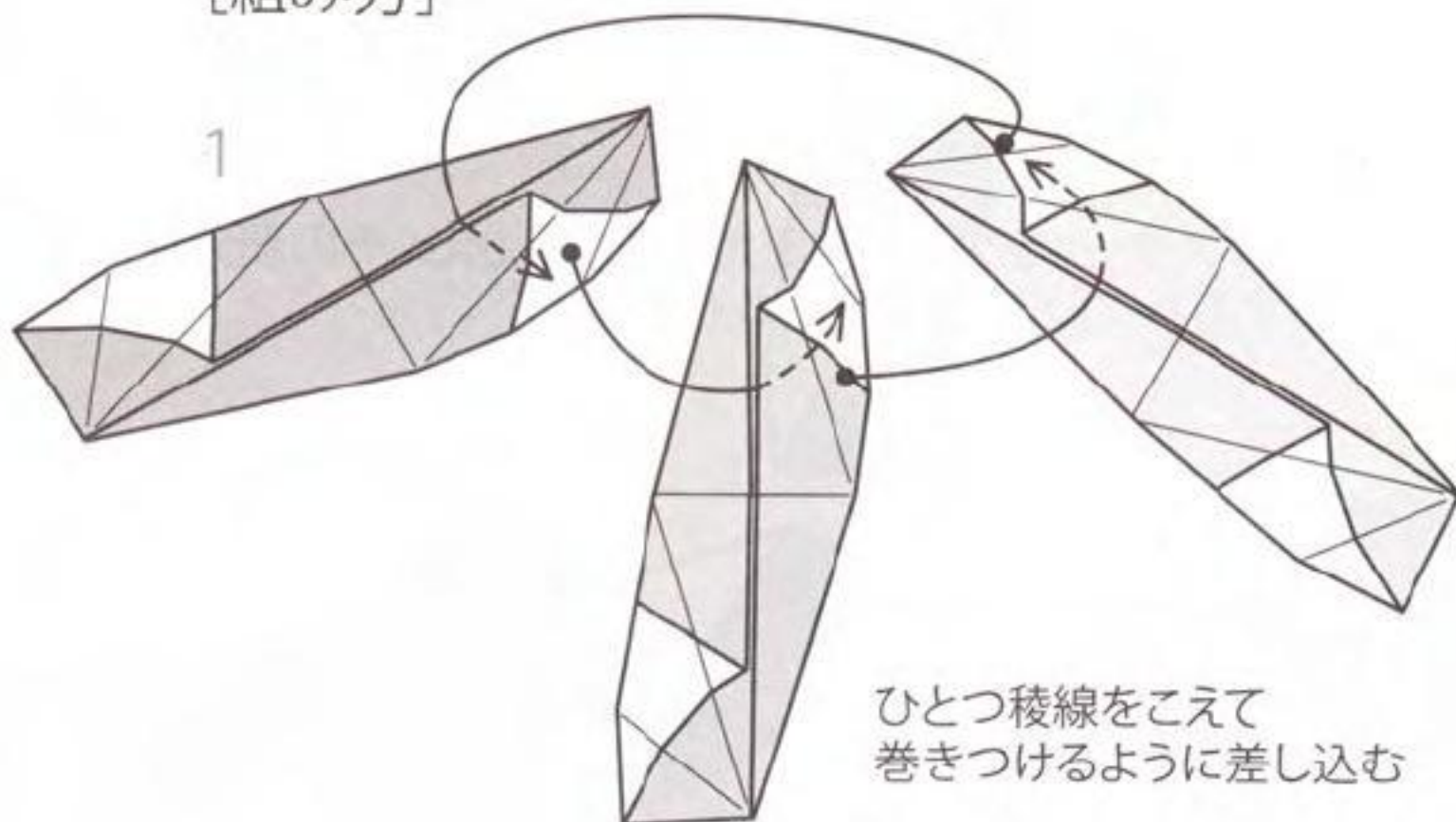
13



折り線をつけたら開く

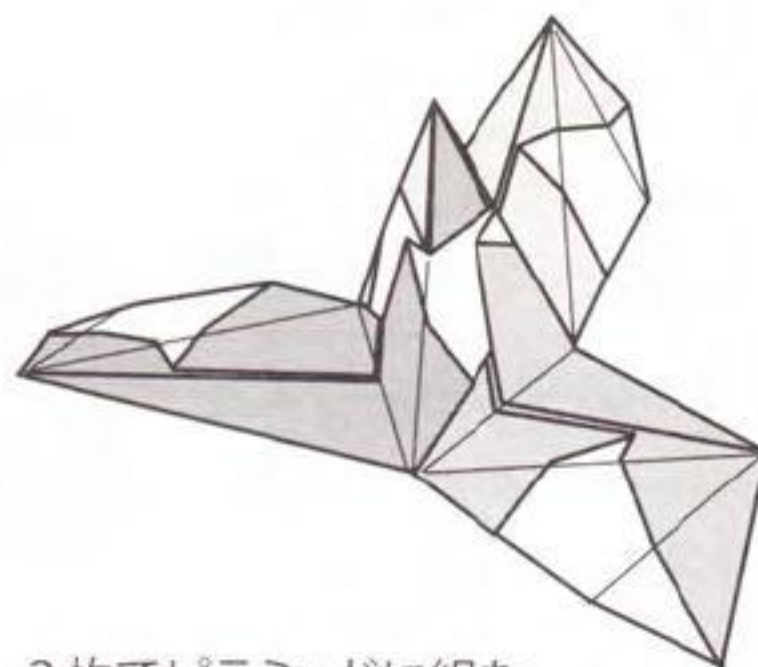
[組み方]

1

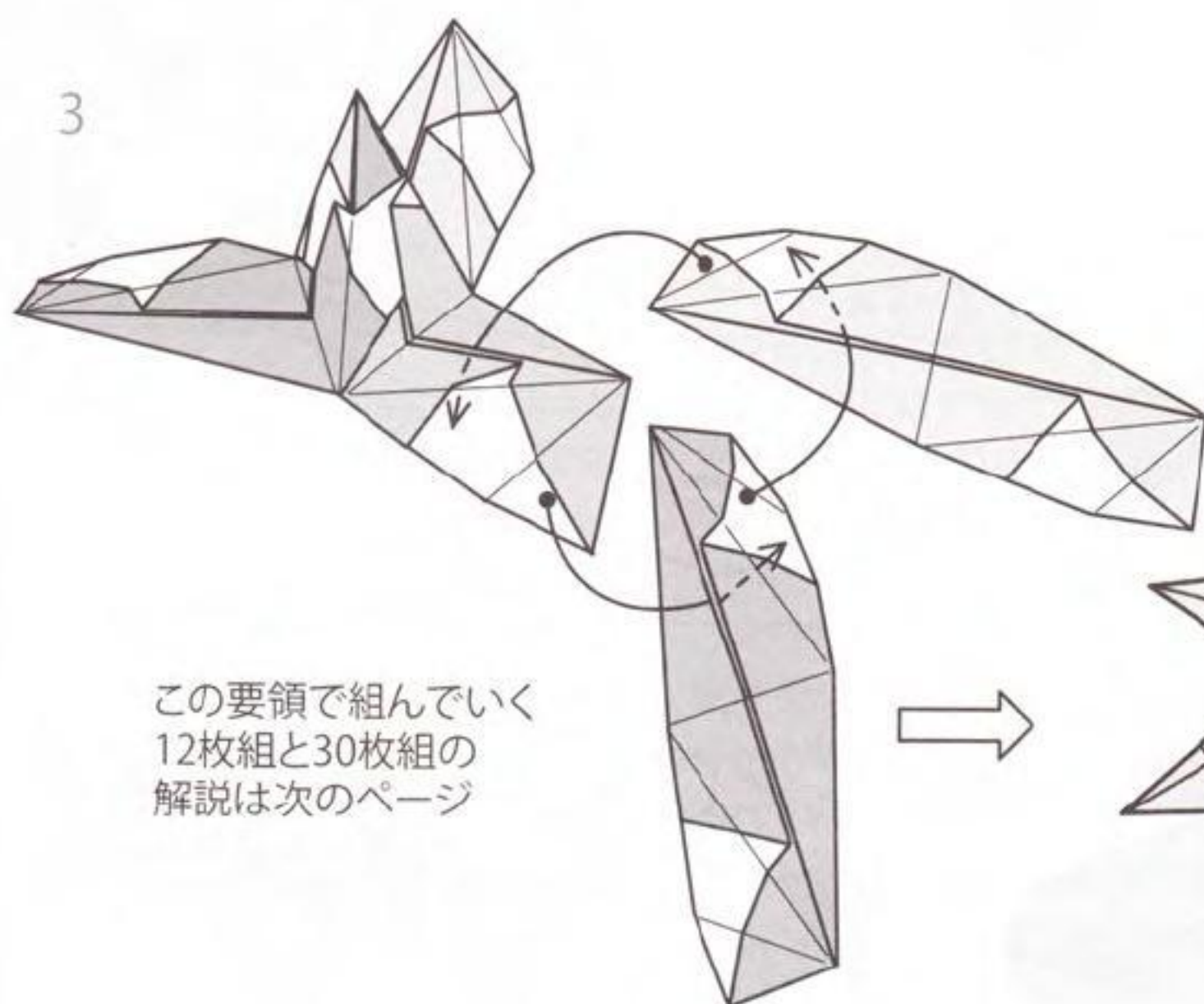
ひとつ稜線をこえて
巻きつけるように差し込む

2

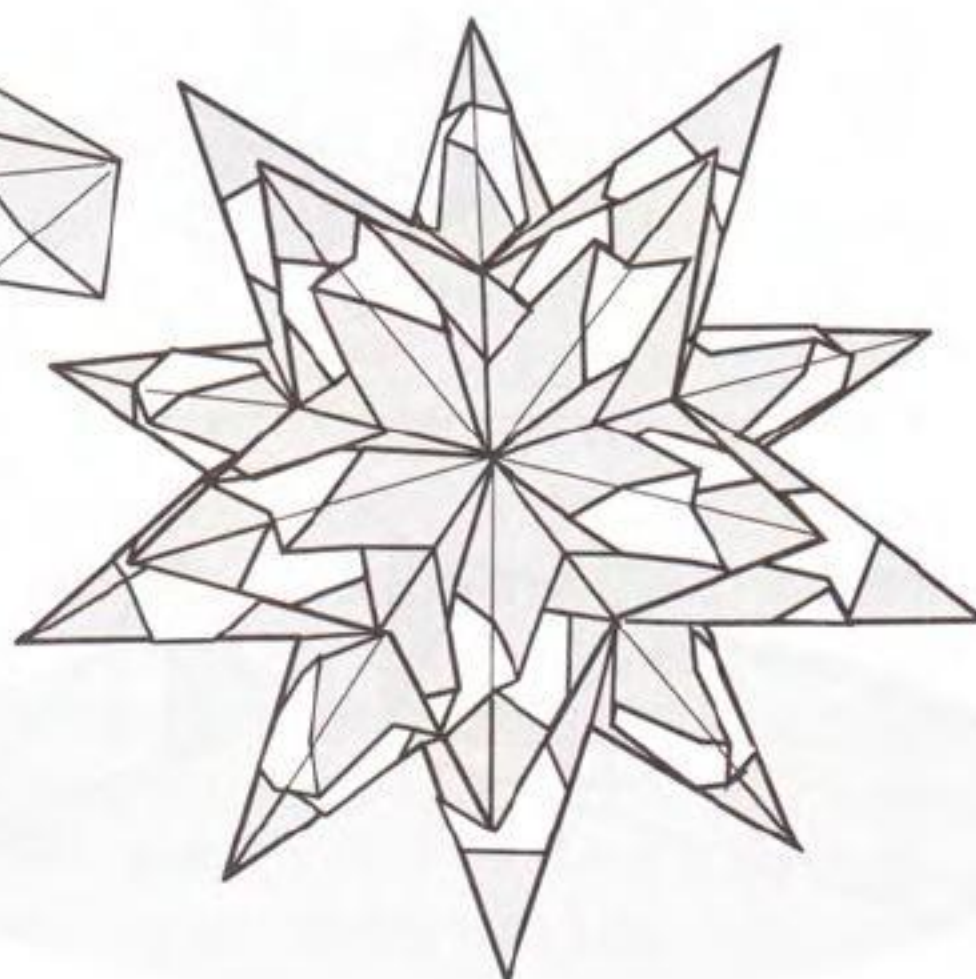
基本3枚組

3枚でピラミッドに組む
ピラミッドの底辺は正三角形

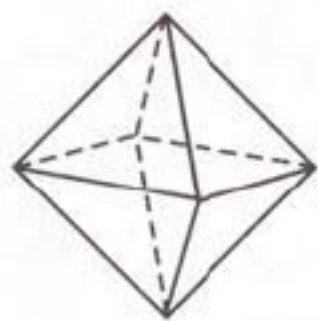
3

この要領で組んでいく
12枚組と30枚組の
解説は次のページ

ビッグスター30枚組



12枚組の骨組

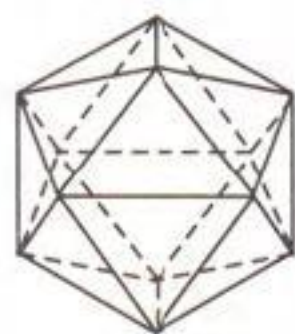


☆印にユニットの辺が
4つ集まるように組む
色のついた部分も参考に



ピラミッドの底辺は正三角形

30枚組の骨組



☆印にユニットの辺が
5つ集まるように組む

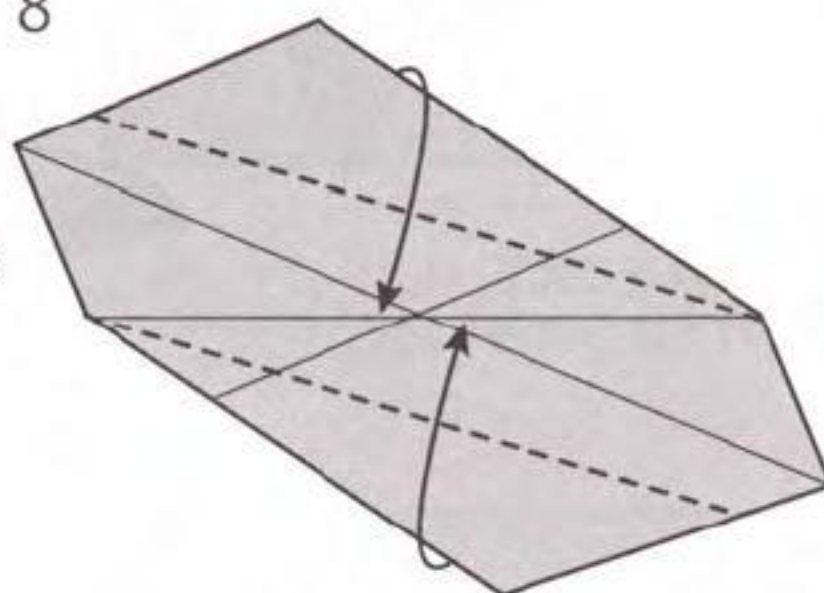


フリルスター

「ビッグスター」を少し折り変えてひだを出し、その部分を
カールすると、ひと味違う星になります。

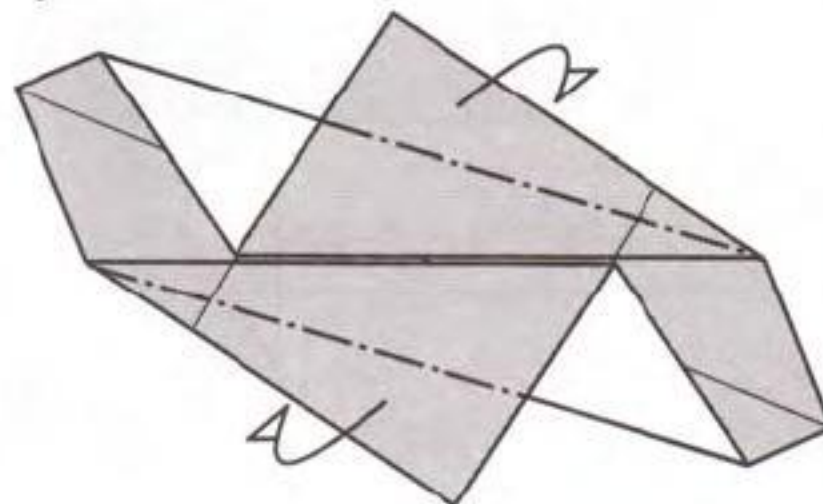
8

ビッグスターの8から



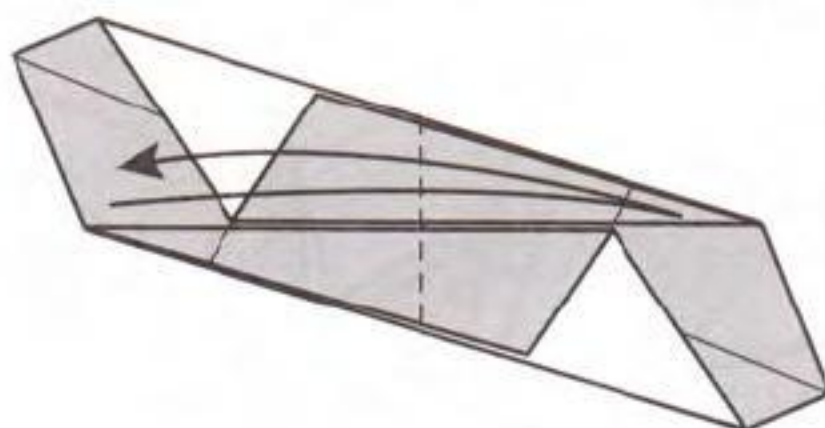
下は折らずにはね出す

9

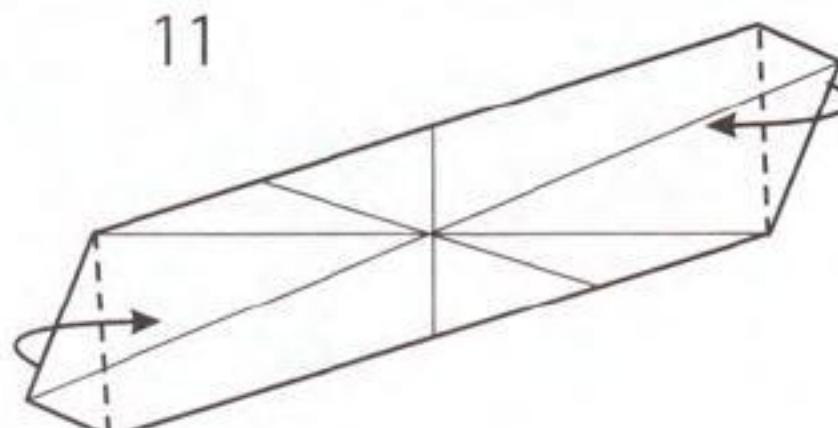


間にはさんで折る

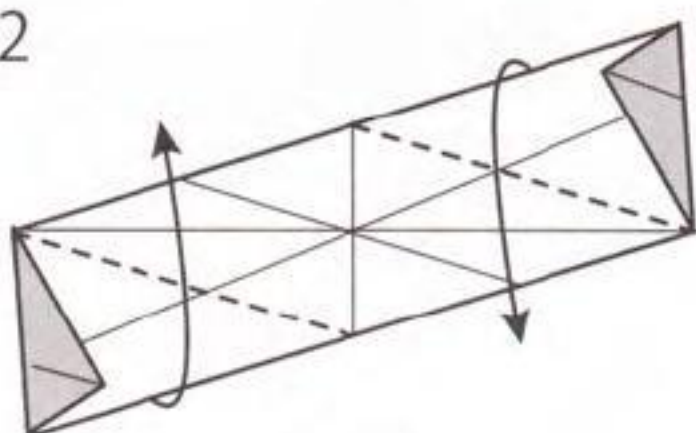
10



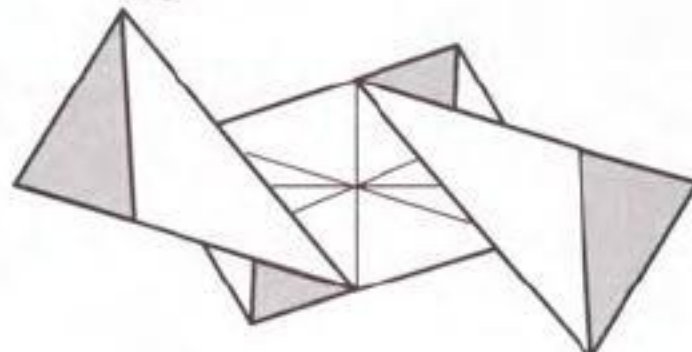
11



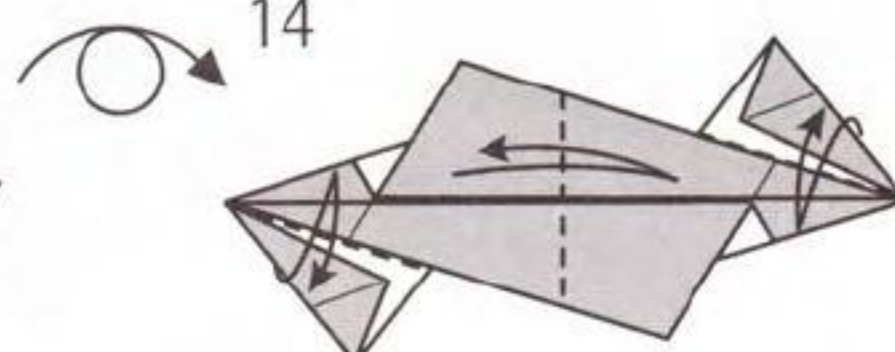
12



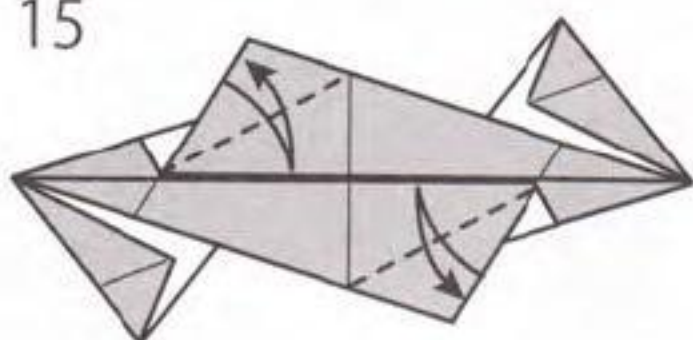
13



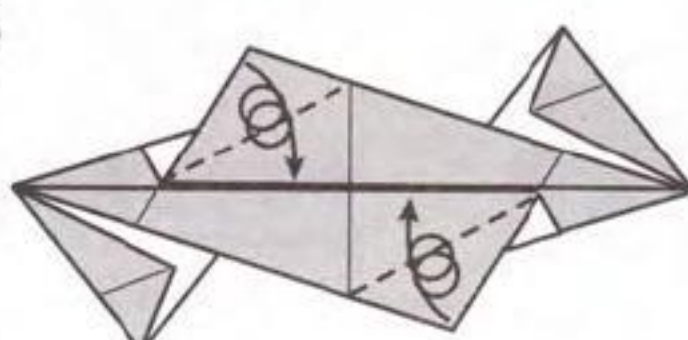
14



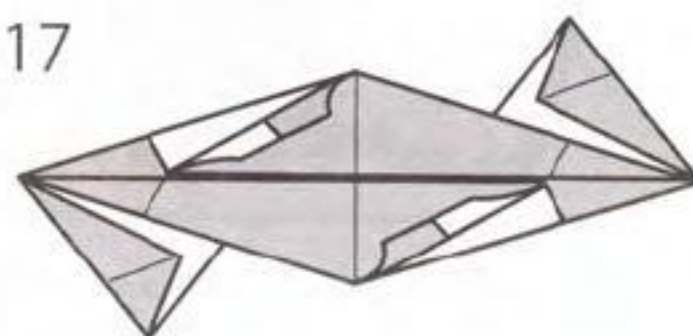
15



16

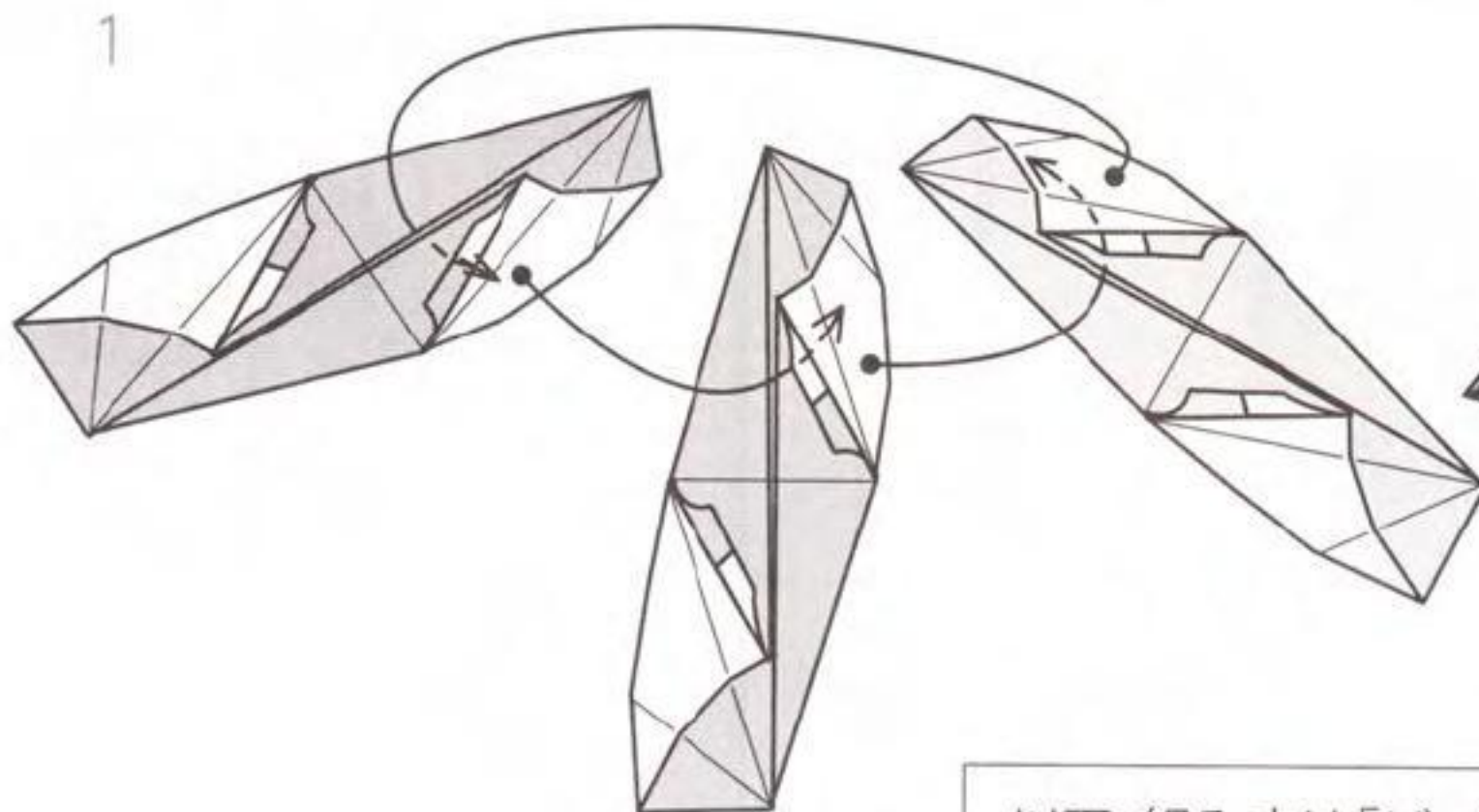


17



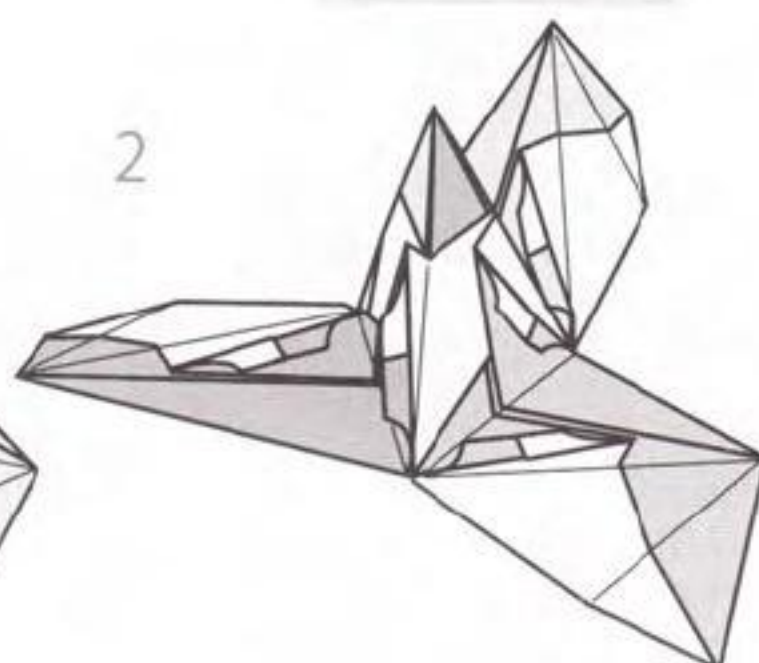
[組み方]

1



基本3枚組

2



以下、組み方は「ビッグスター」と同じ
完成形は写真(20ページ)をご覧ください

折り紙の 周辺

第64回 共通項 Common Interests

Origami and
Its Neighbors

布施知子 Fuse Tomoko

あんなに積もった雪が輝く水となり、春がきた。今年の山桜は見事で、あちこち薄い桃色のぼんぼりが灯ったよう。思わず「わー」と感嘆のため息を吐く。見事に咲きそろうのは2、3年に一度の気がする。ウソという鳥が活躍する年は花芽を食べてしまうので悲しいありさま。同じように同じ春はなく、この時期「今年の春は——」で始まる会話が多い。このあたりは昨年一昨年とかなり伐採されて日当たりがよくなり、植物相が

変わってきた。エンゴサクやカワラナデシコが増え、ギンランやクモキリソウが少なくなった。植物は何年も眠っていて、環境がそろそろスイッチがはいって目をさますのだろうか。ササユリもしかり。景観整備で道路脇が手入れされると、「あら、こんなところに!」と出てくる。私たちにもひょっこり目覚める思わぬ才能が眠っているといいのだが。山の形の変化はわかりづらいけれど、そこに育つ草木は変遷している。折り紙は今後どんな変遷をするのだろうか。

オランダのパウラさんご夫妻の訪問を受けた。パウラさんは少ない折り手順で作品を作ることを得意とされていて、代表作の2回折りサンタクロースを知っている人は多いと思う。みんなで桜咲く春の山を少し歩いた。「歩くのはたのしい。距離はかせげないけれど、車から見る

景色と違う発見がある」とおっしゃっていた。信州の折り紙の会に参加されて、それから日本各地を回る予定だが、各地の折り紙の友がリレーして案内、よい交流をもたれることだろう。

家で一服して彼女がケースをあけると、折り筋を入れて平らにして持ってきた分厚い折り紙の束があった。それは1枚折りのたとう畳みの箱で、中に名前を記したカードとスライド式の Cutter を入れて交流会の参加者全員に配るといふ。さすがオランダ流と言おうか。ちょっとした時間をみつけては仕上げの折り紙を続けていた。オランダのコンベンションではピンをつけた小物の交換が盛んで、会が終わる頃には参加者の胸は色とりどりのモデルでいっぱいになる。アーティスト・トレーディング・カードの交換も盛んだ。各国愛好家の姿は共通項が多い。

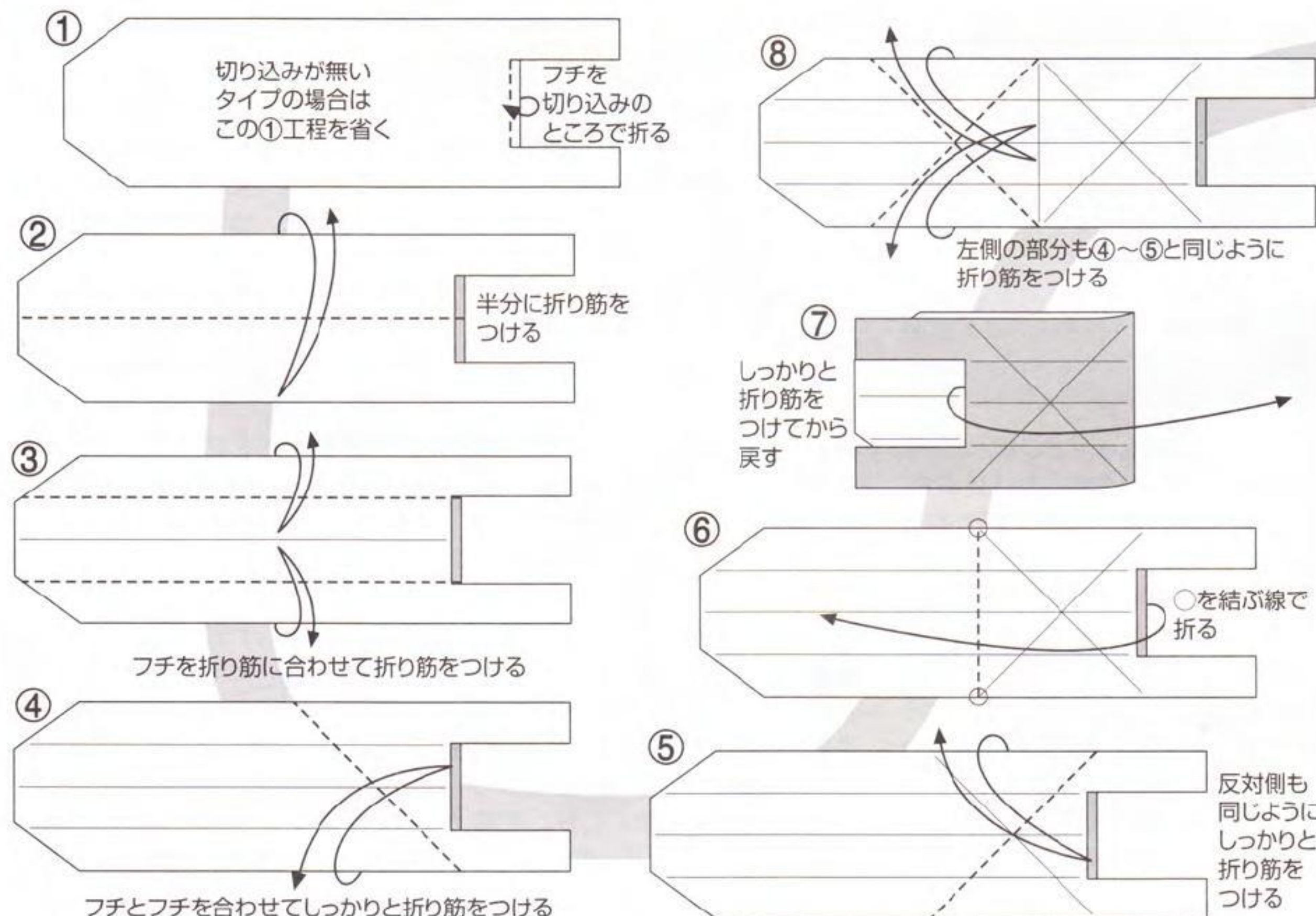
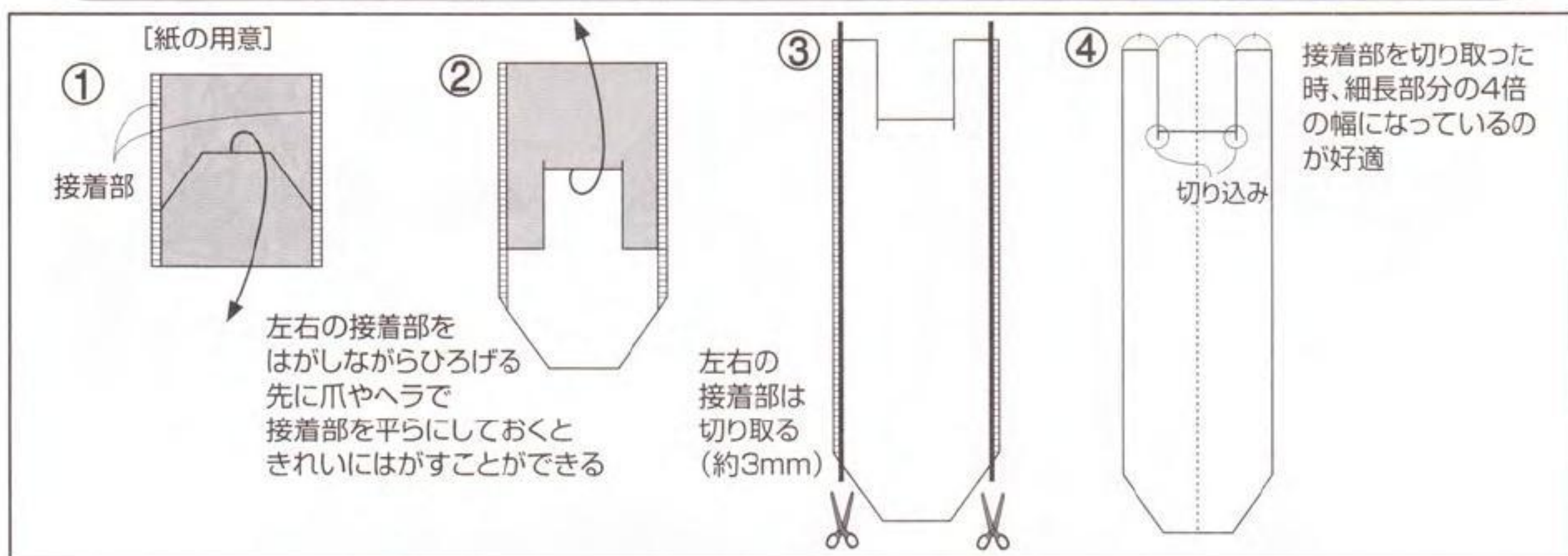
第66回 **ティーバッグのウサギ**

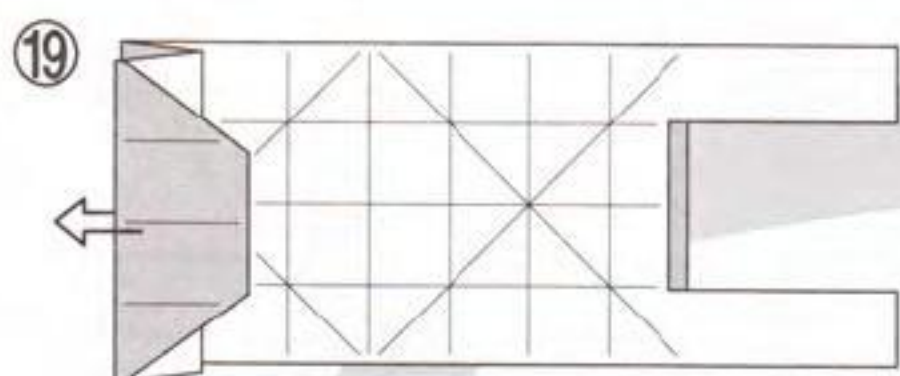
Tea-bag Rabbit

作:小野友彰 / 折り図:おりがみはうす

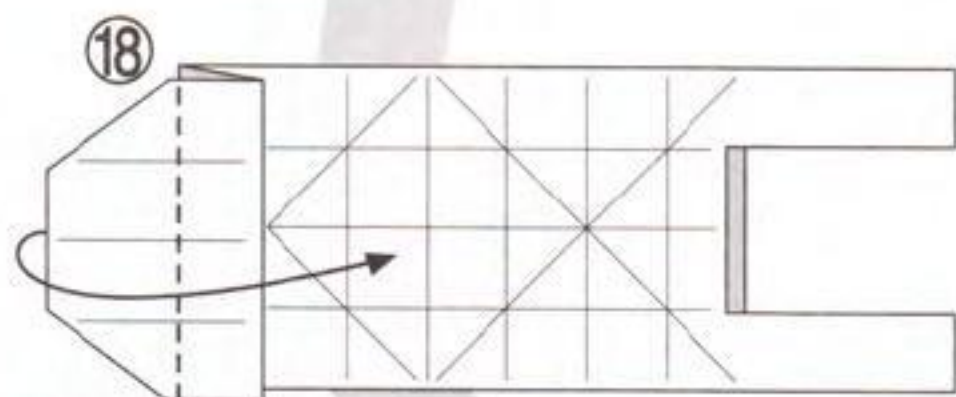
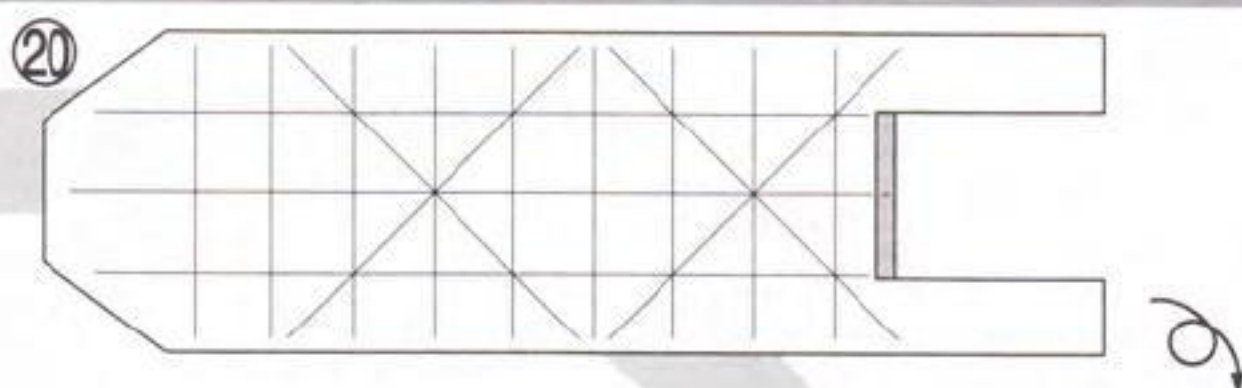
Model: Ono Tomoaki / Diagrams: Origami House

ティーバッグ折り紙の本が、小野友彰氏と山口の共著で、年内に出版される予定。今回は、掲載候補から漏れてしまった作品をご紹介します。

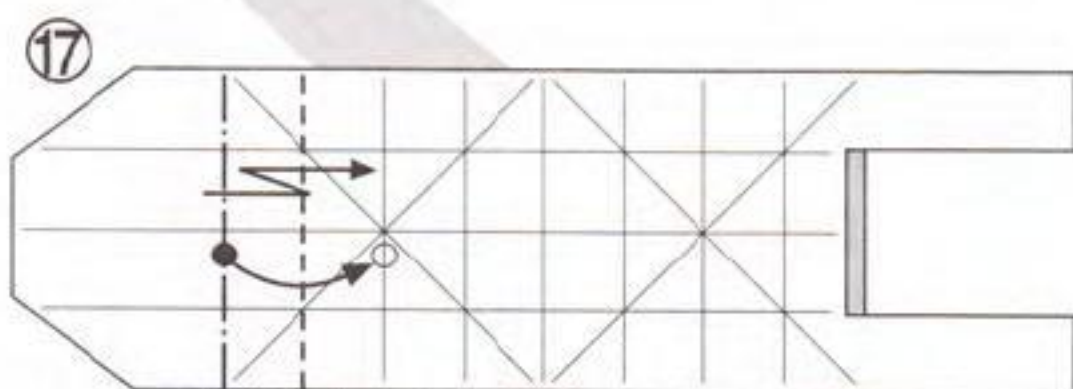




①⑨
しっかりと折り筋を
つけてから戻す



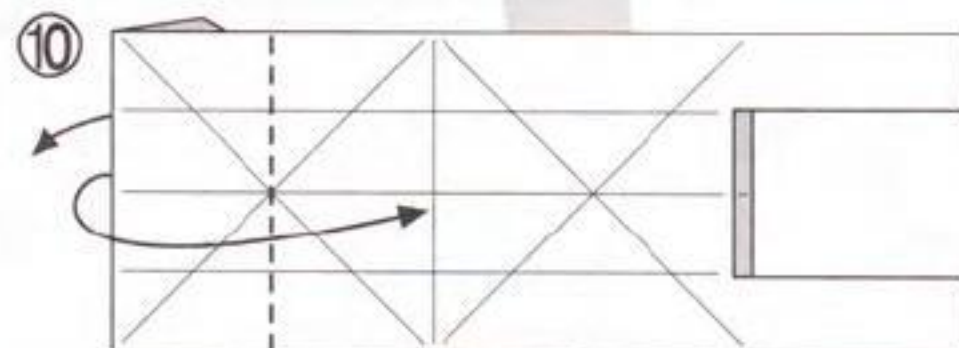
①⑧
後ろのフチのところで
右へ折る



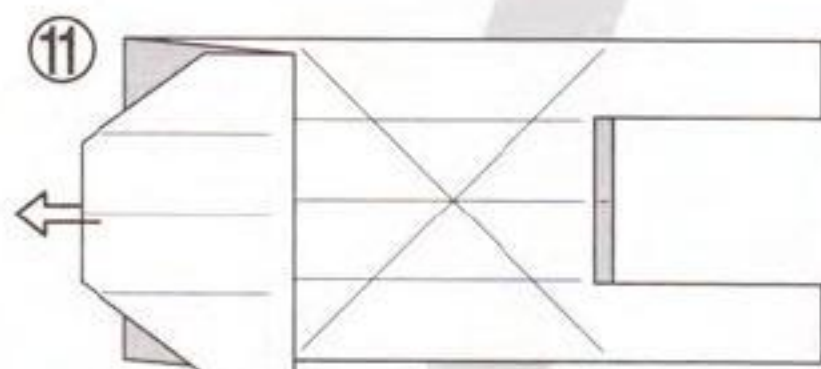
●の折り筋をつまんで
○に合わせて段折り



○を
結ぶ線で
後ろへ折る



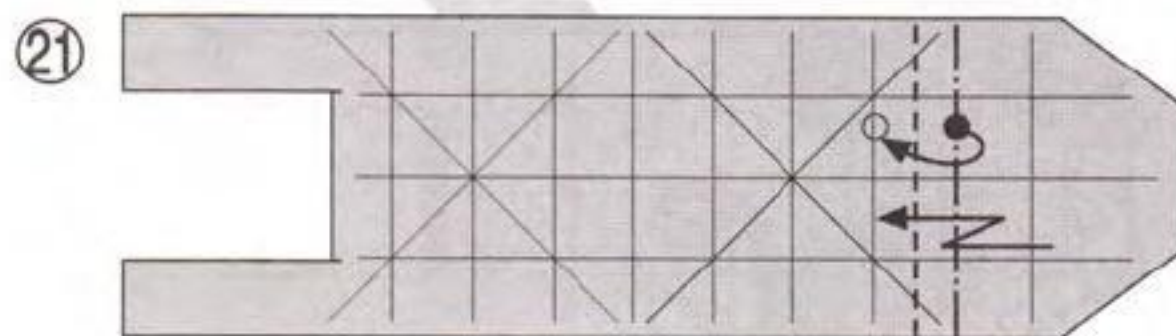
後ろのフチを
出しながら
フチを折り筋に
合わせて折る



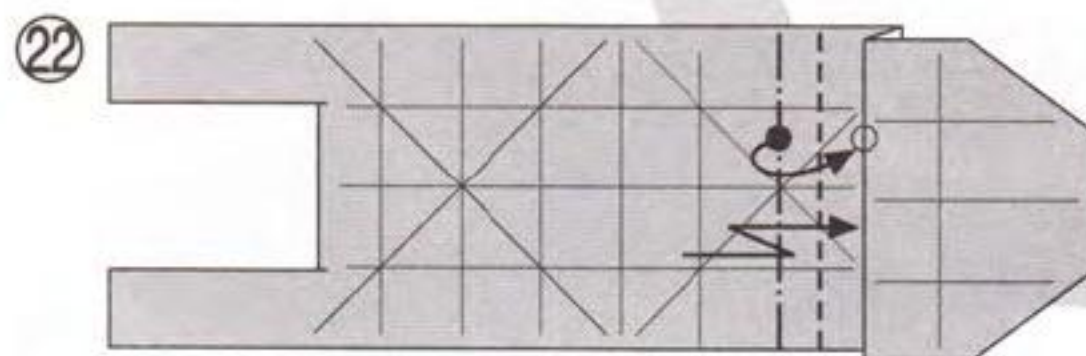
①⑪
しっかりと
折り筋を
つけてから
戻す



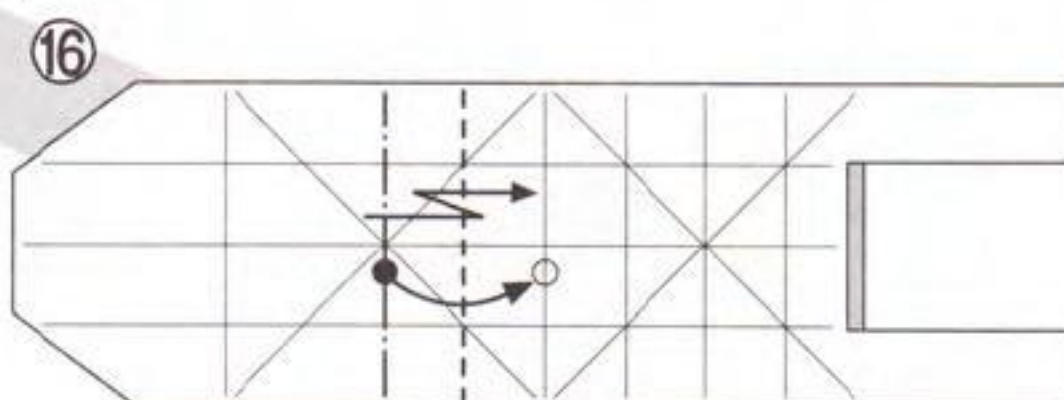
フチを折り筋に
合わせて折り筋を
つける



●の折り筋をつまんで
○に合わせて段折り



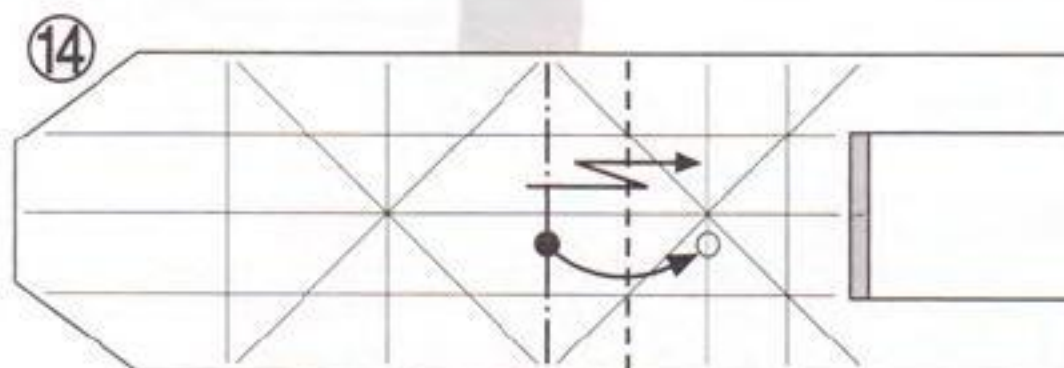
●の折り筋をつまんで
○に合わせて段折り



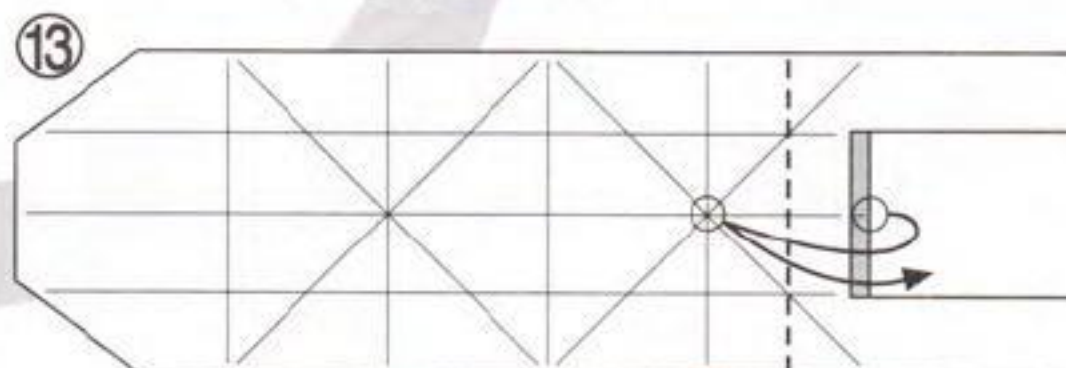
①④～①⑤と同じように
折り筋をつける



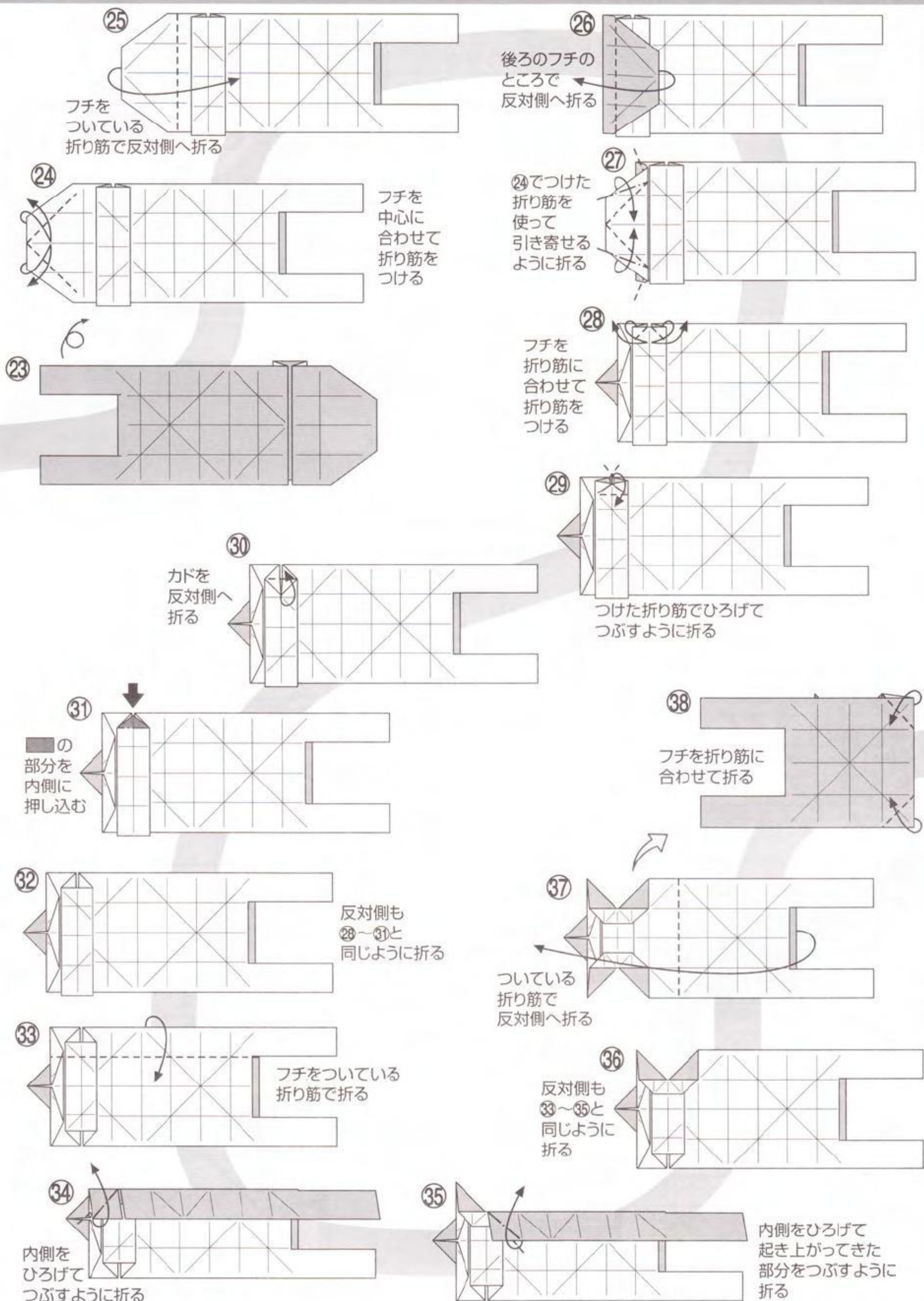
①⑤
しっかりと折り筋を
つけてから戻す

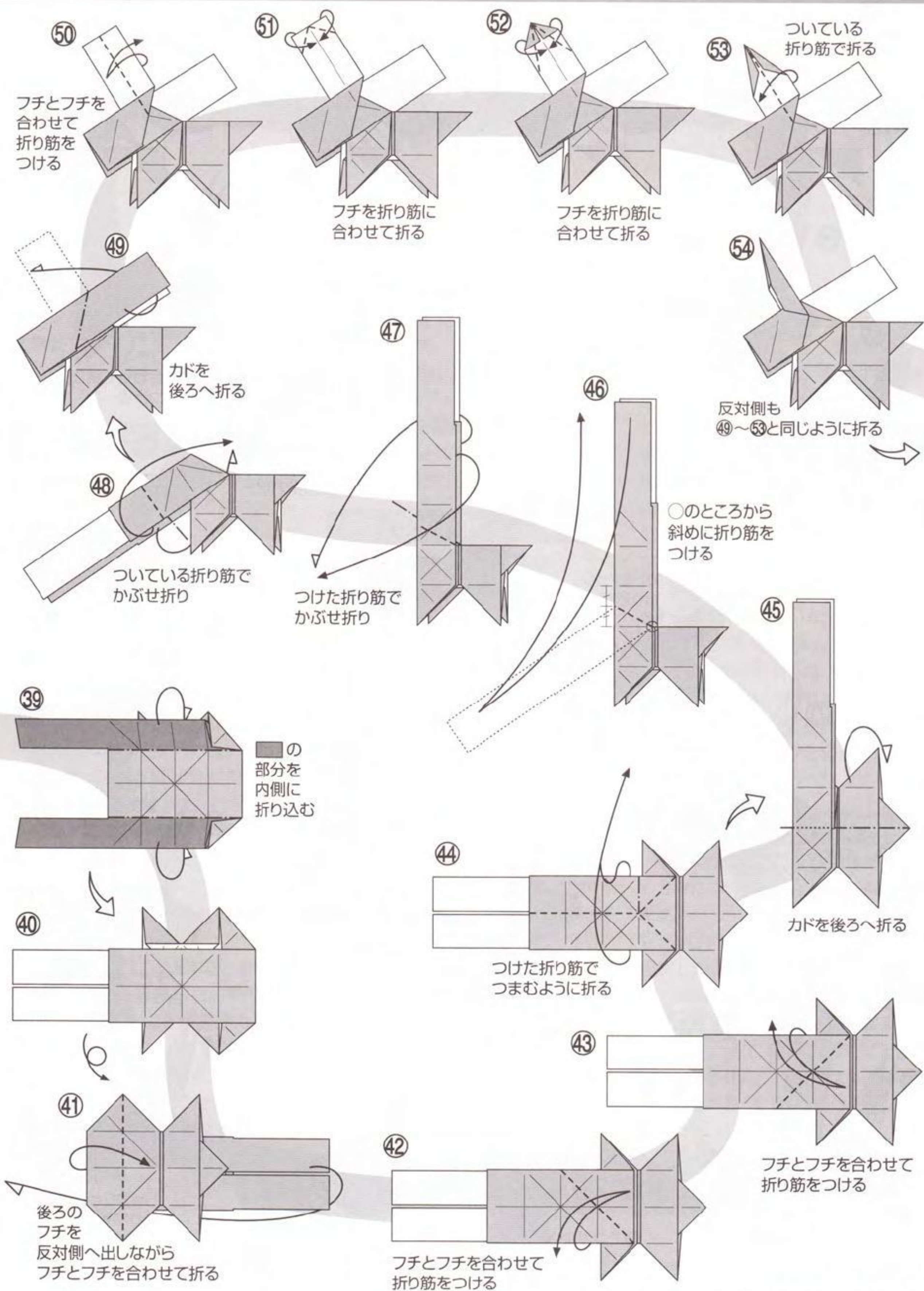


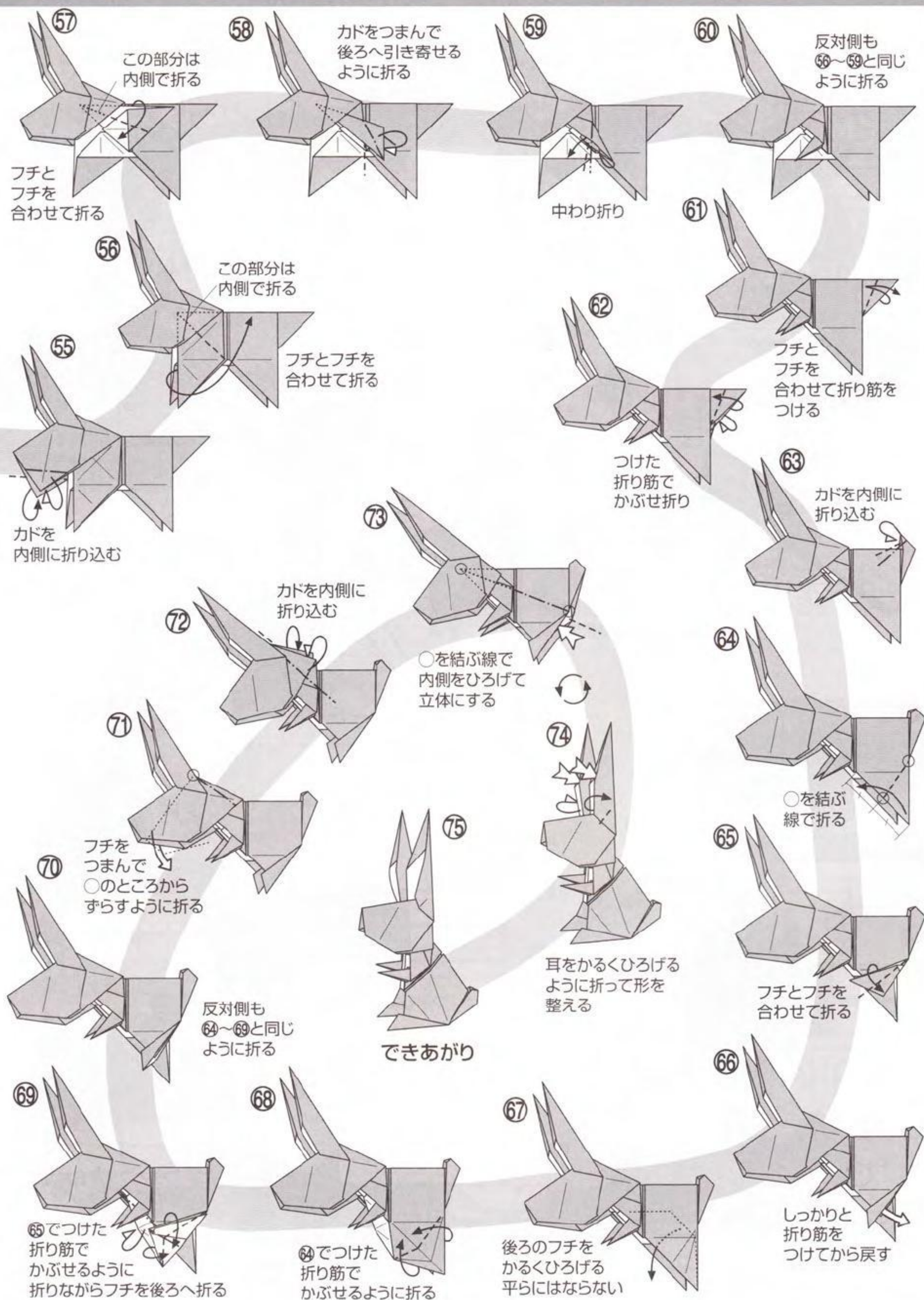
●の折り筋をつまんで
○に合わせて段折り



フチを折り筋に
合わせて折り筋を
つける







折り紙作品のデフォルメ表現

—イラストレーションと対比して—

Deformation in Origami: In Contrast to Illustration

尾川 知

Ogawa Tomo

※本稿は、第14回折紙探偵団関西コンベンションにおいて筆者が担当した講義「折り紙作品におけるデフォルメについて」の内容をもとにしたものです。

はじめに

「折り紙で何ができるのか?」と考えることがあります。こういう問いは「何かを表現したい」という目的が先にある場合に出てきます。このようなとき、折り紙は表現手段として選択肢の1つになります。そのとき折り紙を選ぶことが「楽しいから」という以外にあるとすれば「他の手段ではできない(あるいはしにくい)ことができるから」ということになると思います。「折り紙で何ができるか?」というのは、言い方を変えれば「折り紙は何が得意なのか?」ということです。

具体的にどうする場合にこういうことを考えるのかというと、折り紙では表現しにくい題材にぶつかったときです。たとえば筆者が好む題材の1つに「妖怪」がありますが、「のっぺらぼう」を折り紙で作ろうとすると困るところがあります。「目鼻口を省略した普通の人」ではないことが説得力をもちにくいからです¹⁾。イラストなら目鼻口のない人物を描けばそれですむのに、わざわざ折り紙で表現しなければいけないの?という気になったりします。ここには、表現としての折り紙とイラストが抱えている事情のちがいが表れているように思います。

こういうときには、折り紙とイラストが表現手段の1つとして自然に比べら

れることになります。そのことが、折り紙の特性を見いだすことにつながると思います。本稿では、折り紙と他の表現手段との対比の一例として、折り紙とイラストをささやかながら比べてみたいと思います。対比の観点として「デフォルメ」という表現スタイルに注目します。

デフォルメ表現の伝わりにくさ

「デフォルメ」という言葉は、もともと「変形」というような意味です。およそ何かを表現するにあたり、どんなかたちにしろ変形が加えられないということは、あまりないと思います。けれど表現方法としてデフォルメと言うときには、もう少し限定的な意味で使うことがあります。それは「リアル」と言われる表現の仕方と対置されるものです。

リアルな表現というのは、できるだけ見たままに忠実にあろうとする表現です。これに対してデフォルメというのは、作者によって意識的(ときに無意識的)な操作が加えられた表現のことを言います。リアルな表現は客観性が強く、デフォルメした表現は主観性が強いという言い方もできます。ただ両者を単純に分けることはできず、実際には多くの場合に客観性と主観性の度合いは調節されます。そうときには「デフォルメを押さえる」とか「リアル寄りに表現する」というような言い方がされます。

さて、デフォルメされた表現は主観性が強い分だけ自由度が高まります。それだけ表現の仕方が多様になりま

す。ここで1つの問題が出てきます。それは、その表現が見る人に伝わるのか?ということです。表現というものが発信する前提で行われているかぎり、見てくれる人のことを考えないわけにはいきません。すると作者の意図と鑑賞者の意識にズレが生じる場合があります。このズレは大きく分けると以下に挙げる2つの方向があるのではないかと思います。

- (1) デフォルメしているのにデフォルメしていることが伝わらない
- (2) デフォルメしていないのにデフォルメしていると受けとられる

そしてこの2方向へのズレが、折り紙とイラストという異なる表現手段において、それぞれに独特のかたちで表れるのではないかとというのが本稿で筆者が述べたいことです。

実例(1) 馬の頭における省略表現

ここまでの文章では具体性が無くてわかりにくいと思うので例を挙げてみます。

図1は折り紙(折り図)とイラストで表現した「馬の頭部」です。どちらも、いわゆるリアルな表現というよりはデフォルメがなされたものと言えます。さて、2頭の馬にはともに目がありません。それでは、これらは「目の無い馬」を題材とした作品なの

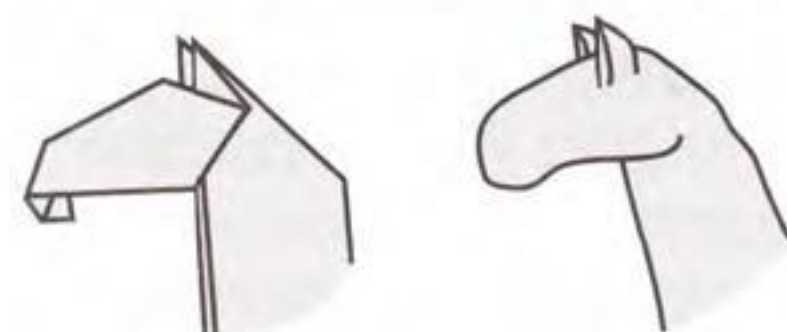


図1 目の無い馬? 目を省略した馬?

折り紙作品のデフォルメ表現 —イラストレーションと対比して—

Deformation in Origami: In Contrast to Illustration

尾川 知

Ogawa Tomo

でしょうか。もちろんそうである場合もあるでしょうが、一般的には「目を省略する」というデフォルメがなされた作品と見られることが多いと思います。2つを見比べてみましょう。折り紙の方は省略表現としてごくありふれたもので、目の無いことに違和感をもつ人は少ないと思います。対してイラストの方は、目の無いことに意識が向かう人が多いのではないのでしょうか。その傾向は、このイラストがもっとリアル寄りな表現になると、よりはっきりすると思います。このイラストを見る人は目の無いことに作者が何らかの意図を込めた表現だと受けとるかもしれません。折り紙の方は、何かの意図が込められているとは折り紙作品を見慣れている人でもあまり思わないのではないのでしょうか。見慣れていない人なら、目が無いことに意識が向かったとしても物理的・技術的制約の結果としか受けとらないかもしれません。その場合はデフォルメが伝わりにくい(1)の例と言えるでしょう。もちろん折り紙の技法で目を表現することはできますが、作者には目の無い表現を選ぶ自由があります。

ここで、さきほど挙げた「目の無い馬」を表現することを考えてみましょう。図1を「目の無い馬」を表現したものとしてみましょう。問題になるのは、目が無いのは意図的な表現であることが鑑賞者に伝わるかです。すでに述べたようにイラストでは伝わりやすい(ただし、そもそもの題材が「目の無い馬」なのか、別の意図で目を描かなかったのかは、わかりにくいこと

があると思います)ですが、折り紙ではなかなか伝わりにくいと思います。これは、デフォルメ(目を省略)していないのに、デフォルメしていると受けとられる、(2)の例と言えます。

ところで、こんな例を出すのはやや不自然に思われるかもしれません。目の無い馬を題材にしたいことなどあるのかと。たしかに実際にはこんなケースはあまりないかもしれません。ただ「本来あるべきものが無い」ことが特徴になっている題材というのはあって、そういうものに取り組むときにはこの問題が実感できます。妖怪は「正常なものとのズレ」が本質的な成立要件になっていることが多いので、このような問題が生じやすい気がします。「のっぺらぼう」の例のように。

実例(2) 馬の身体における誇張表現

さて、実例(1)は折り紙の表現が伝わりにくい場合でしたが、逆にイラストの表現の方が伝わりにくいこともあります。次はその例を見てみましょう。

図2は、馬を表現した折り紙(伝承作品「アクロバット・ホース」)とイラストです。どちらも身体の比率が本物の馬とはかなり異なっているように思えます。とくに脚の短さは極端に誇張されているように見えます。ここでこの表現の意図を考えてみましょう。これら

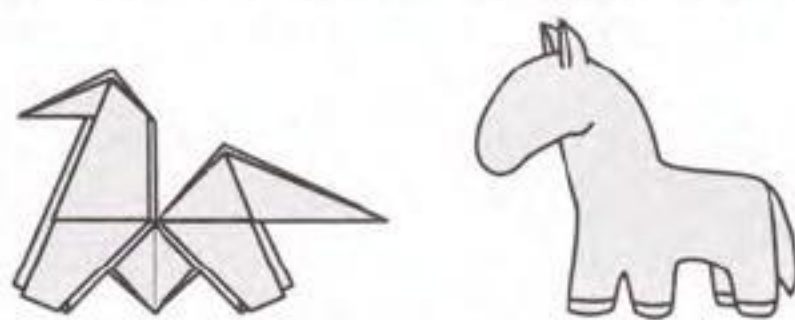


図2 脚の短い馬? デフォルメした馬?
デッサンの下手な馬?

の作品は「脚の短い馬」が題材となっているのでしょうか。それとも本来長いものである馬の脚を短く表現した点に作者の意図があるのでしょうか。イラストの場合は後者と受けとられることが多いと思います。ということは作者が「脚の短い馬」を題材にすることを意図している場合には、それを伝えるのに(2)の意味での困難が生じることです。また、写実でも誇張でもなく単なるデッサン力不足と受けとられることも考えられます。その場合は(1)の難しさの例と言えます。

折り紙の方はどうでしょうか。折り紙作品を見慣れている人なら図2で示した作品の脚が通常よりも短く意識的に折り込まれていることを見てとってくれることが多いと思います^[2]。意識的に折り込んでいると受けとってもらえれば、「脚の短い馬」を表現していることが伝わりやすくなると思います^[3]。

こうすることが創作するときの問題になるのは、「本来は短くないものを短く」あるいは「本来は長くないものを長く」表現することが必要な場面です。「手長足長」をイラストで表現しようとすると、「手と足の長さを誇張した普通の人たち」や「デッサンの下手な普通の人たち」になってしまうおそれがあります^[4]。

まとめと展望

以上、デフォルメの伝わりにくさという観点から折り紙とイラストを比べてみました。まとめると、デフォルメ表現をめぐる作者と鑑賞者のズレは「作者がわざわざしている感」が鑑賞

○尾川 知(おがわ・とも) = 1984年大阪府生まれ。折り紙歴はたぶん9歳頃から。2013年文学研究科修士課程修了(専攻は哲学)。第24回・26回週刊朝日似顔絵大賞優秀作品賞受賞。

本誌144号で紹介していただいた手の表現を自作に組み込んでくれる方歓迎。連絡不要。筆者は「手の目」に応用できないかなどと企み中。



者に伝わっているのかによるところが大きいのではないかと思います。折り紙の場合は省略や変形が行われていることを前提として鑑賞されるので、省略していないつもりのことまで省略していると受けとられ、わざわざしていることが伝わらないおそれがあります。イラストの場合は、写真や写真画の表現を念頭に置いて鑑賞する人には、デフォルメ表現は技術的な未熟としか受けとられないかもしれません。また、自由度が高すぎてかえって「わざわざしている感」が伝わりにくい場合があります。その点で、折り紙は物理的な制約を逆手にとって「わざわざしている感」を伝えられる可能性があるのではないのでしょうか。

このようなちがいがなぜ生じるのかについて、少し考えてみたいと思います。およそ表現は物理的な素材と切り離すことはできません。折り紙作品は折られた紙であり、イラストはインクや絵の具の集まりです。しかし、鑑賞する側がそれを意識しているとはかぎりません。むしろイラストの表現はそれを意識させないところで成り立っていると言えるかもしれません。ペン画をインクのシミとして見れば、その途端に絵に見えなくなってしまうでしょう。対して折り紙作品を鑑賞するときに、それが紙からできていることを忘れるということはほとんどないと思います。つまり表現と素材の認識が同時に成立しています。そのため「作者の意図が込められている」こと——あえて印象のよくない言い方をすれば「つくりもの」であること——を

積極的に示したい場合には、折り紙の方が有利なことがあるのではないかと、などと思います。このようなちがいがデフォルメ表現においては伝わりにくさのちがいとして表れているのではないのでしょうか。

さて、今回は完成した造形についてだけ注目しましたが、表現手段として見るなら造形に到るまでの過程を無視するわけにはいきません^[5]。また鑑賞者としてどういう人を想定するのかというのも興味深い問題だと思います。こうしたことについては、これから考えてみたいと思っています。

最後に申しそえておきますと、筆者の意図は「折り紙の限界」のようなものを指摘することにはありません(「イラストの限界」についても同様です)。むしろ、課題提起として受けとっていただけるか、逆にこんなことは問題にならないと批判の対象としていただき、それによって新たな作品が生まれるきっかけになれば、とても嬉しく思います。

[1] 下図参照。木下剛氏の御指摘により、筆者はこのことを認識しました。



[2] ただし、これはすべての折り紙作品に一概に言えることではないかもしれませんが。固有の事情として、この作品は尾の下から指で突き

上げることで空中転回して着地するというアクションを楽しむ作品なので、その機能性を失わせてしまうような加工がなされていると、そこに注意が向きやすくなるということがあります。とはいえそれを差し引いても、わざわざ短くしているという印象はイラストよりも伝わりやすいと思います。

[3] このことは、動物を題材とした折り紙作品の多くにおいて、脚の長さを決める工程が仕上げ段階での工程であることとも関わっていると思います。ある程度に複雑な折り紙作品になると「基本形の形成」と「仕上げ」という2つの段階がかなり明確に分かれることが多くなります。仕上げ段階ではぐらい折りを基本とした微妙な調整が行いやすいので細やかなニュアンスが表現しやすいと言えます。

[4] 下図参照。



[5] とくに折り紙の場合、物理的・幾何学的な制約と目指す形との引っぱり合いをつうじて最終的な造形へと導かれているところがあると思います。

折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

森末 圭

Morisue Kei

41冊目『新・おりがみランド』シリーズ 桃谷好英ほか・著

The "Neo-Origami Land" Series by Momotani, et. al.

この連載では、折紙学会図書館に所蔵されている資料の中から、興味深いものを選んでご紹介しています。折紙図書館の蔵書は、折紙探偵団ホームページから検索できます。詳しくは、<http://origami.gr.jp/Library/> にアクセスしてください。

誠文堂新光社より2000年から2006年にかけて全37巻にも及んで出版された名著『新・おりがみランド』シリーズを私は語らずにはいられません。なぜならばこのシリーズは私にとっても最も古い折り紙教本の記憶の1つであり、実際、その価値を誰もが認めざるを得ないからです。非常に主観的な書き出しになってしまいましたが、今回私は若手作家勉強会の一員として“児童が折り紙を楽しむきっかけになる本”という勝手な視点からこのシリーズの魅力をご紹介します。

児童が地域の図書館などで児童書の中に見つけることができる点が最初の魅力です。全37巻は表1のように非常に豊富なジャンルで構成されていて、恐竜や昆虫といった男の子向けから小物やドールハウスといった女の子向けを意識したものまで幅広くカバーした作品の折り方を各巻約70ずつ収録しています。同じく誠文堂新光社から出版された“無印”の『おりがみランド』シリーズ(以降旧シリーズ)にも図書館などで出会えますが、これは2000年頃には絶版となっていました。そこで判型を小さくし、幾つかの新作を追加して再編されたのが『新』シリーズです。現在

では新旧シリーズ共に絶版となっており、入手することは困難です。

折り紙に憑りつかれた児童はきっと読み飛ばしていることと思いますが、多くの巻には通常の意味での“学習”ができるコラムが掲載されているということも魅力の1つです。例えば、第8巻ではカニには発生というものがあり、脱皮を繰り返して姿を変えろということ、第18巻では黄金長方形から最大正方形を切り取っても黄金長方形になるということ、第1巻(図1)では重心や復元力など紙飛行機の飛ぶ詳しい条件について解説がされています。

以上はこのシリーズの“一般的”な外観です。これだけでもその価

値を見出すには十分ですが、折り紙に毒された存在として私が指摘しなくてはならない、このシリーズの最大の特徴であり魅力があります。それは児童向け折り紙教本としては他に類を見ない、発展的な内容を含んでいるという点です。新旧シリーズ共に、多くの巻を執筆している桃谷好英氏は第22巻の序文で次のように述べています。「折り紙の虫も羽と6本の足を表現すると折り方が複雑になります。幼児でもカブトムシとカナブンでは区別できますので、子供の折り紙だからこれくらいでよいとは言えないのです。」(p.17) 実際、シリーズのどの巻を眺めてもかなり“難しそう”(≠難しい)な作品が沢山掲載されています。しかしながら同時に他のどんな本にもない“格好良さ”があるのです。第8巻には8本足のカニ、第2巻には蒸気機関車、第16巻にはブラキオサウルス骨格。簡単に折れてなおかつ格好良い作品はそう易々と作れるものではありませんがこのシリーズにはそれが詰まっているのです。巻の中で最初の作品は紙を数回折る程度の非常に簡単な作品で、収録されているものの全てが複雑な作品というわけではあり

第1巻	空とぶ鳥のおりがみ	第20巻	くす玉おりがみ
第2巻	乗りものおりがみ	第21巻	はり絵おりがみ
第3巻	花のおりがみ	第22巻	おりがみ虫の世界
第4巻	おりがみ手品	第23巻	動くおりがみ
第5巻	箱をつくろう	第24巻	鶴のおりがみ
第6巻	立体をつくろう	第25巻	おりがみ絵はがきとグリーティングカード
第7巻	虫のおりがみ	第26巻	おりがみバラエティー
第8巻	魚のおりがみ	第27巻	おりがみ暮らしの小物
第9巻	つかってあそぼう	第28巻	おりがみ入れ物いろいろ
第10巻	箱バラエティー	第29巻	恐竜のおりがみ3
第11巻	動物のおりがみ	第30巻	おりがみ日本の四季
第12巻	おりがみ日本むかしばなし	第31巻	おりがみ遊園地
第13巻	きりこみおりがみ	第32巻	おりがみガーデニング
第14巻	恐竜のおりがみ1	第33巻	おりがみ飛行機
第15巻	おりがみドールハウス	第34巻	犬のおりがみ
第16巻	恐竜のおりがみ2	第35巻	人形のおりがみ
第17巻	おりがみパッチワーク	第36巻	くらしの中のおりがみ
第18巻	おりがみユニット広場	第37巻	くらしを飾るおりがみ
第19巻	立体からくり		

表1 『新・おりがみランド』全37巻 1～4, 7, 8, 12, 13, 15, 22, 26, 30～37巻＝桃谷好英著 / 21, 25巻＝桃谷好英・澄子著 / 11巻＝桃谷好英・英樹著 / 5, 6, 9, 10, 17～20, 23, 24, 27, 28巻＝布施知子著 / 14, 16, 29巻＝川畑文昭著 1～4, 7, 8, 12, 13, 15, 22, 26, 30～37巻＝桃谷好英著 / 21, 25巻＝桃谷好英・澄子著 / 11巻＝桃谷好英・英樹著 / 5, 6, 9, 10, 17～20, 23, 24, 27, 28巻＝布施知子著 / 14, 16, 29巻＝川畑文昭著



図1 第1巻『空とぶ鳥のおりがみ』

○森末 圭（もりすえ・けい）＝1991年生まれ。若手作家勉強会の活動では主に「集団創作」に関わっています。集団で折り紙創作を楽しむのは意外と難しいです。



ません。また、各作品は前の頁で折った作品が後の頁の参考になるように配置されています。例えば第33巻の幾つかの飛行機のモデルは1つの基本形を共有しており、徐々に仕上げを複雑にしていくことで多彩な造形を可能にしています。このように、少しでも複雑さを緩和するために効率的な折り方を与えることでどの作品も数頁で完成するようにできていることはひとつの成功と言えましょう。

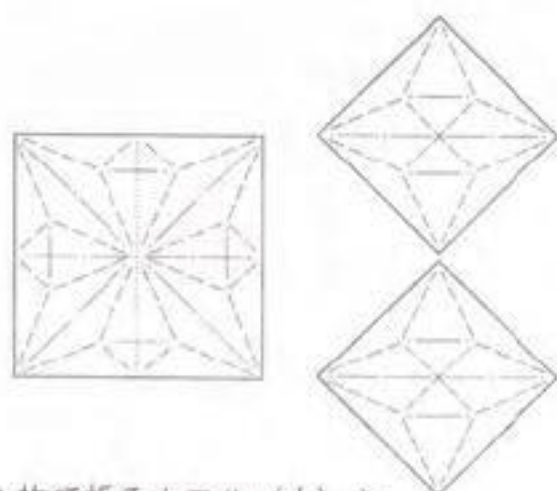
とはいえ実際のところ、このシリーズはとても易しいとは言えません。所々にミスリーディングな表記もあり、“中割り折り”や“かぶせ折り”といったワードが当然のように現れ、仕舞いには展開図折り表現まで登場します。これを現代のスーパーコンプレックス折り紙の立場から解釈すると、当時の折り紙技術の革新が背景に見えてきます。桃谷氏は第7巻(p.17)で「自由に形を表現するためには、いろいろな折り方を使う方が、ほんとうは、よりよくできます。」と述

べています。『ビバ!おりがみ』(1983年、本誌109号参照)をはじめとした、旧シリーズ当時の先端的な創作折り紙の実情をほのめかしているのでしょう。また、このシリーズには8等分や12等分(ときには32等分)グリッドを工程1でいきなり用意させる作品が多く採用されているのも特徴的です。今でいうボックスプリーティングという高等技術が(半ば強引に)児童書で指南されていたのです(図2)。

その一方で、このシリーズは初学者に向けて折り紙の基本的な思想を提供する役割を果たしているという魅力もあります。桃谷氏は「折

り方の一段階ずつは、ただ紙を折るだけですから、困難なことはいはず」(第35巻p.17)、「できあがりの見かけの複雑さを恐れないでください。」(旧シリーズ『秋の花のおりがみ』p.7)等のように、いくら複雑になっても紙を折ることの本質は“規則的に1枚ずつ折る”という単純な場所にあるということを強調しています。そして決して見逃してはいけないのが、驚いたことに、折り紙創作についても言及しているということです。第1巻では「この本にある折り方を少し変えただけで、新しいものができたと思ってはいけません。創作というのは自分のイメージ通りに実際の形を実現することですから。」(p.17)と述べており、創作については少しばかり厳しい姿勢がうかがえます。加えて第7巻では2項を割いて「創作技術」について指南しているということが大変珍しいです。この第7巻ではムカデやクモのようなカドの多い対象を作るのに鶴の基本形を幾つか複合して簡単に作るという、初心者にとっては非常に有効な手法が示されています。この類推から、2羽のツルの複合と伝承のカエルの同等性を示し、1枚の紙でも複雑な造形が可能であるという切り口で創作技術が書かれています(図3)。ここでは顕わに“展開図”や“構造”といった言葉は用いていませんが、こういった背景を易しくしかも感覚的に理解させる、非常に良い例だと思います。

以上のように、『新・おりがみランド』はそのアクセス性、教育的価値、収録作品、創作への橋渡し等といった観点からみて、初心者から中級者には是非とも触れてもらいたいものです。



1枚で折るカエル(左)と、ツル2羽をつなぐカエル(右)。両方とも折って広げたときのおもな折り目を示しました。

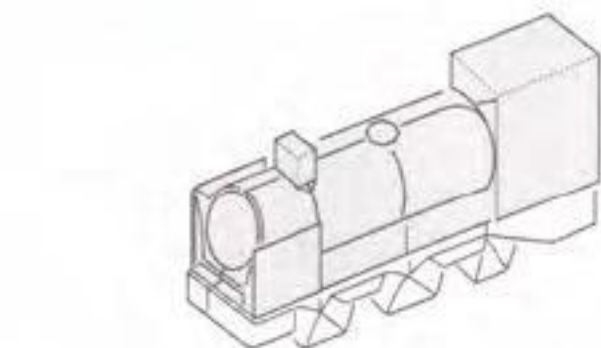
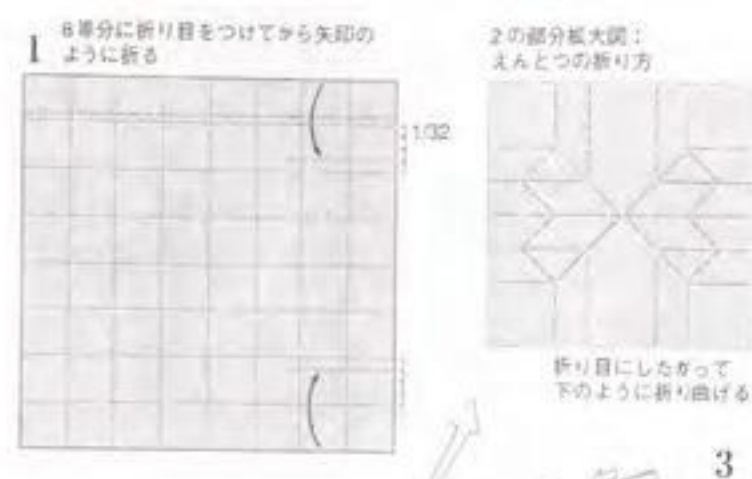


図2 第2巻より蒸気機関車。ボックスプリーティング技法と展開図折りに近い説明が確認できる

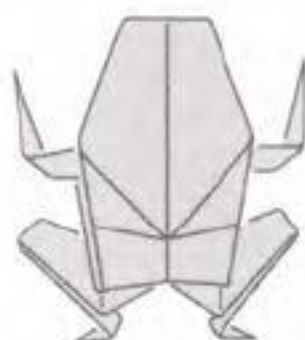
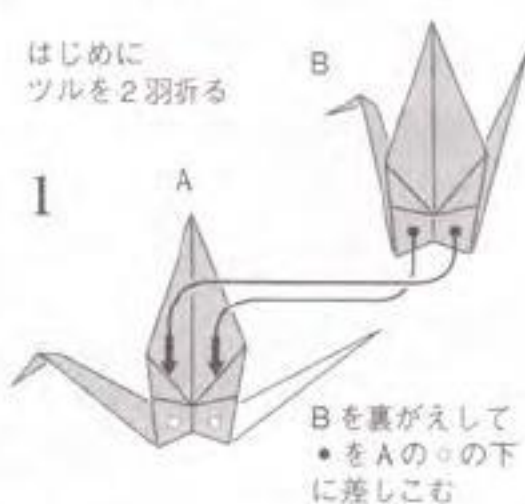


図3 第7巻の創作技法に関する図解。同じ形が違った枚数の紙から得られることが示されている。「虫を折るにはツルがいちばんよいというわけではありません。」と添えられている

ぼくらは 折紙探偵団

Here We Are, THE ORRIGAMI TANTEIDAN

第12回 折り紙と音楽の深い(?) 関係

Profundity of the Relationship between Origami and Music

このコーナーでは、折り紙に関するちょっとした疑問を探求し、ちょっと面白い雑学的な豆知識をご紹介します。読者からの疑問、質問、追加の情報も受け付けていますので、お気軽にwebman@origami.gr.jpまで電子メールでお寄せください。

羽鳥公士郎
Hatori Koshiro

小 松英夫さんからの情報によると、3月27日にNHKで放送されたテレビ番組「schola 坂本龍一 音楽の学校」で、折り鶴の展開図を基に作曲された曲が紹介されたそうです。

この日の番組のテーマは「20世紀の音楽」でした。20世紀に作曲されたクラシック音楽では、五線譜ではない図形で音楽を表した「図形楽譜」が用いられることがあります。図形楽譜では演奏家が図形から音楽を読み取りますが、この番組では、図形を基にして作曲するという課題に、作曲を学ぶ学生が取り組みました。

折り鶴の展開図をモチーフに選んだのは、3人の学生の1人、芳澤奏さんでした。一般的な図形楽譜は、五線譜と同様、横軸を時間、縦軸を音の高さとして読みます。ところが芳澤さんは、左下の頂点からの距離を音の高さとし、折り手順を時間軸として、折り線の交点から音を読み取っていました。

音楽は基本的に時間芸術であるわけですが、折るという行為も時間的な営みであって、折り紙の展開図には折り手順としての時間が記録されていると考えることもできます。その時間を音楽に置き換えるというのは、折り紙の展開図ならではの、すばらしい着眼点だと言えるでしょう。

さ て、20世紀の音楽と言えば、その特徴の1つに、打楽器を多用することが挙げられます。例えばジャズやロックでは、ほとんどの場合ドラムセットが欠かせません。クラシック音楽では、鞭の音がする楽器や風の音がする楽器をはじめ、新しい打楽

器が次々と作られ、曲中で使用されています。

叩いたりこすったりして音が出れば何でも打楽器になるので、20世紀以降の音楽では、紙も楽器になります。紙を使うことで有名な作曲家といえば、中国出身の譚盾（タン・ドゥン）でしょう。なにしろ、2003年には紙とオーケストラのための「紙楽器のための協奏曲」まで作曲しています。

譚は、映画『グリーン・デスティニー』の音楽でアカデミー賞とグラミー賞の両方を受けたこともある、現代を代表する作曲家の1人です。

★トリビア1★ 紙とオーケストラのための協奏曲がある

主にニューヨークで作曲を学びましたが、生まれ故郷の湖南省で体験したシャーマンの儀式をインスピレーションの源の1つとしており、紙、水、石といった「オーガニック」な楽器をよく用いています。

紙楽器のための協奏曲は、ロサンゼルス・フィルハーモニックの委嘱で



譚盾作曲「紙楽器のための協奏曲」のDVD

作曲され、同楽団の現在の本拠地であるウォルト・ディズニー・コンサートホールにこけら落しで初演されました。その後、世界各地で演奏されており、日本でも2005年にNHK交響楽団が演奏しています。

使われている紙楽器はさまざまで、それを3人の打楽器奏者が演奏します。紙を丸めたり破ったり息を吹きかけたり、紙管や段ボール箱を叩いたり、天井から垂らした大きな紙を揺らしたりバチで打ったりします。奏者の振る舞いがダンスのようで、視覚的にも楽しめる音楽です。

残念ながら紙を折る音は使われていませんが、譚は、この曲のDVD(*1)に収録されているインタビューの中で、子どもの頃にシャーマンによる「音楽の折り紙 (music origami)」を楽しんだと述べており、紙という1つの素材から多様な音が生まれるところを折り紙に例えています。

この曲の作曲にあたっては、紙を使った音が50種以上集められたそうです。それだけの種類があれば、紙だけで演奏する音楽を作曲することも可能でしょう。実際、紙の音だけを使った曲がいくつか作られていますが、なかでも特筆すべきは、折り紙作家としても知られているポール・ジャクソンの「ペーパーミュージック」です。

ペーパーミュージックの歴史は1978年に遡ります。当時、ジャクソンはランチェスター科学技術大学（現コベントリー大学）で美術を学ぶ学生でした。前衛音楽やパフォーマンスアートに関心を持っていたジャ

○羽鳥公士郎(はとり・こうしろう) = 1972年東京生まれ。翻訳家・折紙研究家。折紙関係の翻訳もするが、本職はIT(情報技術)関係。



クソンは、サウンドアーティストであるマックス・エストレーの指導の下、幼少の頃からの趣味であった折り紙を音楽と結びつけます。

ジャクソンは、1982年までペーパーミュージックの短いパフォーマンスを盛んに行い、1991年にはモダンバレエと組み合わせた40分のパフォーマンスを上演しています。ペーパーミュージックはその後、米国のシャーロットで開かれたSouth East Origami Festivalなど、折り紙のイベントでも何度か演奏されています。

2005年、ザルツブルクのハンガー7で大規模な折り紙展「Masters of Origami」が開催されました。それに際し、ジャクソンはペーパーミュージックのCDを作成するよう依頼されます。ハンガー7のスポンサーであるレッドブル社にはレッドブル音楽アカデミーがあり、その協力の下、同年2月にケルン近郊のスタジオで、3楽章からなる「ライブ組曲」が録音されました。

また、ジャクソンは、そのとき録音されたおよそ200種の音素材をリミックスして曲を作るよう、何人かの音楽家に呼びかけました。これらの素材のなかには、紙を叩いたり揺らしたり丸めたり破ったりする音はもちろん、折り紙作家らしく、紙鉄砲を鳴らす音が含まれています。

同展覧会のために作成されたCDには、「ライブ組曲」に加えて、4人の音楽家によるペーパーミュージックが収録されています。前衛的な曲もありますが、ダンスミュージックのような曲もあります。その一部は、ジャクソン

音楽家でもあり(*3)、2005年の折紙探偵団コンベンションの懇親会ではギターループのパフォーマンスを披露してくれました。

ジャクソンが作成したCDを聞いたロビンソンは、自分でペーパーミュージックを作曲するだけでなく、所属する音楽グループ「CTコレクティブ」を通じて、同じようなCDを作ることを思い立ちます。このグループでは、メンバーの1人が設定したテーマに沿った曲を各メンバーが作成し、それをまとめたアルバムを共有しています。

ロビンソンの提案したプロジェクトには、ジャクソンとロビンソンを含め10人の音楽家から10曲が集まり、

ロビンソンがジャケットを作成して、2007年にCD「Paper Music」が完成しました。CTコレクティブのウェブサイト(*4)で全曲を聞くことができます。

ロビンソンの新しい本『Amazing Geometric Origami』にはDVDが付属していますが、そのBGMにもペーパーミュージックが使われているそうです。紙の音で作られた音楽は、紙を折るときのBGMに最適ではないでしょうか。紙の音楽はほかにもあるでしょうから、ぜひお気に入りの曲を見つけてください。

参考URL

1. <http://www.opusarte.com/details/OA1013D>
2. <http://www.papersonics.com/downloads.htm>
3. <http://www.looping.me.uk/>
4. <http://ct-collective.com/index.cfm?page=music&albumid=25>

★トリビア2★

ポール・ジャクソンとニック・ロビンソンは作曲もする

のウェブサイト(*2)で聞くことができます。

このウェブサイトには、展覧会の後に作曲された曲もいくつかアップロードされています。その中に、もう1人、折り紙作家の名前を見つけることができます。ニック・ロビンソンです。実は、ロビンソンはプロの音



ポール・ジャクソンなど作曲「Paper Music」のCD



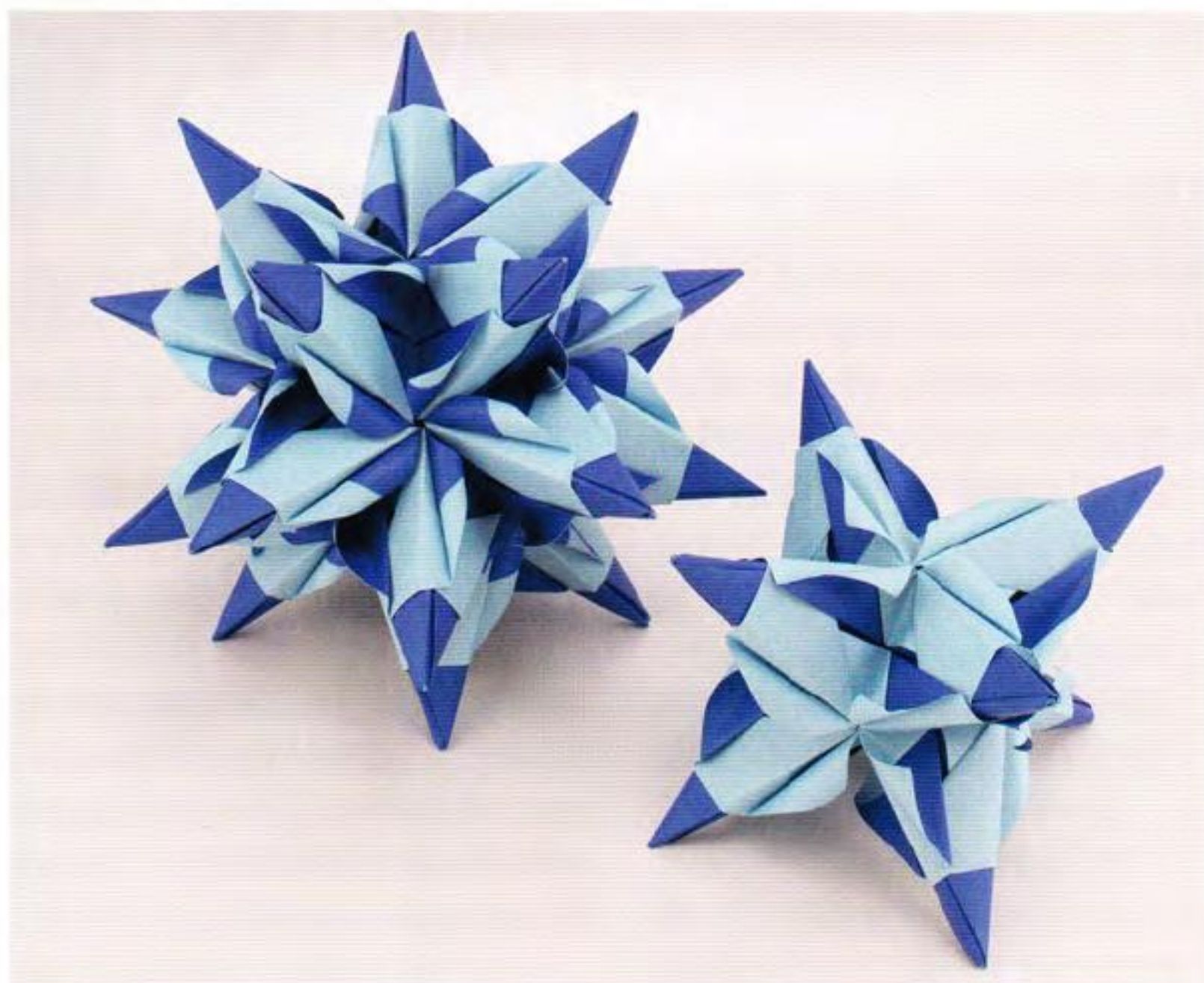
ニック・ロビンソンなど作曲「Paper Music」のCD

今号の折り図・展開図掲載作品より

解説：北條高史 (P.20-21)

Models Based on Diagrams and Crease Patterns of This Issue Comments: Hojyo Takashi (P.20-21)

イキモノたちが一気に、大挙して姿をあらわし始める時期。手指表層の細胞の入れ替わりを感じ取って、皮膚呼吸を意識しながら、今の瞬間にしかできない作品をつくってゆく。



「フリルスター」作：布施知子(P. 4)

Frilled Star: Fuse Tomoko (P.4)

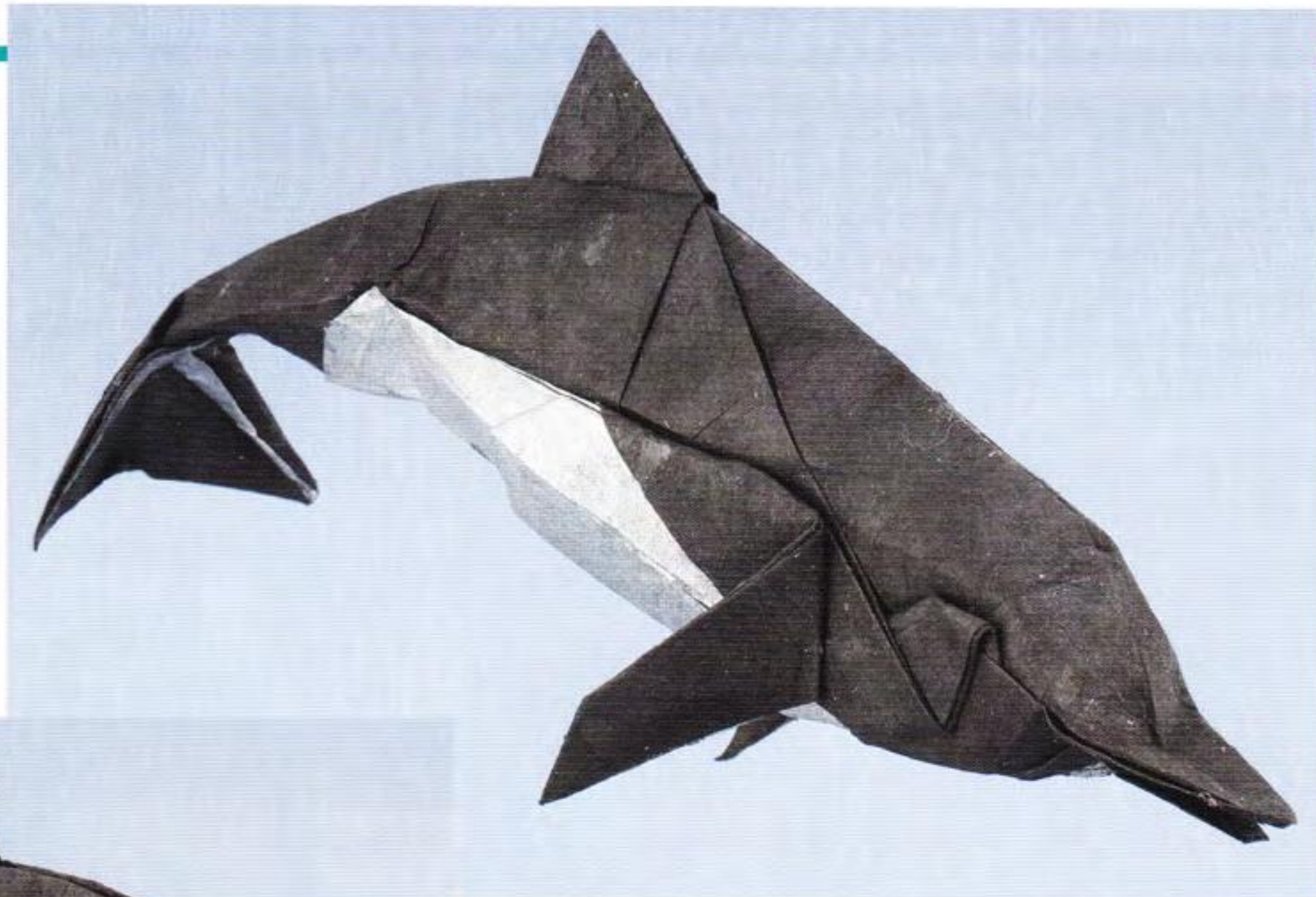
■基本状態は折り図ページに掲載されているように、直線的な折り作業で構成されています。しかしそこに曲面加工を施すと、この写真のごとく印象が一変。トゲトゲの先端から触手を出してきそうなプランクトンか、はたまた、ファッショナブルなエイリアンが乗り込む前衛的デザインの宇宙船か。作例では比較的落ち着いた雰囲気の色合いとなっていますが、そこを敢えて、いろいろな模様やエンボスを持つ紙で挑戦してみると、意外な結果が得られるかもしれません。

「ティーバッグのウサギ」作：小野友彰(P.8)

Tea-Bag Rabbit: Ono Tomoaki (P.8)

■ティーバッグの包み紙を使った作品としては、前川淳氏の「ティーバッグのトナカイ」がよく知られています。しかし最近、多くの愛好家によるさまざまな新作が、凄まじいスピードで登場しているようです。再流行の火付け役となったのが、今回紹介するウサギの作者である小野氏。本作では細かい作業が続くところが要注意ですが、大量生産してコレクションするのにぴったりの完成サイズが得られます。

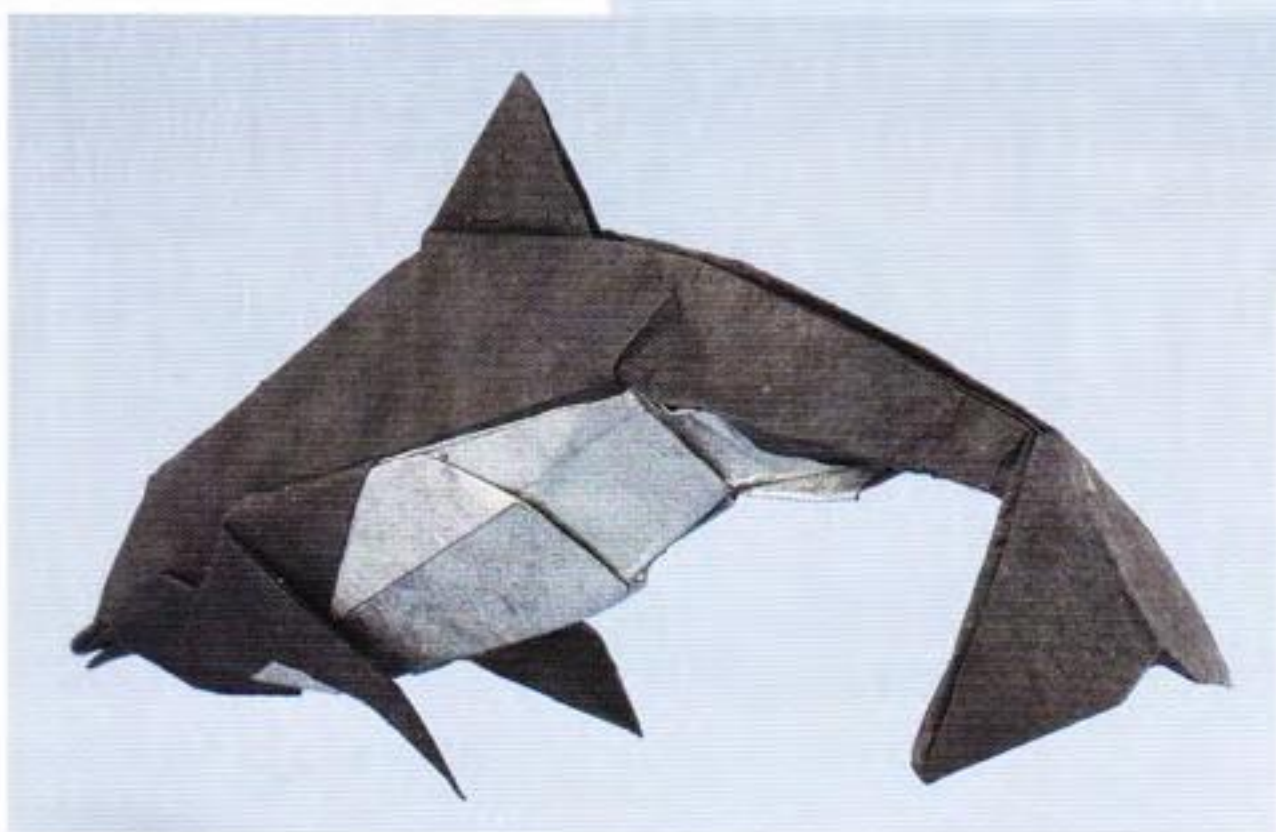




「イルカ」 作：川畑文昭(P.26)

Dolphin: Kawahata Fumiaki (P.26)

■水流を切り裂く弾丸のような頭部。さらに全身にわたって骨太な印象の、重量感あふれる曲面構成。インサイドアウトの複雑な作品では、「表裏の色が異なる上に、薄さと強靱さも兼ね備えた用紙」が必要になることが、悩みでもあり楽しいところです。「徹底的に探し回る」「貼り合わせる」「片面を塗装する」など、自分に合った紙をさまざまに模索してみましょう。



「カマキリ」 作：今井幸太(P.36) Mantis: Imai Kota (P.36)

■複雑な形状の題材を創作する際に、何を表現し、どこを諦めて切り落とすのか。折り紙では何がやりやすく、何が困難なのか。折り紙以外の造形分野と比較したときの「技術的な観点での不自由な印象」は、急速に減ってきているのかもしれませんが、「努力と発想力で乗り越えられる範囲」を超えた部分で、これから何をするのか。次々に登場する気鋭の若手作家を見ていると期待が高まります。



第14回折紙探偵団関西コンベンションレポート

Report: The 14th Origami Tanteidan Kansai Convention Report

■地方コンベンションとしては開催最多を誇る関西コンベンション。初期の頃は開催地が転々とした事もあったが、近年は代表の立石浩一氏を中心に、神戸女学院大学を会場として安定した運営をみせている。また、関西オリジナルルールもいくつかある。たとえば、人気作品コンテストの商品は翌年のコンベンション参加無料チケットだ。関西らしい味わいを保ちつつ、15、20と回を重ねる事を期待したい。



Yoshioka Yasuhiro
Model: Jason Ku

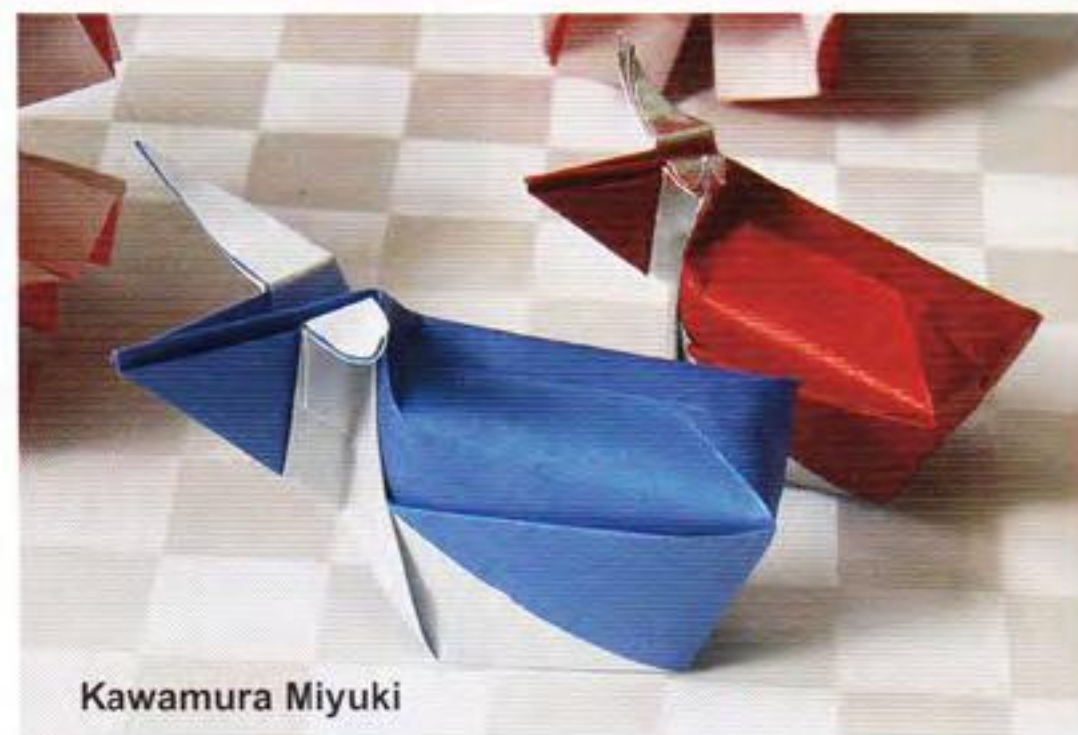
▲関西名物の実物大折り紙、今年はジェイソン・クー氏の「自転車」



▲全体会会場。今年も120人程が集まった



Ono Tomoaki



Kawamura Miyuki



Maekawa Jun



Inayoshi Hidehisa



Minamijima Kazuhide



Kamo Hiroo



▲箸袋の講習をする稲吉秀尚氏。最近箱の創作にも力を入れている



▲懇親会会場は、おなじみの「マンダリンパレス」。霞誠志氏が音頭を取って乾杯



Sugimoto Masako, Yoshida Jun
Model: Tsugawa Mio



Yamaguchi Yukihiro



Iwasa Yuhei



▲木村良寿氏のはこ動物シリーズの講習はいつも人気



Kawamura Miyuki



▲ティーバッグ折り紙の講習をする小野友彰氏と、受講する前川 淳氏



▲おりがみはうすの展示。本誌で紹介した作品などが並び

大学折紙サークル交流会レポート(P.38)

Report: The Inter-College Origami Circles Assembly

■最近、各大学で折り紙サークルの設立が増えている。そんな中、3月22・23日、湯島地域活動センターで大学折紙サークル交流会が開かれた。交流会は東大のOrist初代代表、西村光平氏の呼びかけに端を発し、全国7つのサークルから34人が集まった。



▲工藤 匠・作

■展示は半分以上が創作モノで、若い折り紙作家が次々と育っているようだ。創作モノ以外でも、様々なジャンルを折りこなす者が多くいた。イベントとして創作部門と制作部門に分かれての展示作品人気投票も行われていた。



▲ORUXE(東北大学)の説明に聞き入る参加者たち



▲新井悠介・作



▲小木曾浩也・作



▲折禅(慶應大学)・作



▲作品展示会場では各大学の力作が並んだ



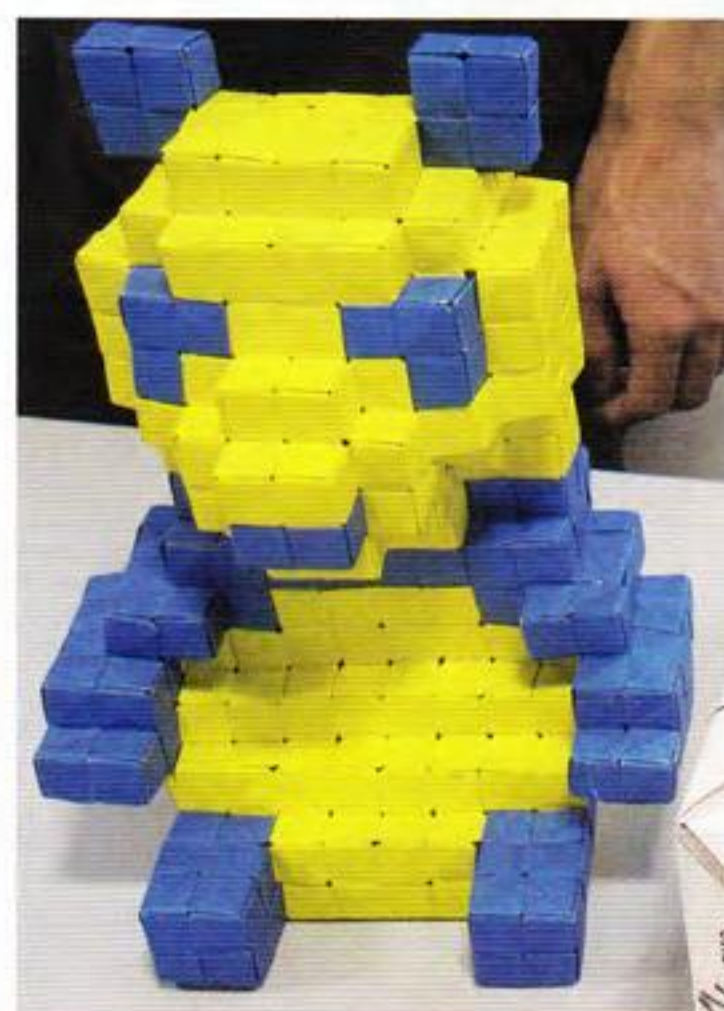
▲折禅(慶應大学)・作



▲内藤 優・作



▲大野哲寛・作



▲水野 翔・作

折紙探偵団東京友の会例会より

From the Regular Meeting of Origami Tanteidan Tokyo Group

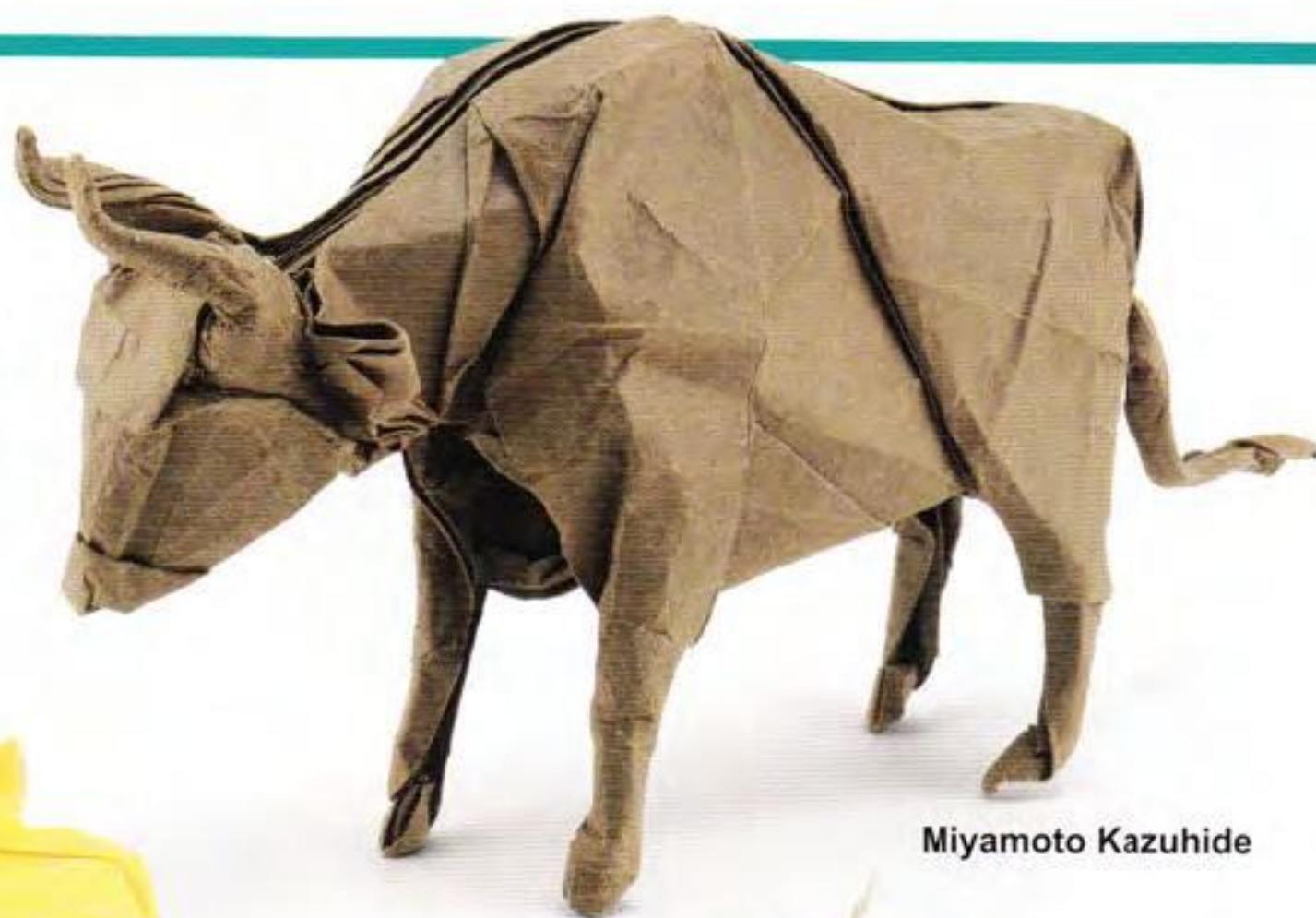
■4月の定例会では、14人の参加者が36点にも及ぶ新作を発表した。中には、1人で7点から10点も発表した強者もいる。全作品は、東京友の会ブログでご覧いただける。興味のある方は是非見ていただきたい。<http://www.origami.gr.jp/ttt/>



Kimura Yoshihisa



Inoue Takaya (Age 14)



Miyamoto Kazuhide



Mineo Shotaro (Age 13)

Origami ATC研究会より

To the Participants of the Workshop for Origami ATC

■ATCとは、アーティスト・トレーディング・カードの略。2.5×3.5インチ(約64×89mm)のカードに好きなように表現して、交換するというものだ。Origami ATC研究会は、JOASホールで2ヶ月に1回位開かれている折り紙を使ったATC愛好家の集まりだ。会では、各自制作してきたカードの交換や情報交換をしたり、全員で同じ材料を使ったカードを作って比べたりしている。参加資格など特にないので、お気軽に参加いただきたい。(要事前登録) <http://www.origamihouse.jp/informations/joascourse/index.html>



▲4月17日の研究会で講習されたワンピースのカード



▲参加者同士で交換したカードの一部。交換会は、郵送参加も受け付けている(右枠内参照)

Origami ATC交換会(2014年6月5日)の郵送参加方法

◆作品規定

- ・2.5×3.5インチ(約64×89mm)で作成する。
- ・折り紙の要素を1つ以上入れる。
- ・同じデザインのカードを複数作る。
- ・定形郵送するため、厚みは8mm以下にする。
- ・テーマは特になし。
- ・裏面には、A.作品の題名と、B.作者名(ハンドル可)、C.使った折り紙作品の名前と創作者名、又は参考文献名とその著者名の3つを必ず記入。

◆応募方法

- ・Origami ATCと同じデザインで3枚(1口分)作り、宛名を記入して82円切手を貼った返信用封筒を同封して、おりがみはうすへ送付する。
- ・返信用封筒は、「長形3号(120×235mm)」を使うこと。

Origami Artist Trading Card

Title:	大輪のバラを君に。
Name:	スタッフhanako
HP/ブログ:	スタッフhanakoの おりがみはうす日記 http://ameblo.jp/hanako-origami/
作品について 西沢城の香花名・お品名を記入 (お品名は10文字以内で記入してください)	
バラ (山口 真・作)	
『すてきな花の折り紙』(四角)より	
2014年1月15日	

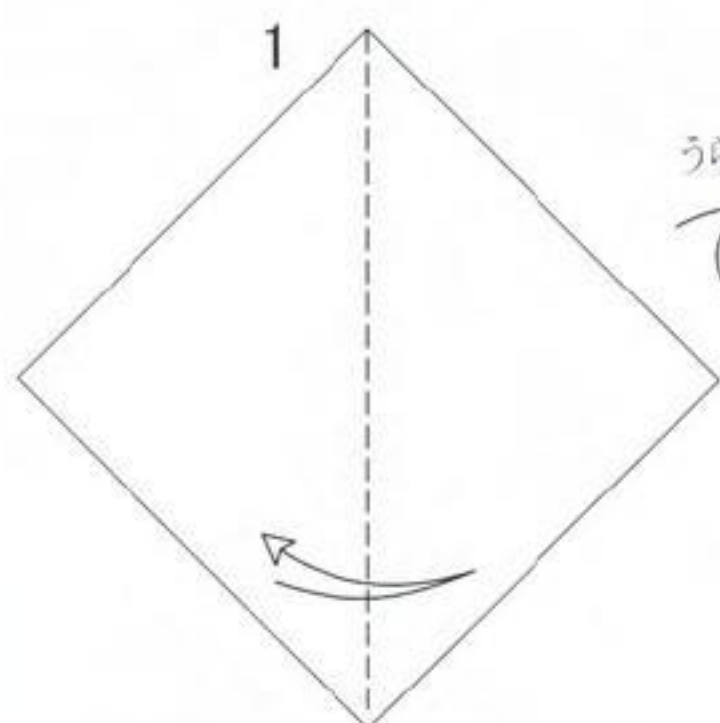
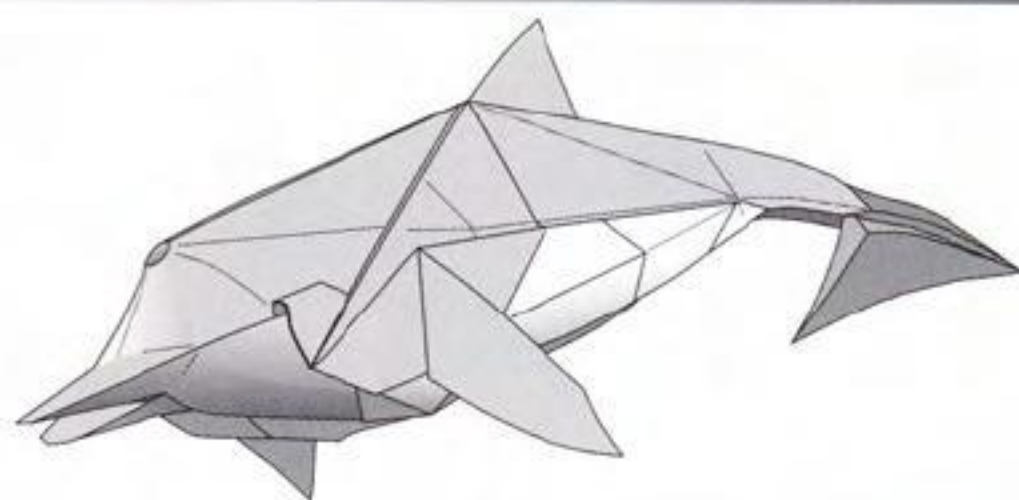
▲裏面表記の例

▲この黒枠が2.5×3.5インチ(約64×89mm)

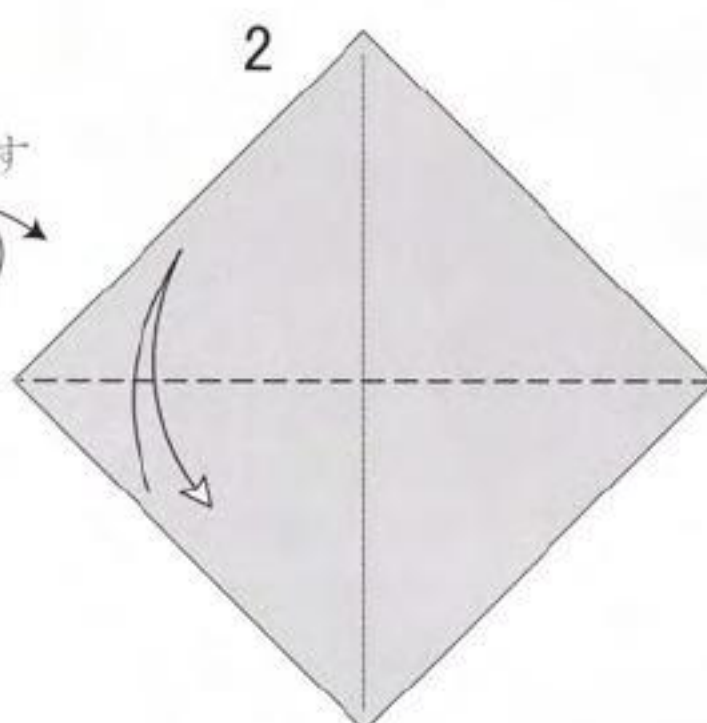
イルカ Dolphin 川畑文昭

2013/8 Creation
2014/3 Drawing

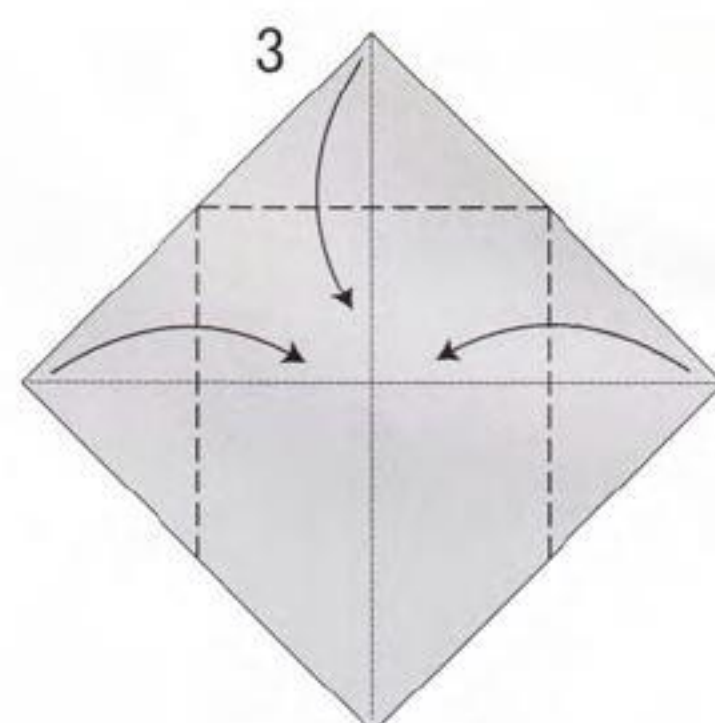
Kawahata Fumiaki



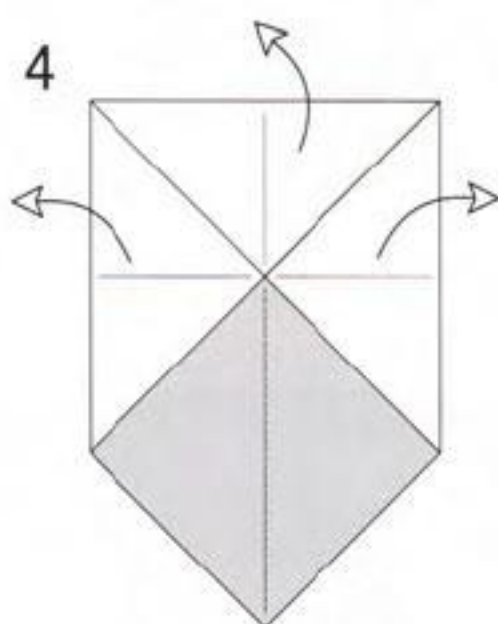
折りすじをつける



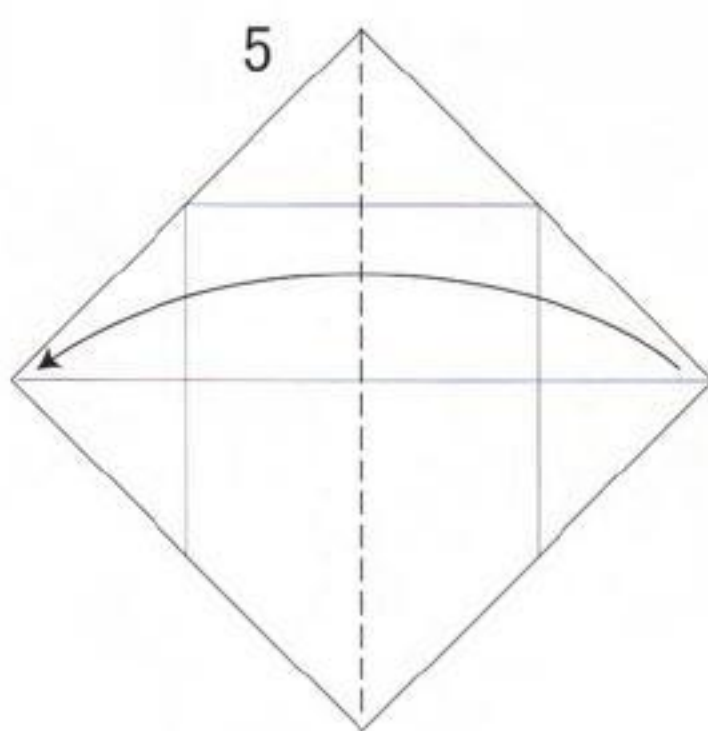
折りすじをつける



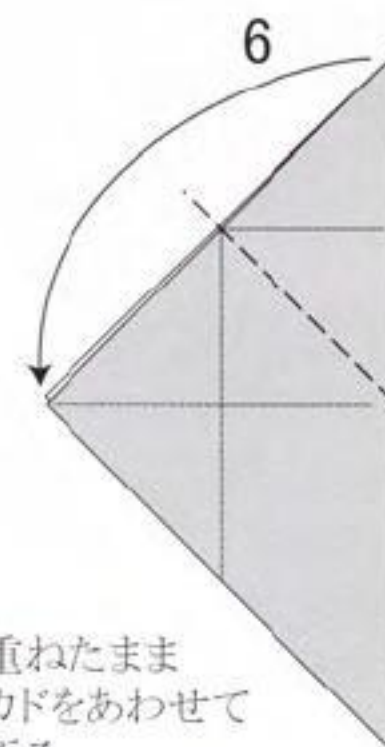
3箇所のカドを
中心にあわせて折る



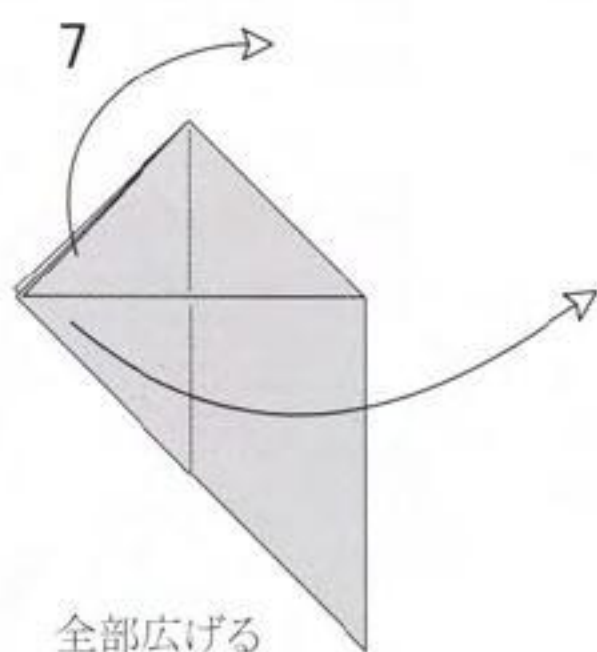
戻す



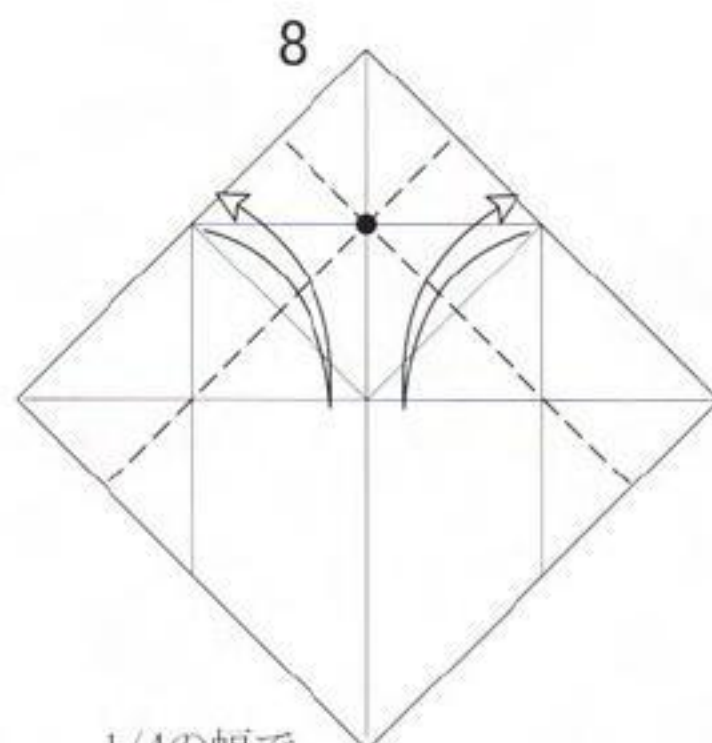
半分に折る



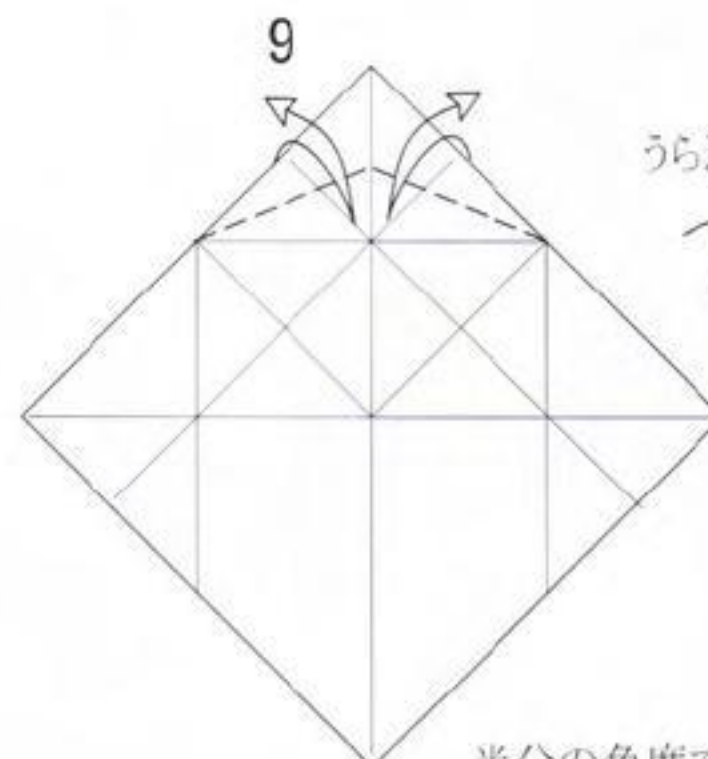
重ねたまま
カドをあわせて
折る



全部広げる

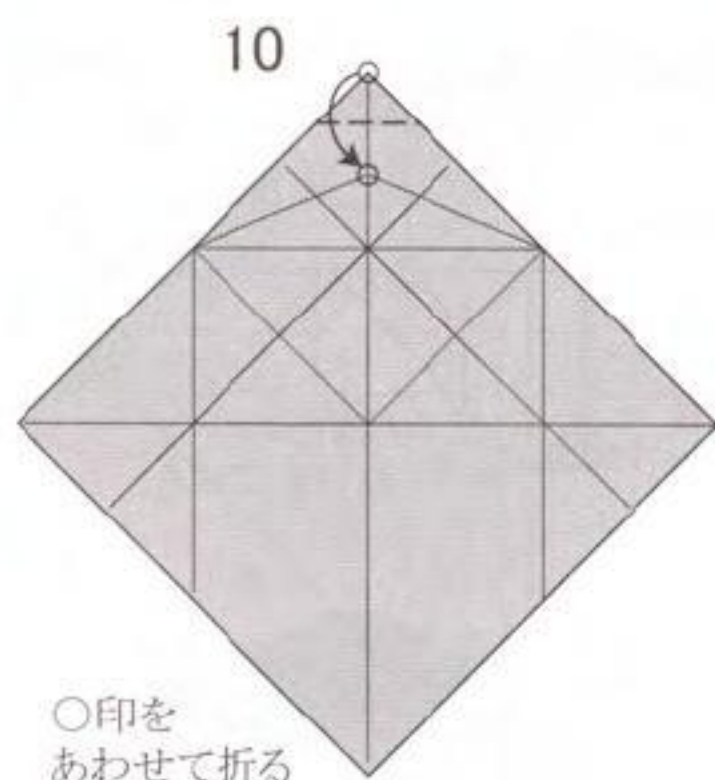


1/4の幅で
折りすじをつける

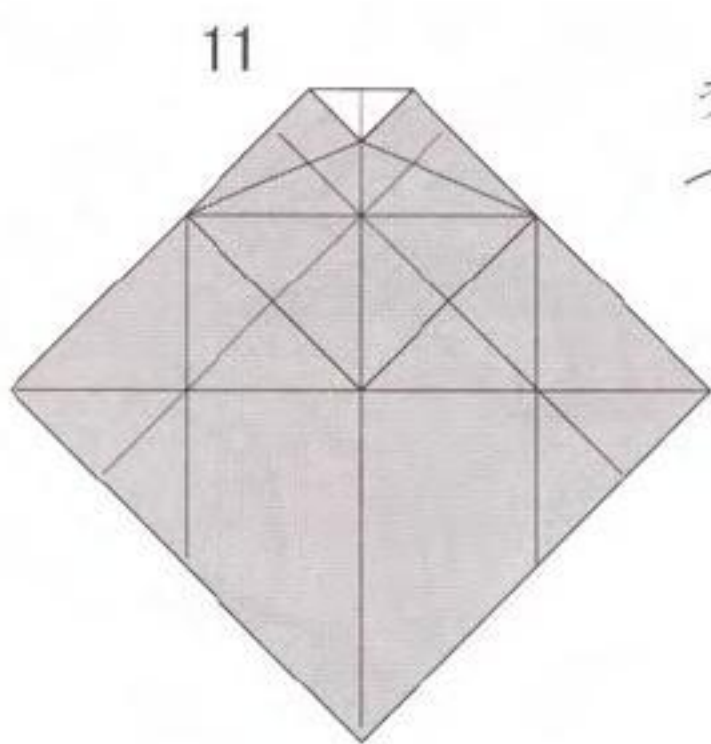


半分の角度で
折りすじをつける

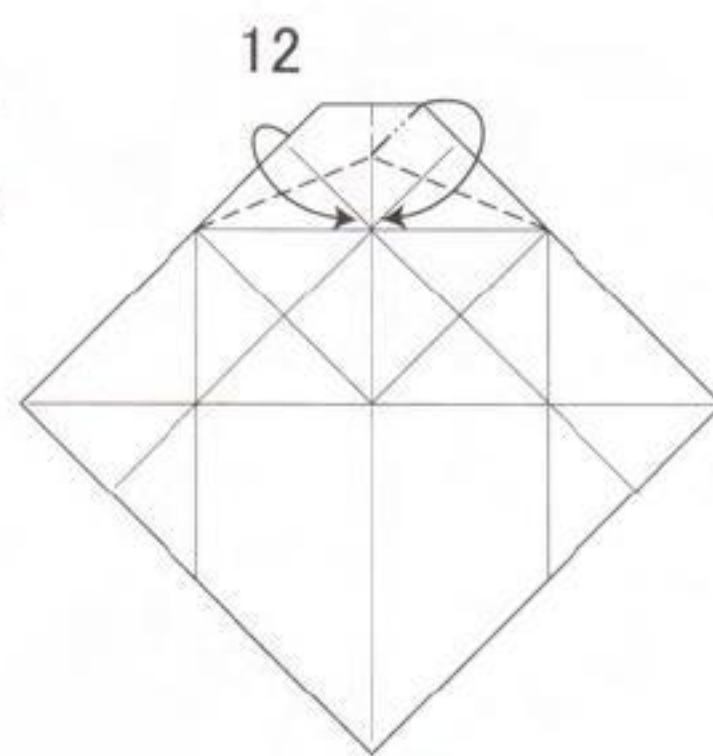




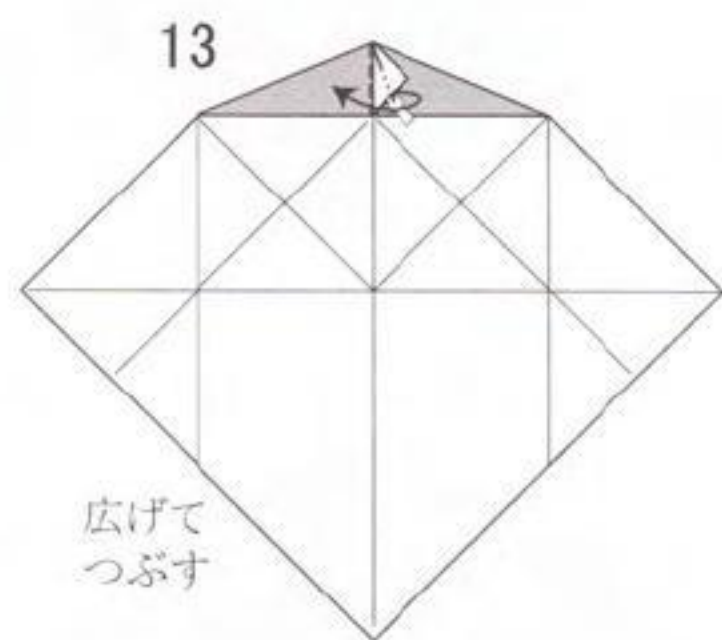
○印をあわせて折る



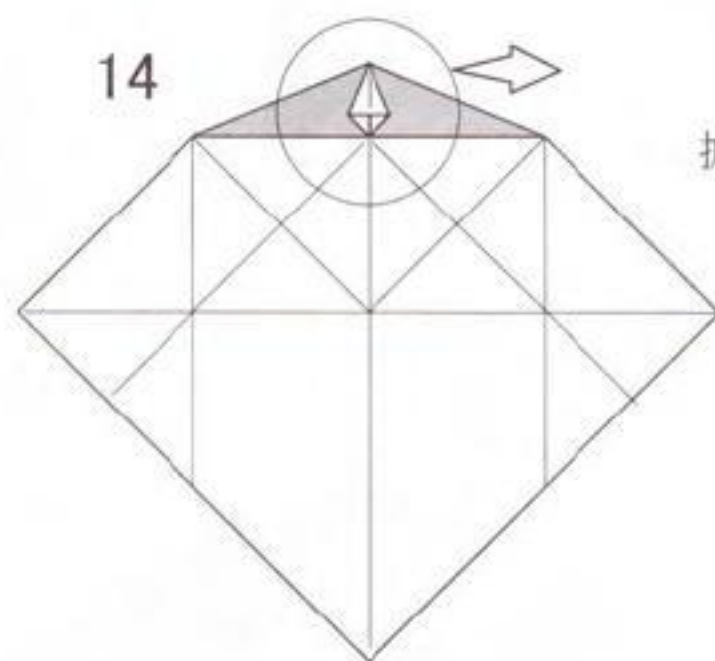
うら返す



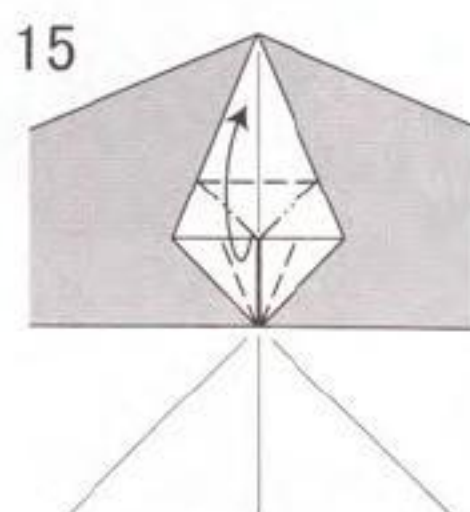
つまみ折り



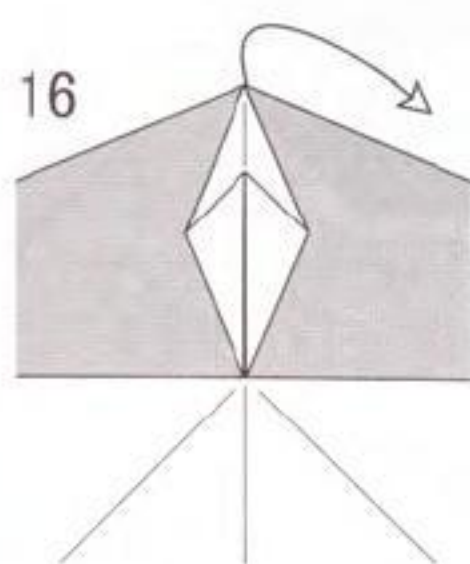
広げてつぶす



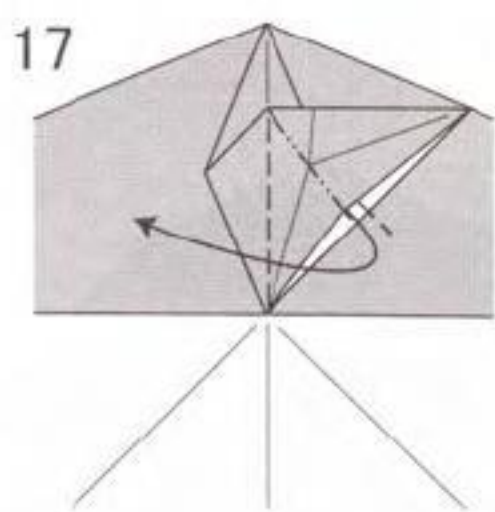
拡大図



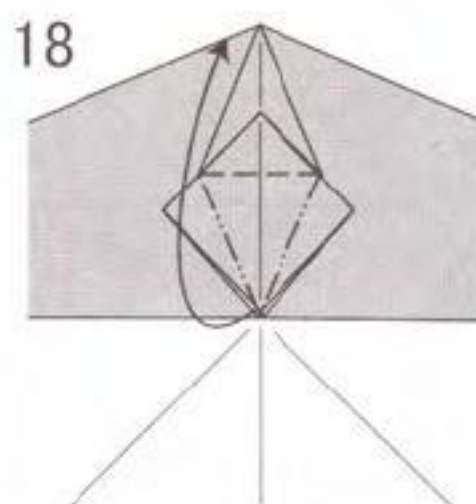
花卉折り



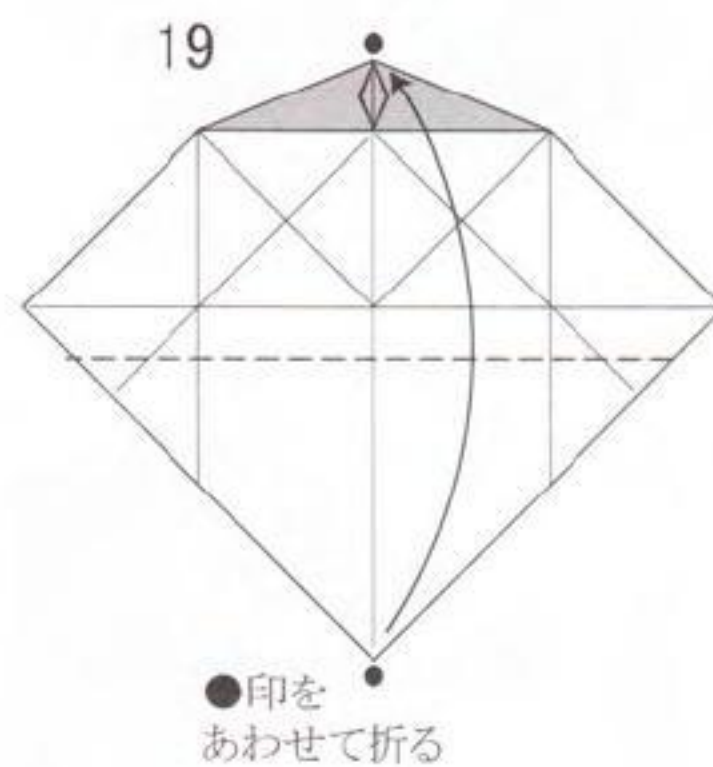
重なっている1枚をはがすように戻す



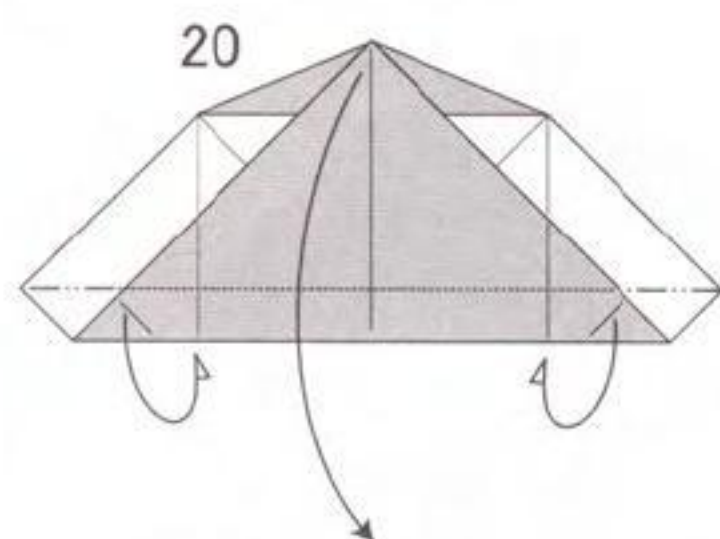
広げてつぶす



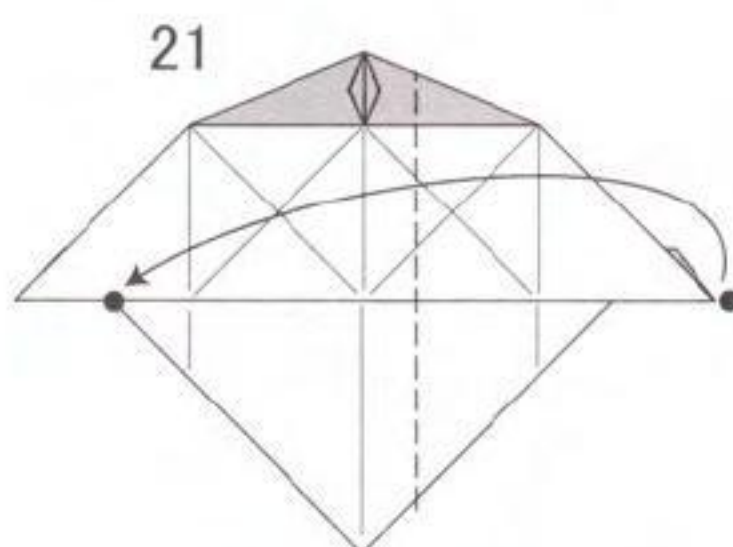
花卉折り



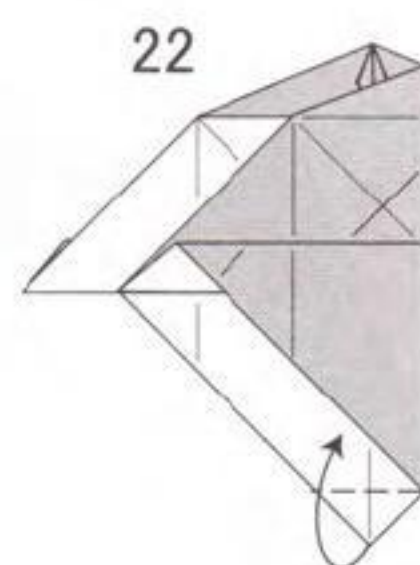
●印をあわせて折る



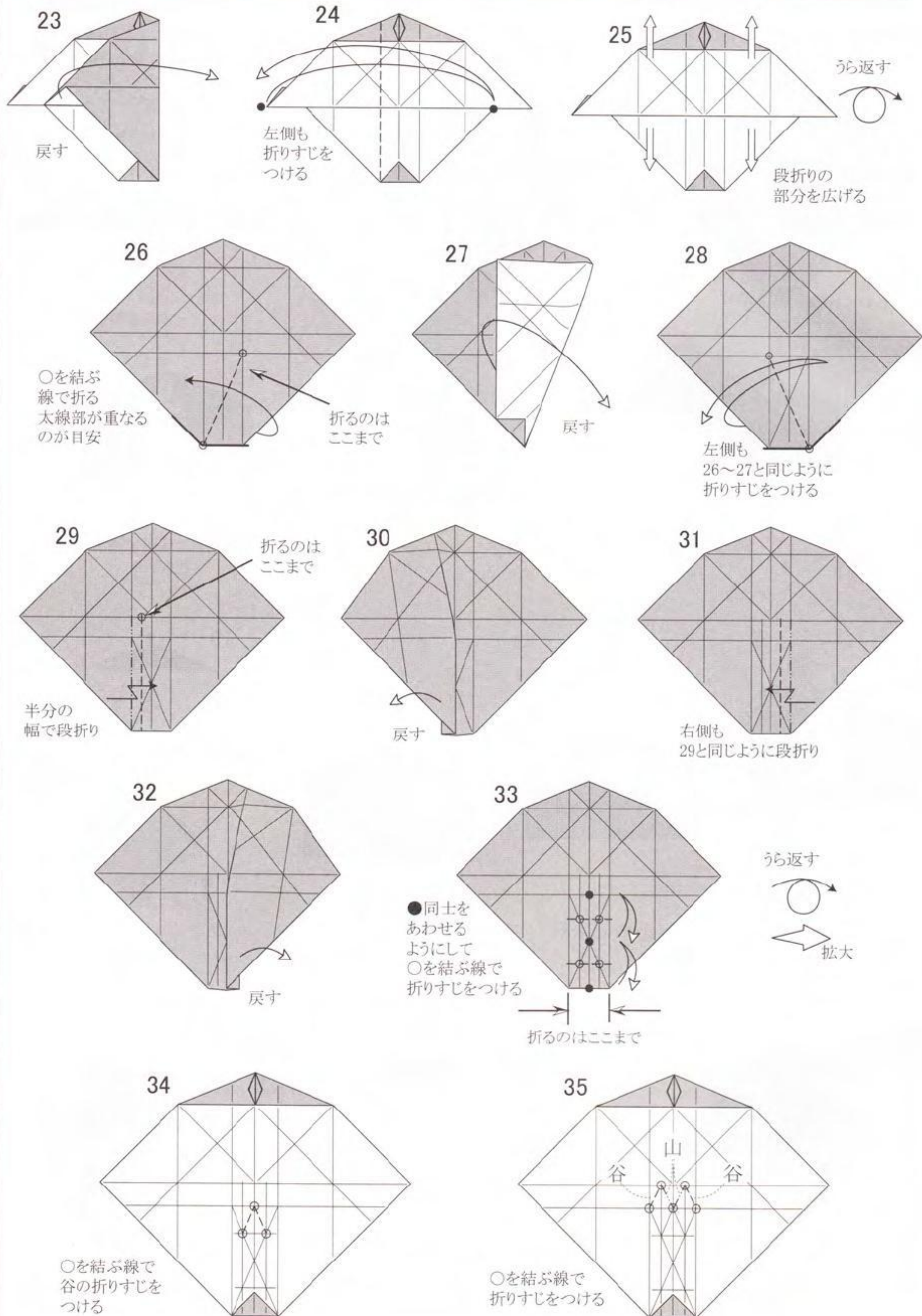
下の辺を向こう側に
折り返ししながら
手前に折り返す

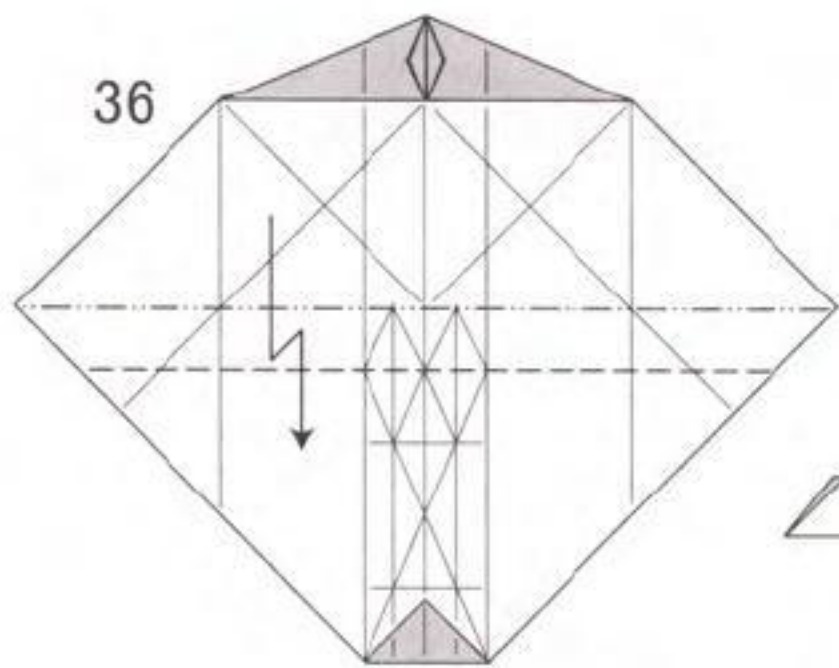


●印をあわせて折る



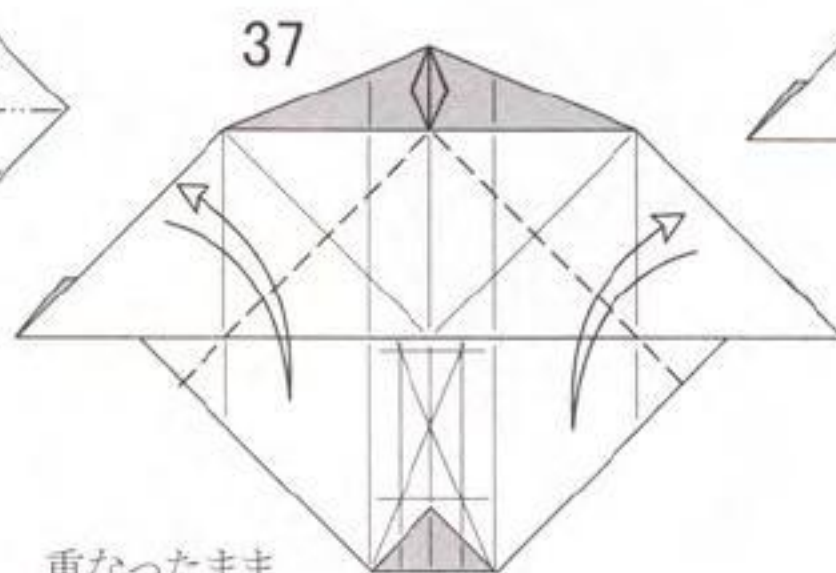
三角に折る





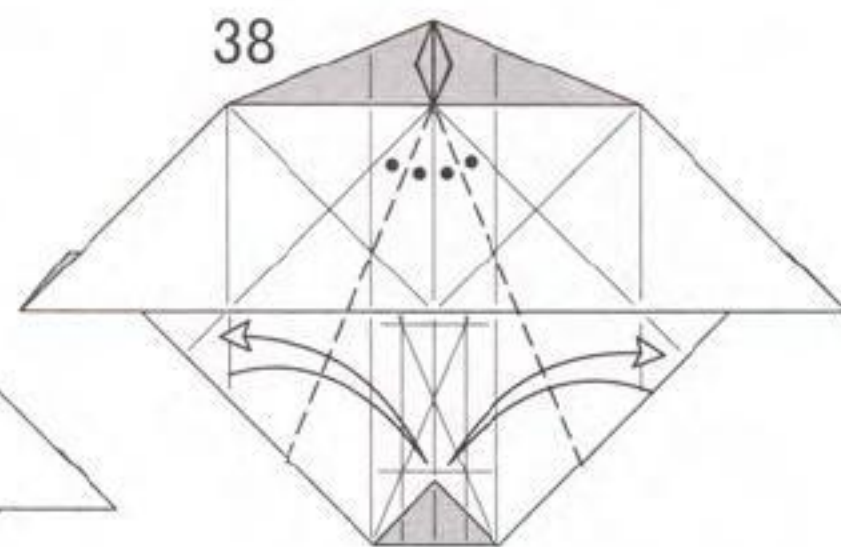
36

段折り



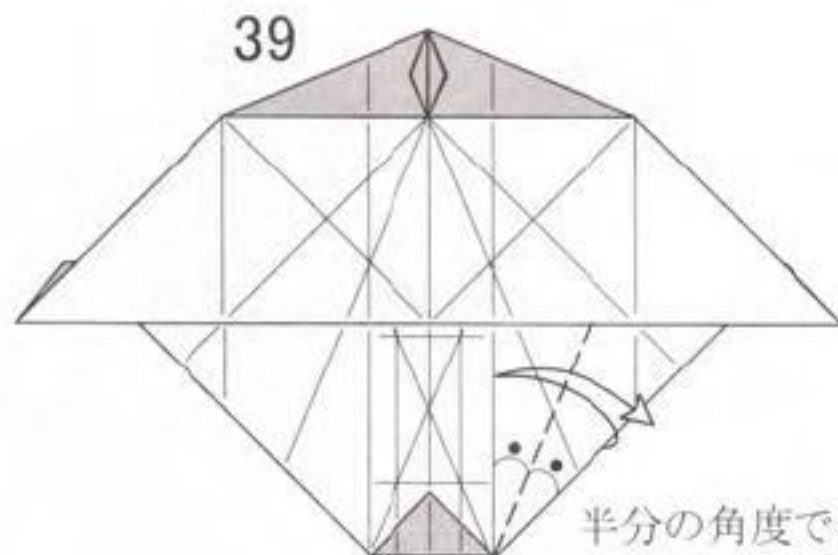
37

重なったまま
再び折りすじをつけ直す



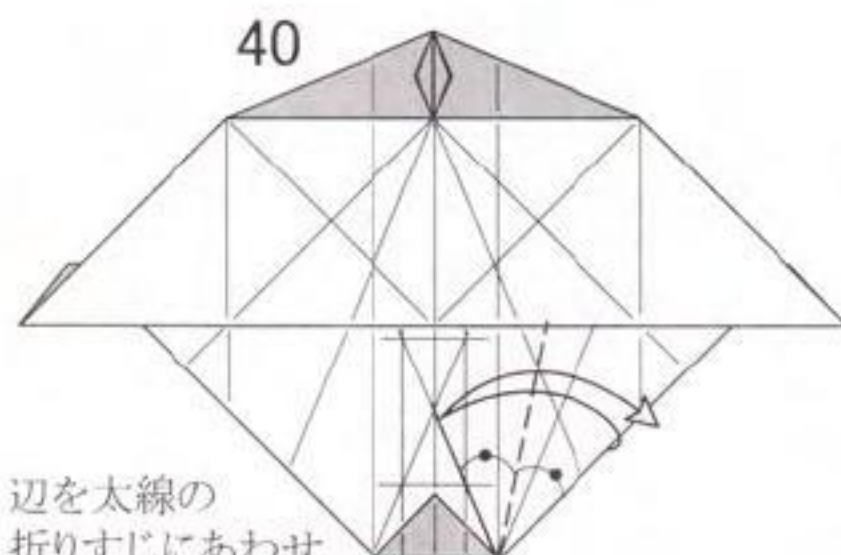
38

半分の角度で
折りすじをつける



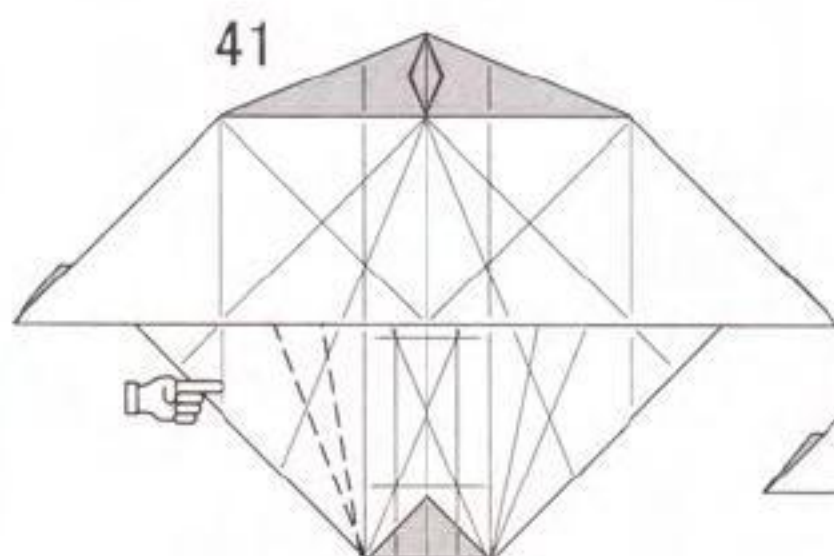
39

半分の角度で
折りすじをつける



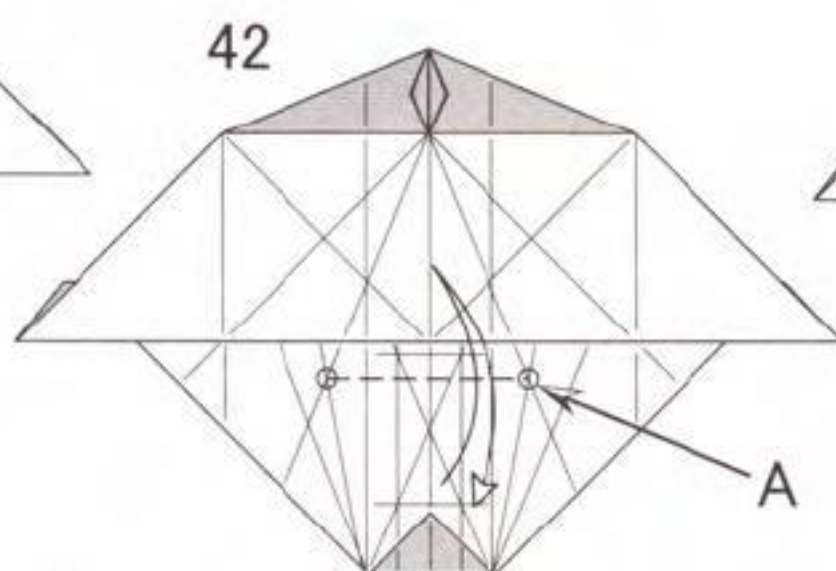
40

辺を太線の
折りすじにあわせ
折りすじをつける



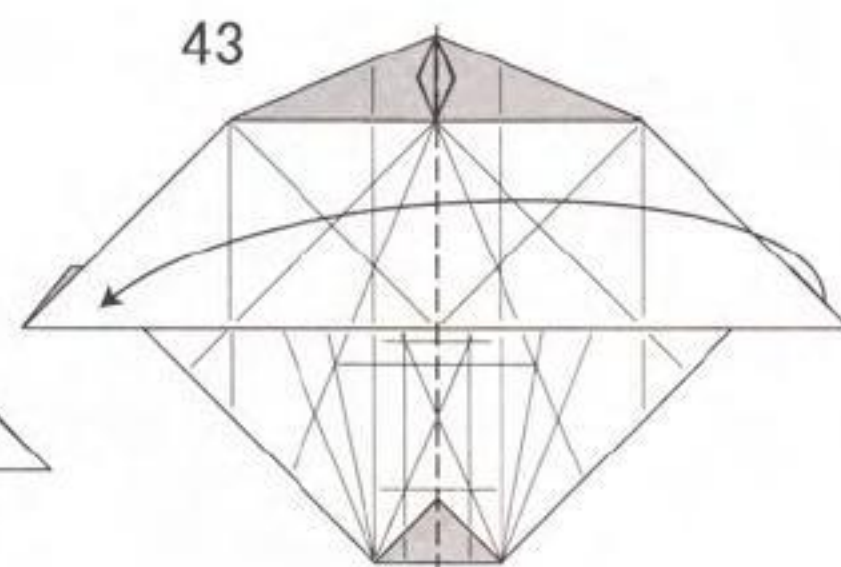
41

左側も39～40と同じように
折りすじをつける



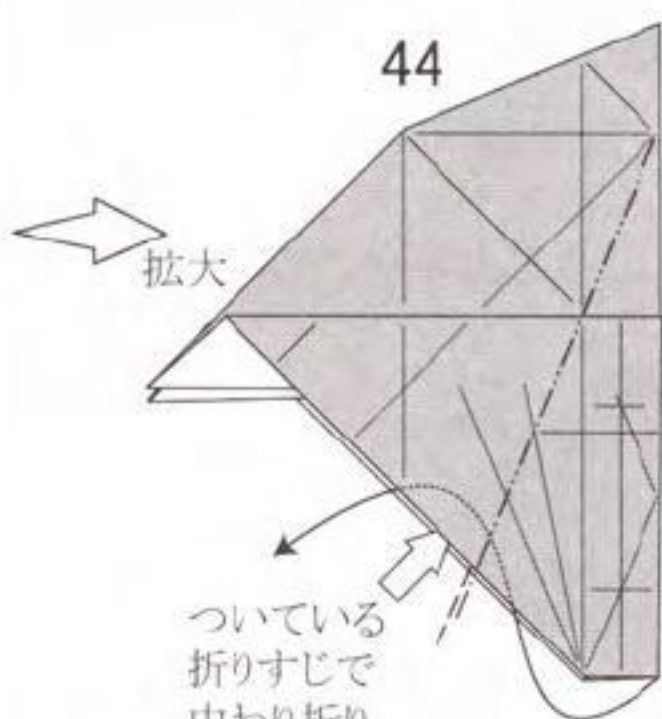
42

○を結ぶ線で折りすじをつける
A点は、後の立体化につかう
目印になります



43

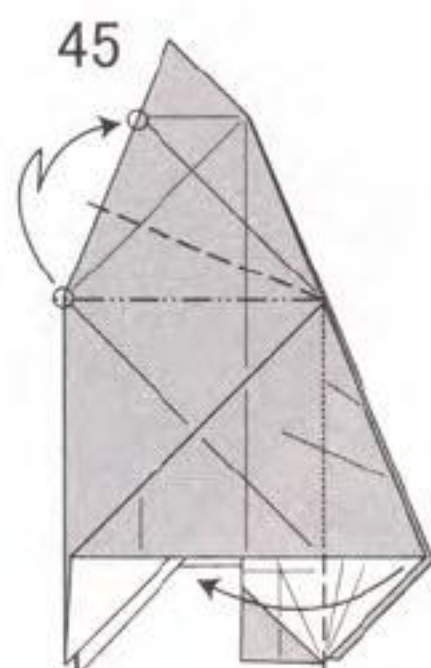
全体を半分に折る



44

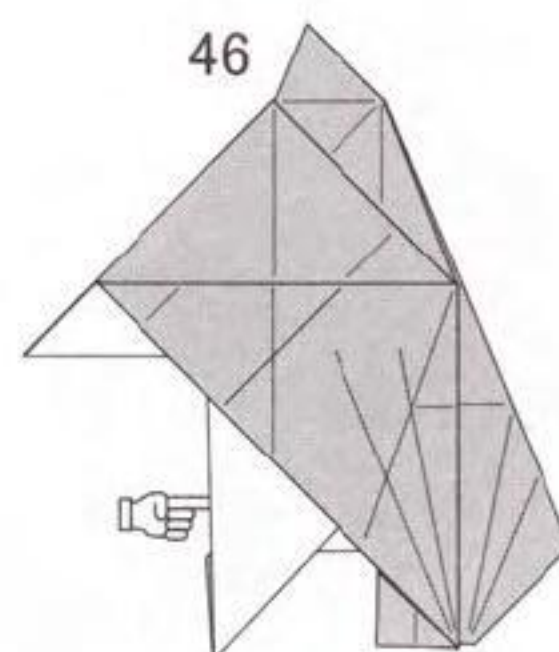
拡大

ついている
折りすじで
中わり折り



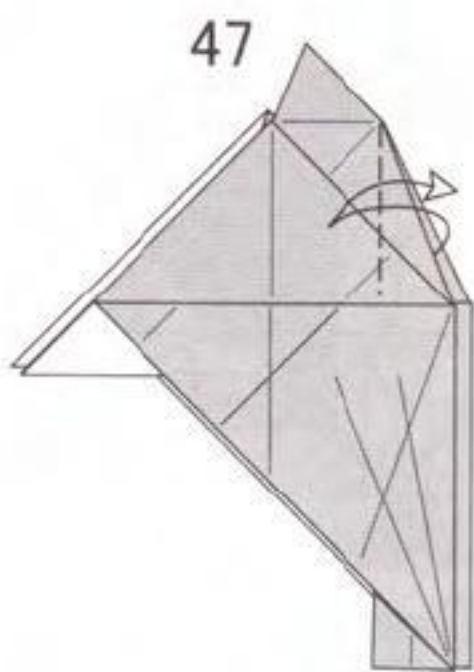
45

○印をあわせるように折り
同時に下側をずらすように折る

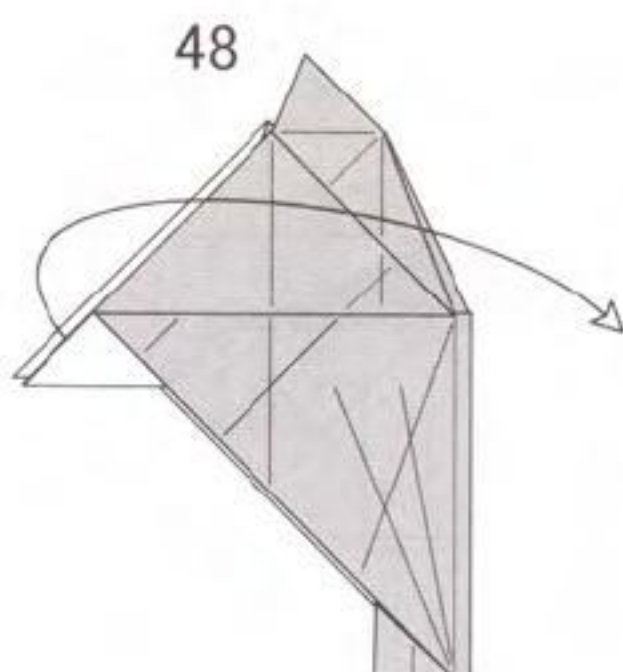


46

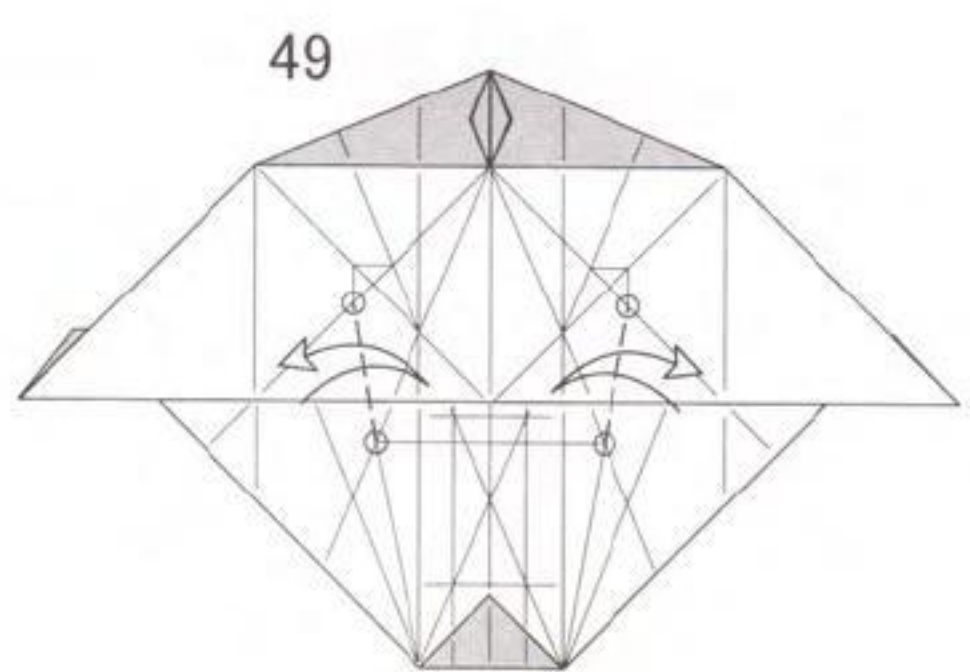
向こう側も45と
同じように折る



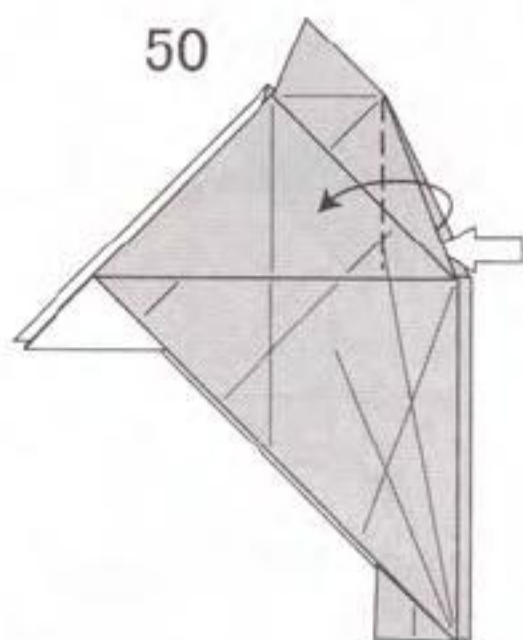
47
折りすじをつける
向こう側も同じ



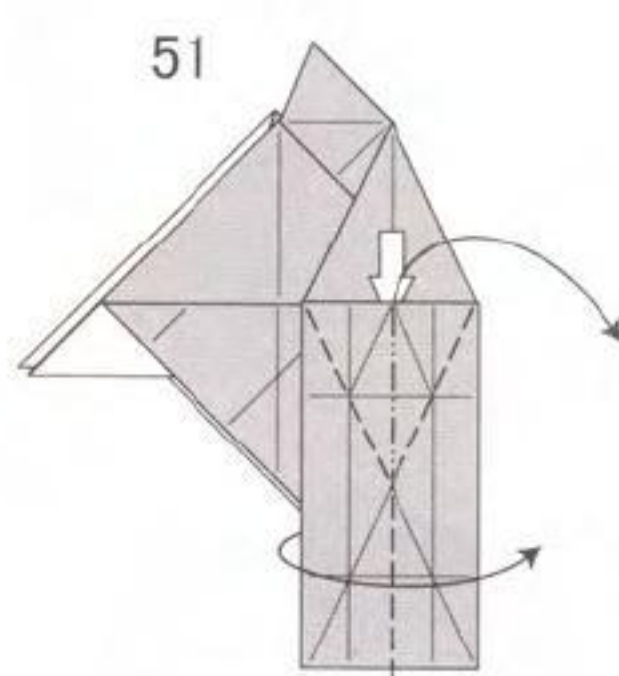
48
広げる



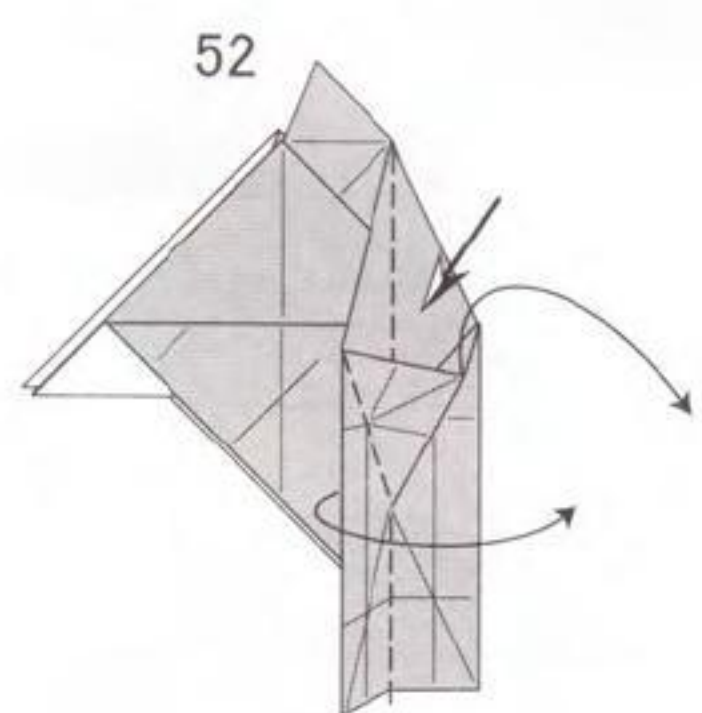
49
○を結ぶように
折りすじをつける



50
再び43～46の工程を繰り返し
形を戻してから広げる

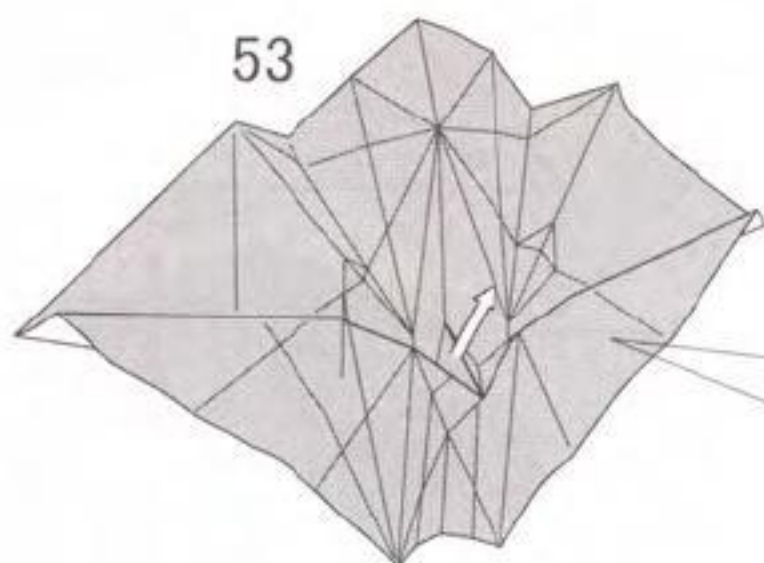


51
重なっている紙を
手前に引き出しながら
再び閉じる



52
途中図

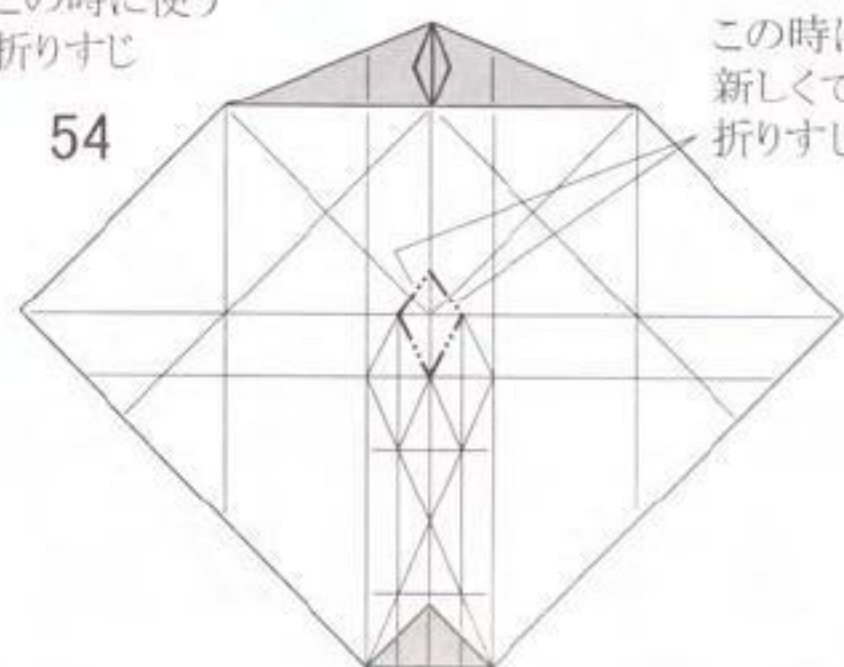
途中図
52の矢印
方向から
見た図



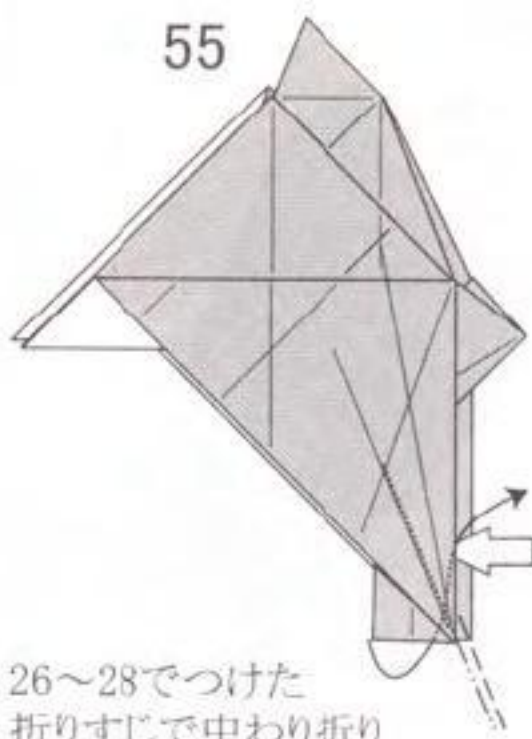
53
内側を引くように
手前に折る

この時に使う
折りすじ

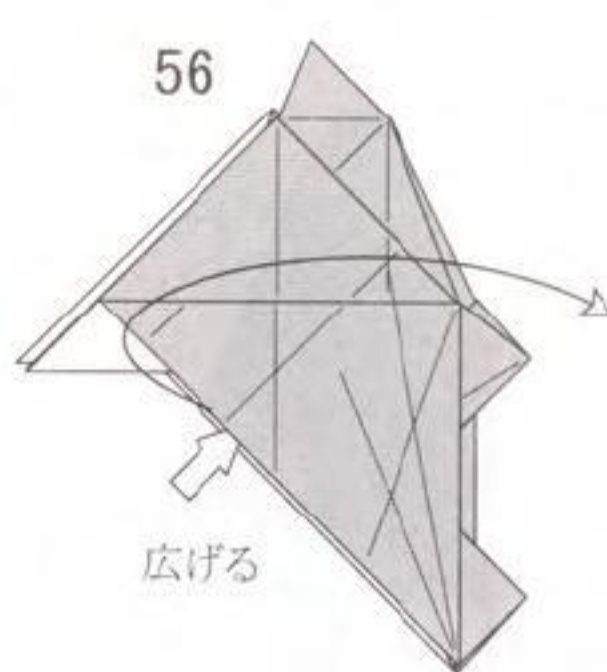
54



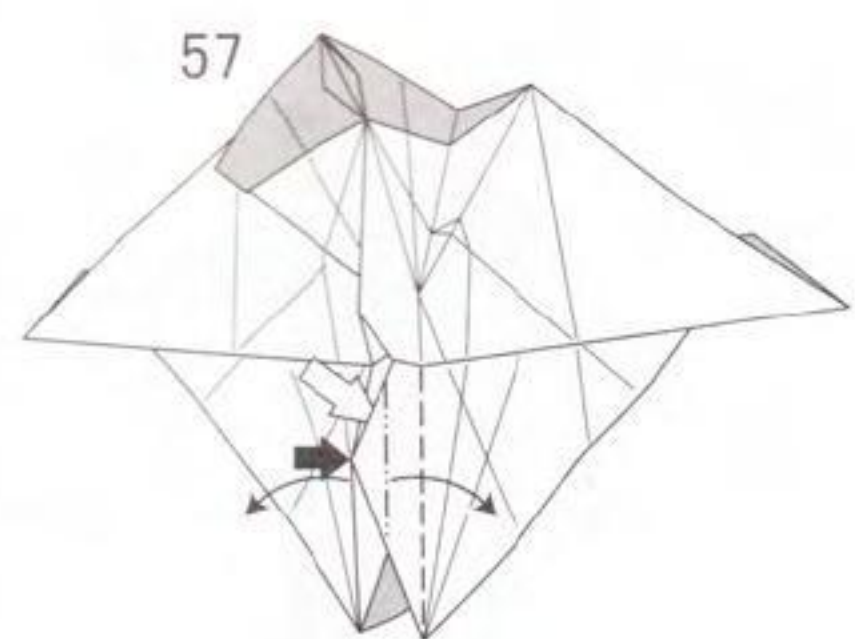
この時に
新しくできる
折りすじ



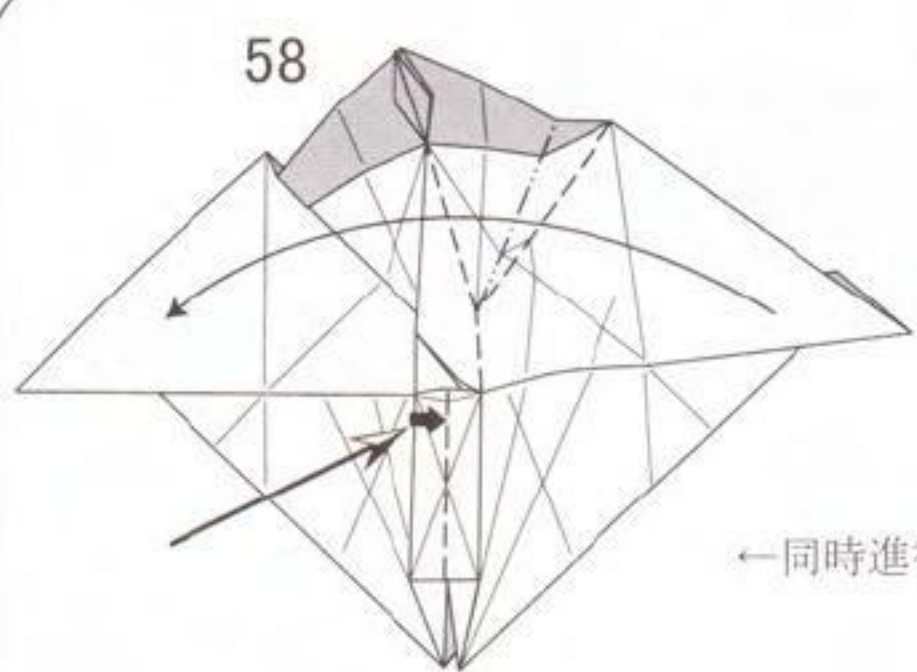
55
26～28でつけた
折りすじで中わり折り



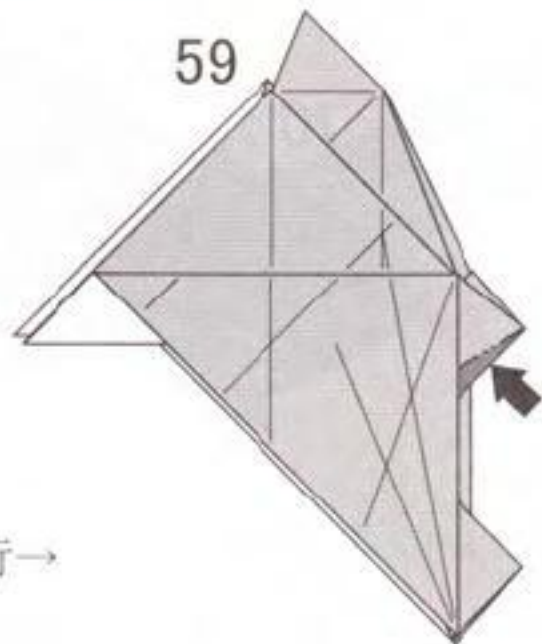
56
広げる



57
三角のカドを平らに
広げるように折る

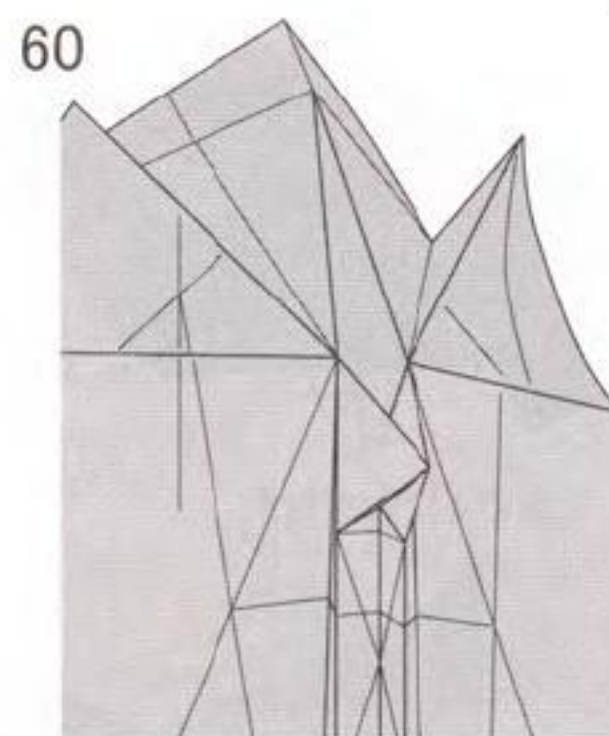


真ん中を
押すようにして閉じる

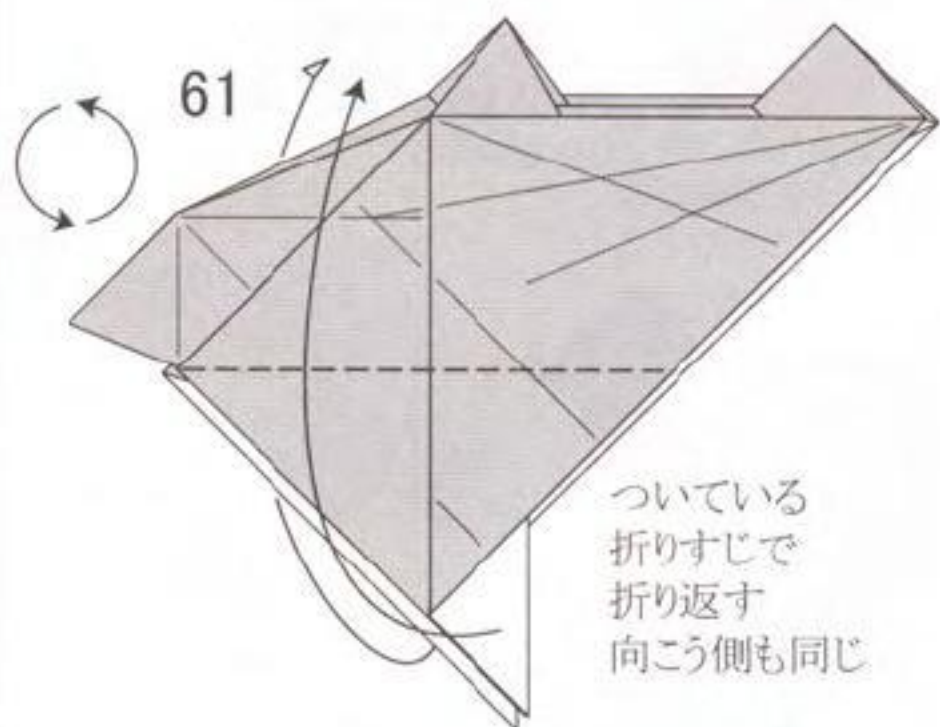


背びれの下側を同時に
押しこむ

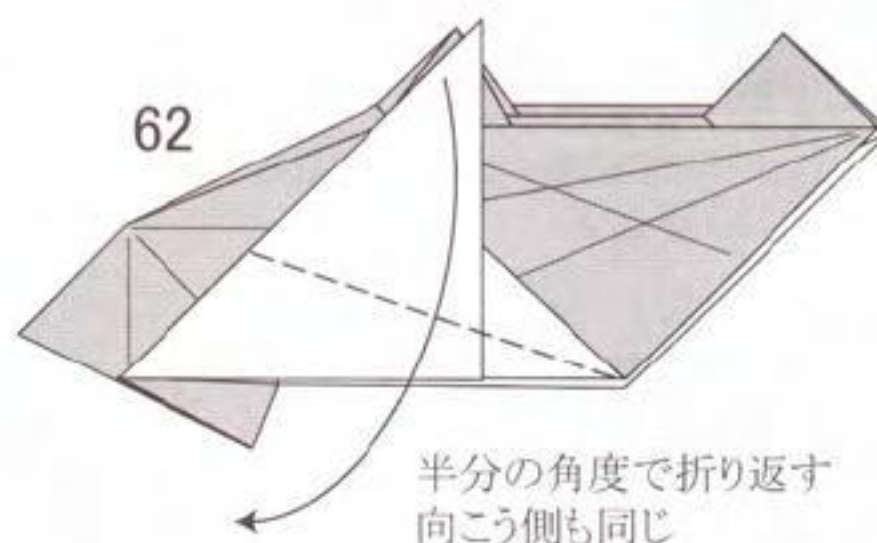
←同時進行→



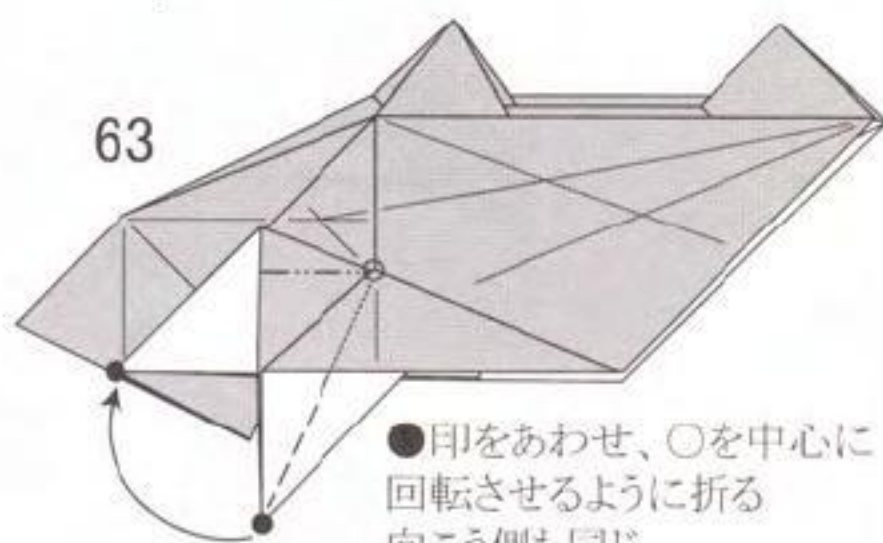
途中図



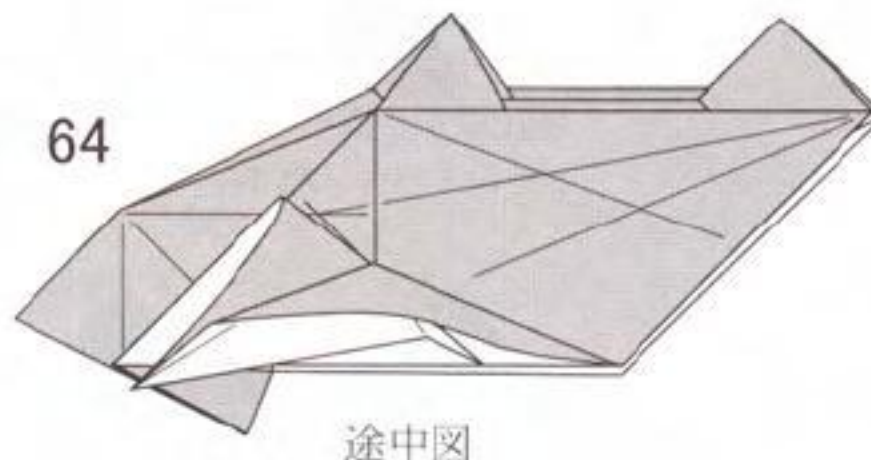
ついている
折りすじで
折り返す
向こう側も同じ



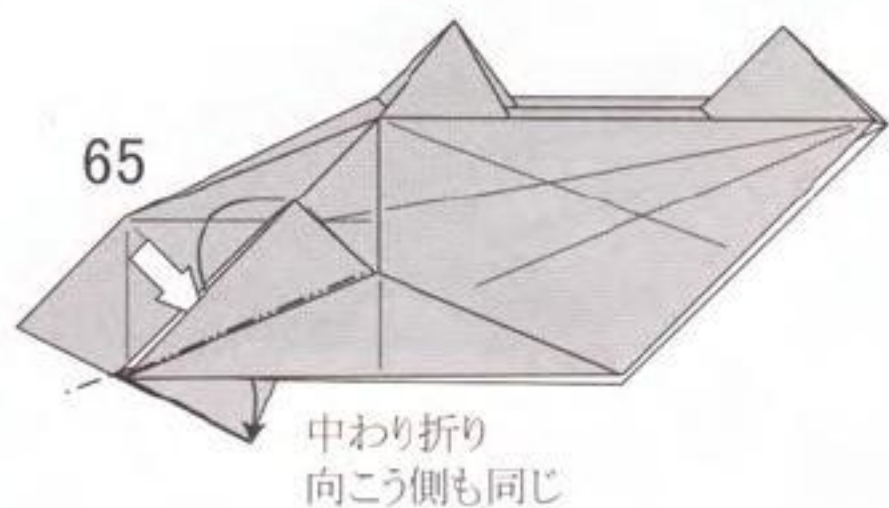
半分の角度で折り返す
向こう側も同じ



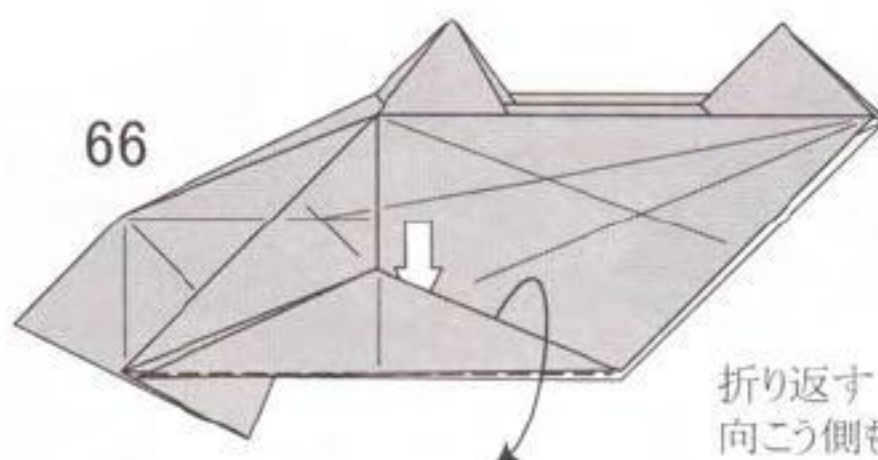
●印をあわせ、○を中心に
回転させるように折る
向こう側も同じ



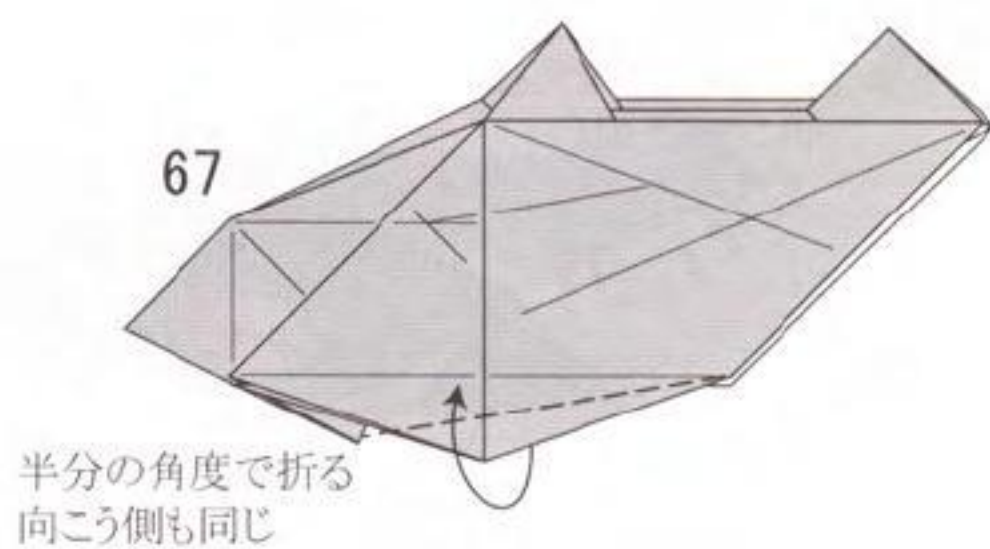
途中図



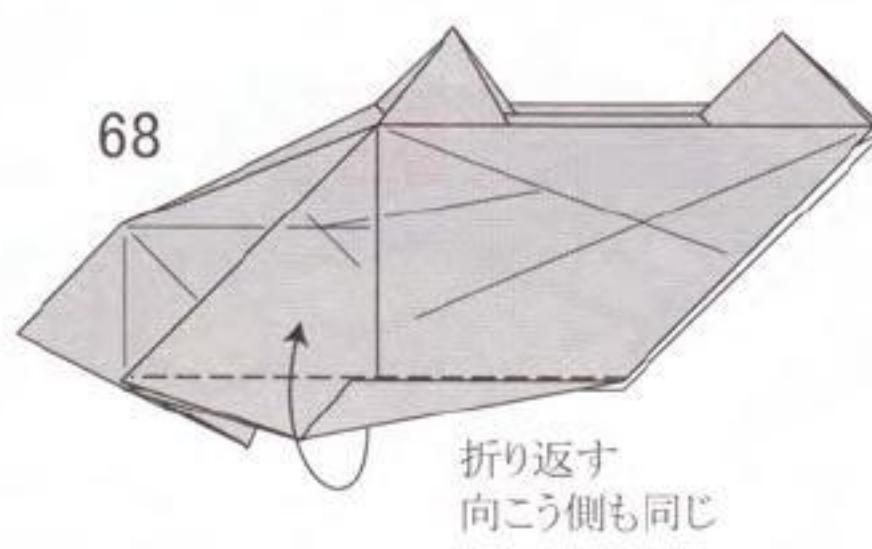
中わり折り
向こう側も同じ



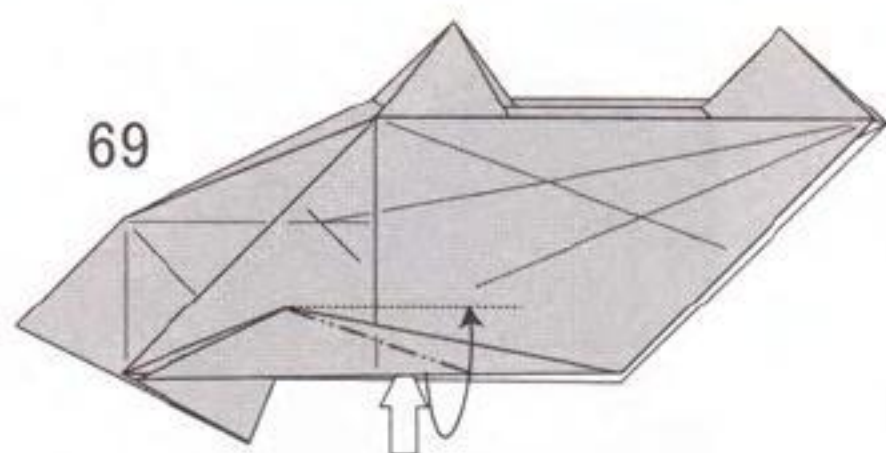
折り返す
向こう側も同じ



半分の角度で折る
向こう側も同じ

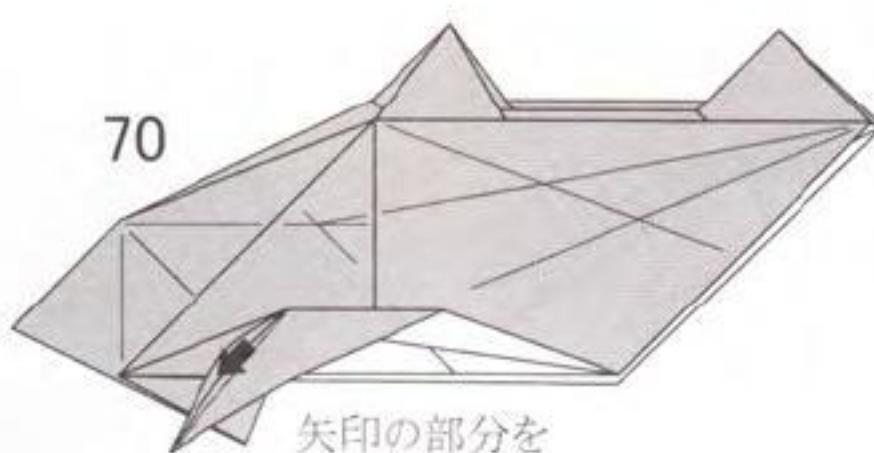


折り返す
向こう側も同じ



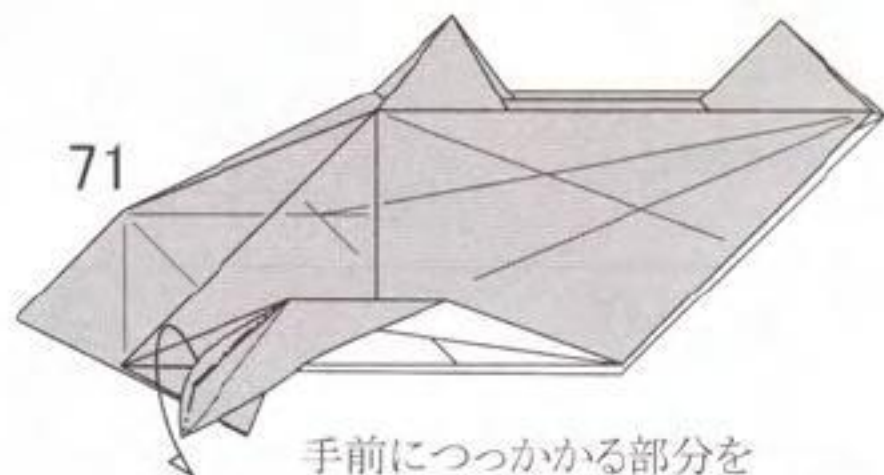
69

上の1枚をずらす



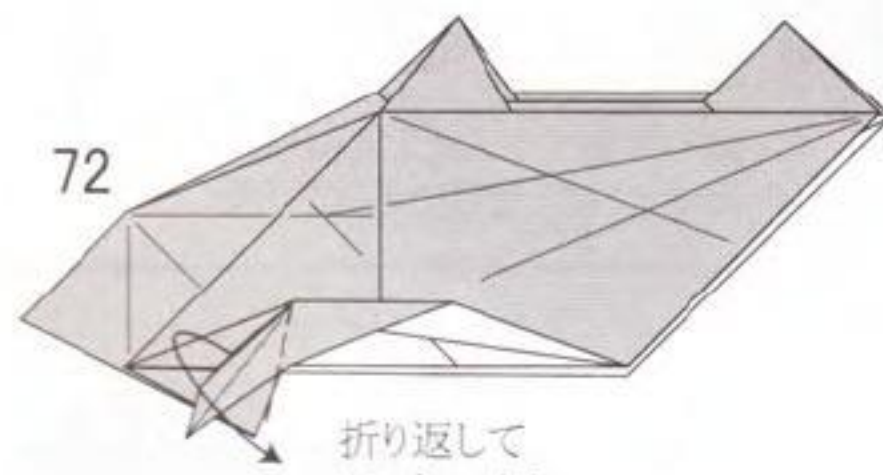
70

矢印の部分を
押し込むように
しっかりと折る



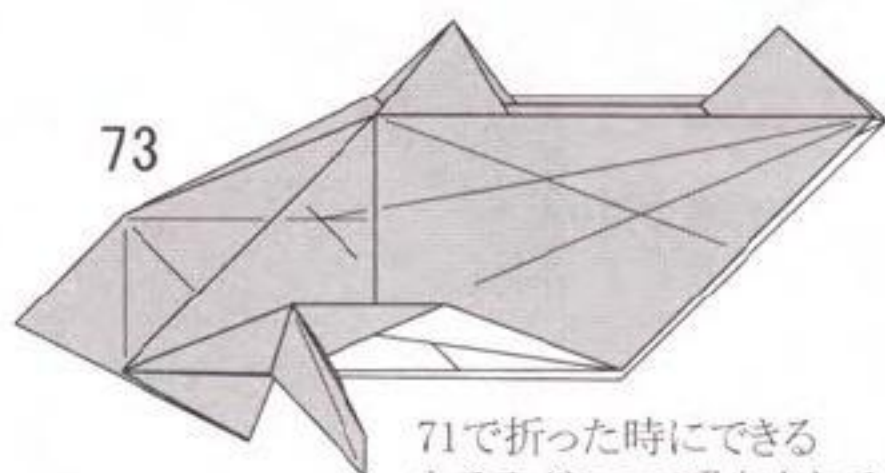
71

手前につかかる部分を
向こう側にかぶせるように折る



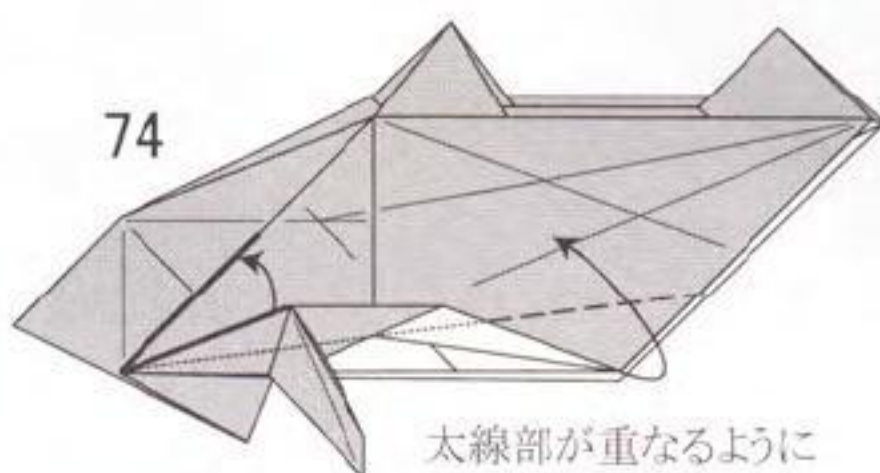
72

折り返して
ヒレをつくる



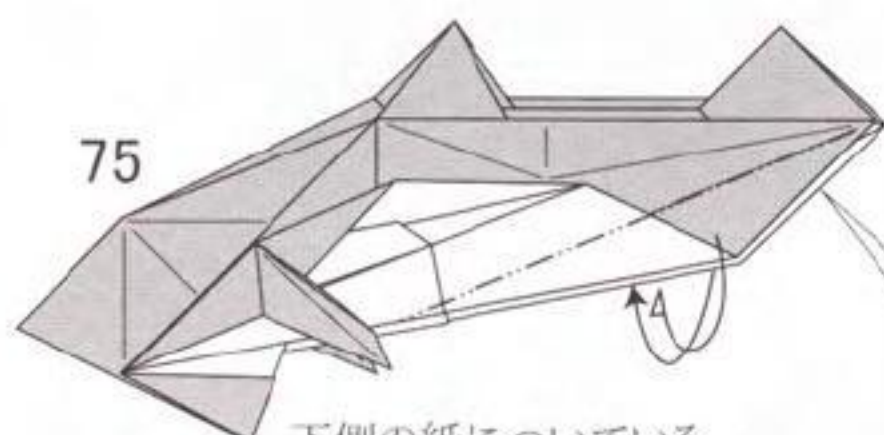
73

71で折った時にできる
たるみがここで吸収される
向こう側も69~72までと
同じように折る



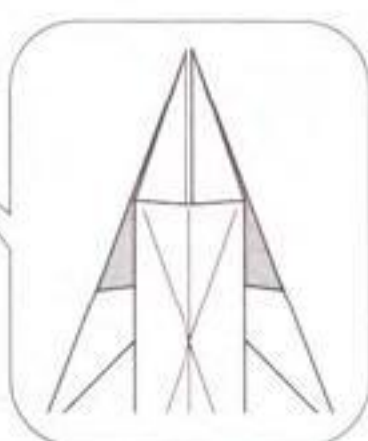
74

太線部が重なるように
ずらすように折る
向こう側も同じ

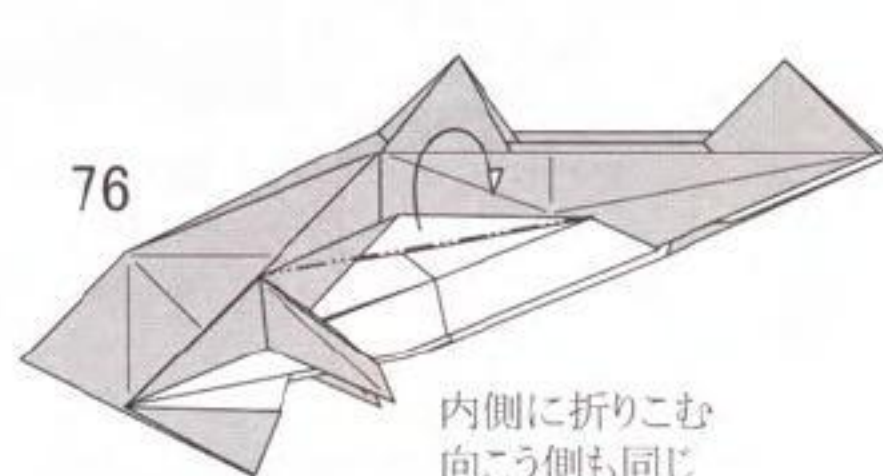


75

下側の紙についている
折りすじで内側に折りこむ
向こう側も同じ

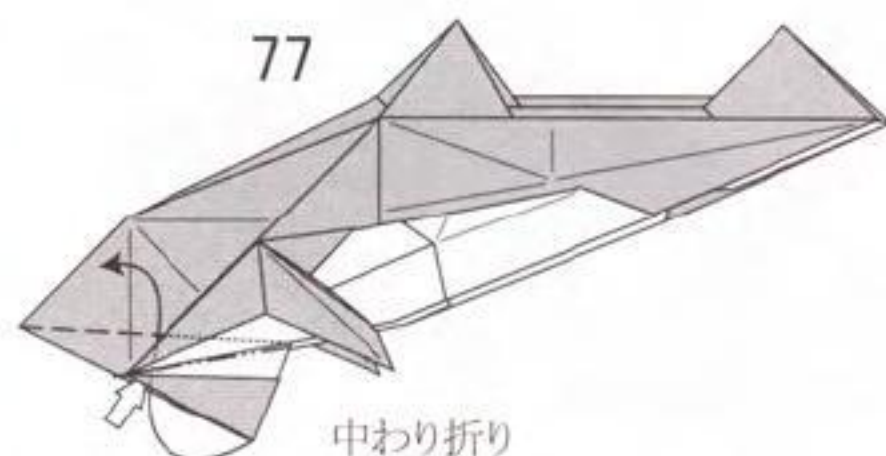


折りこむ位置



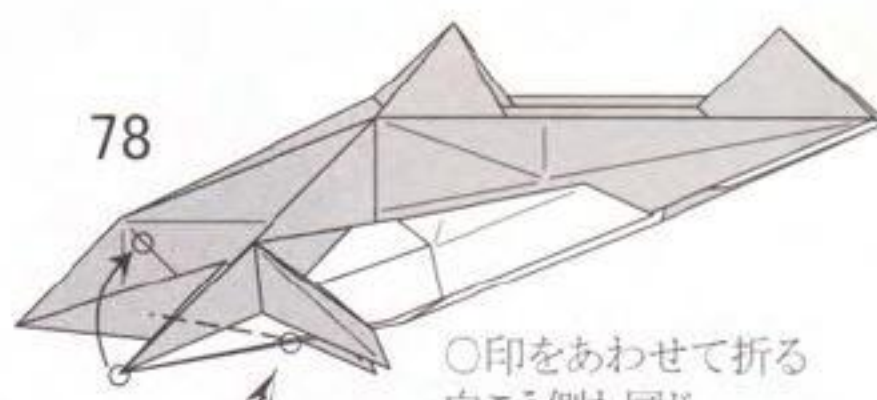
76

内側に折りこむ
向こう側も同じ



77

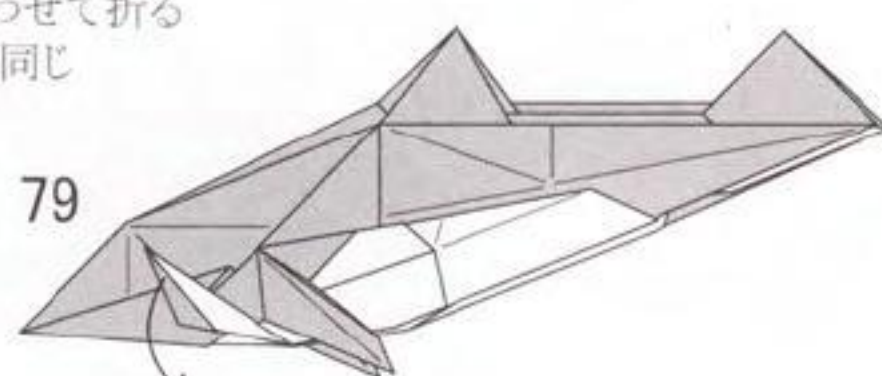
中わり折り
向こう側も同じ



78

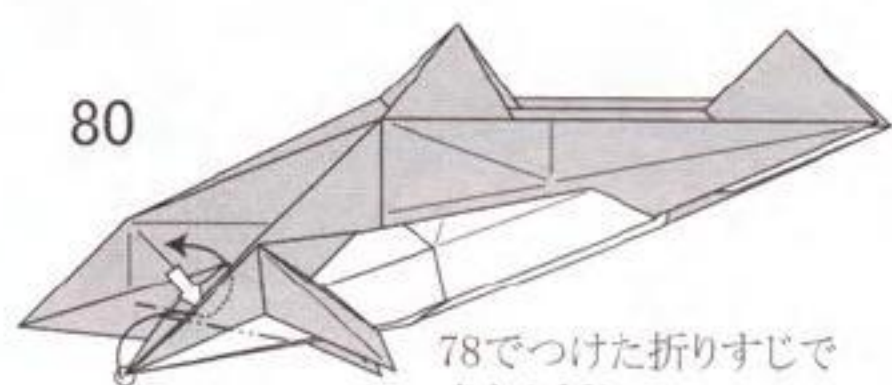
○印をあわせて折る
向こう側も同じ

根元のところまで



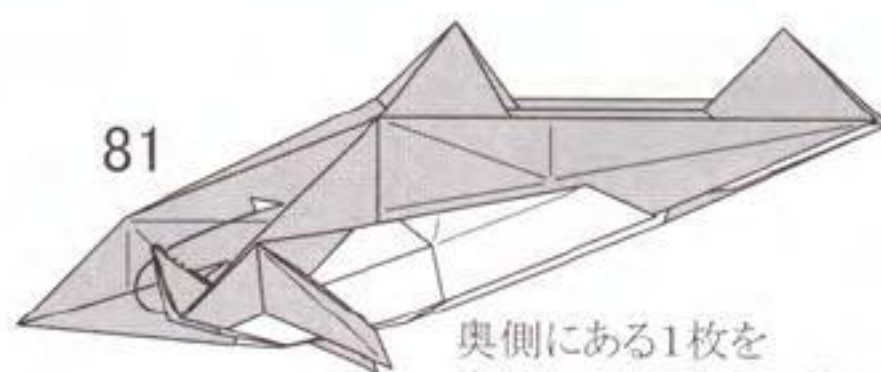
79

戻す
向こう側も同じ



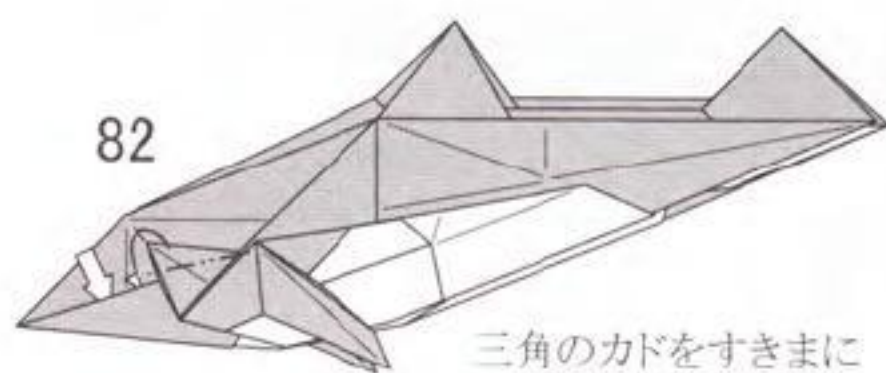
80

78でつけた折りすじで
中わり折り
手前2枚、奥1枚の部分で
向こう側も同じ



81

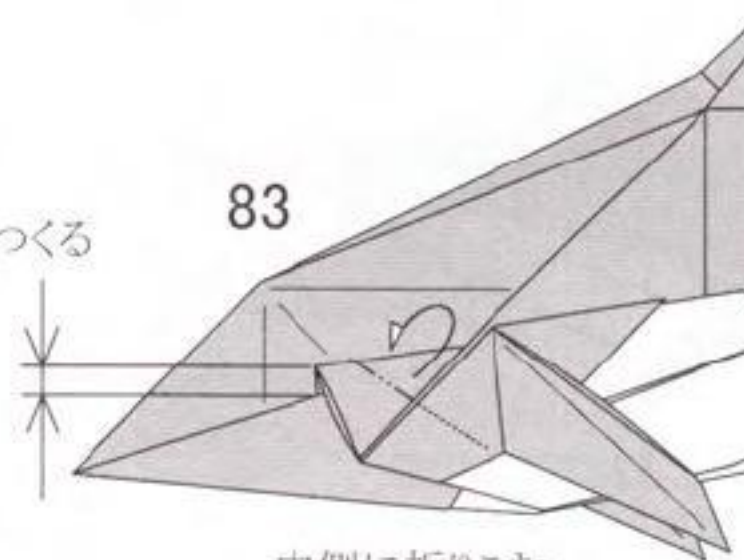
奥側にある1枚を
右側にいっぱいずらして
押し込むように折る
向こう側も同じ



82

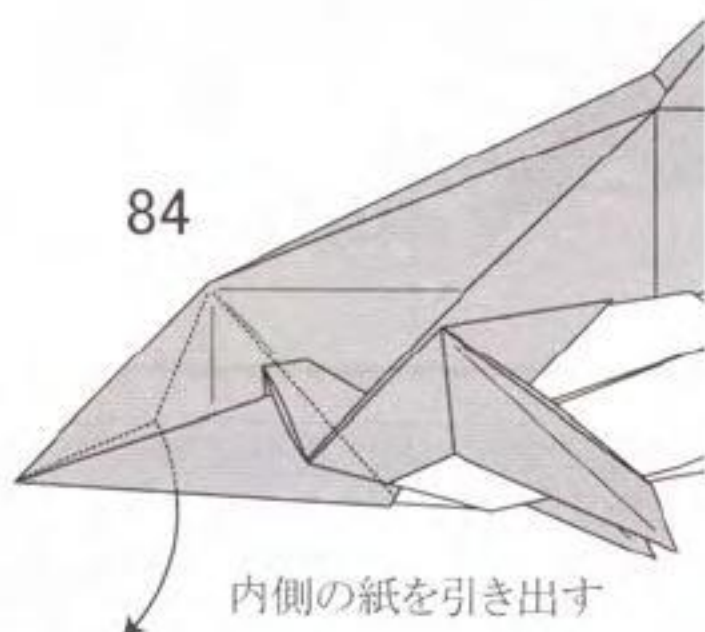
三角のカドをすきまに
少し余裕をもって差し込み
目を折る
向こう側も同じ

82の工程でつくる
余裕の部分



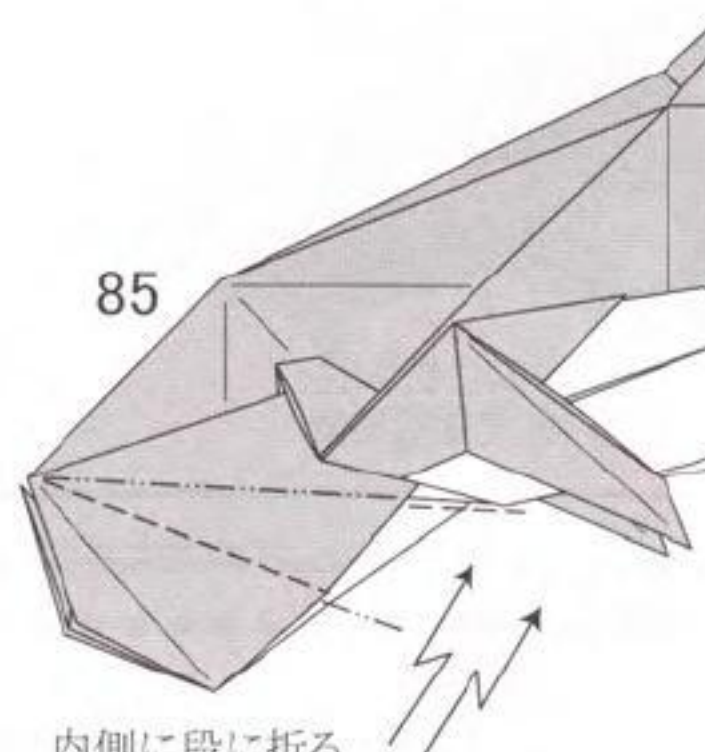
83

拡大図
内側に折りこむ
向こう側も同じ



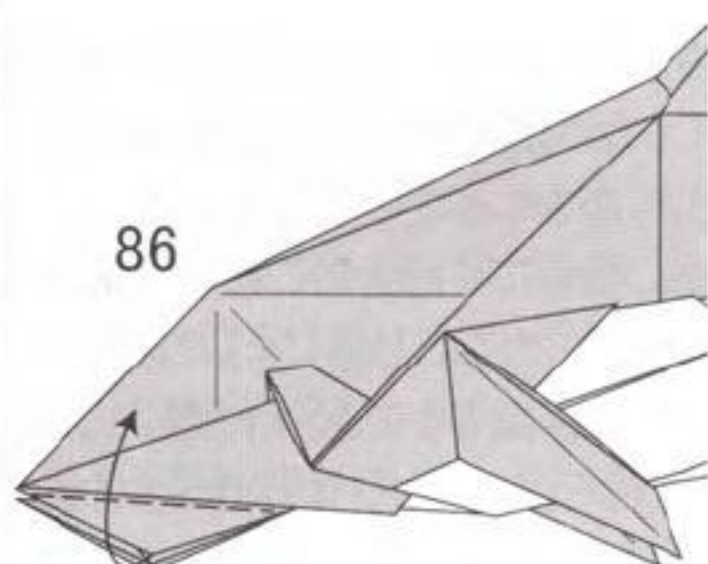
84

内側の紙を引き出す



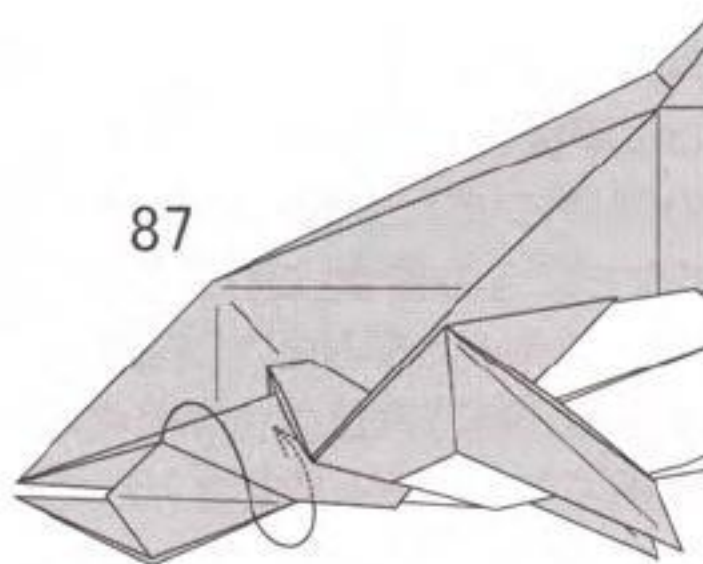
85

内側に段に折る



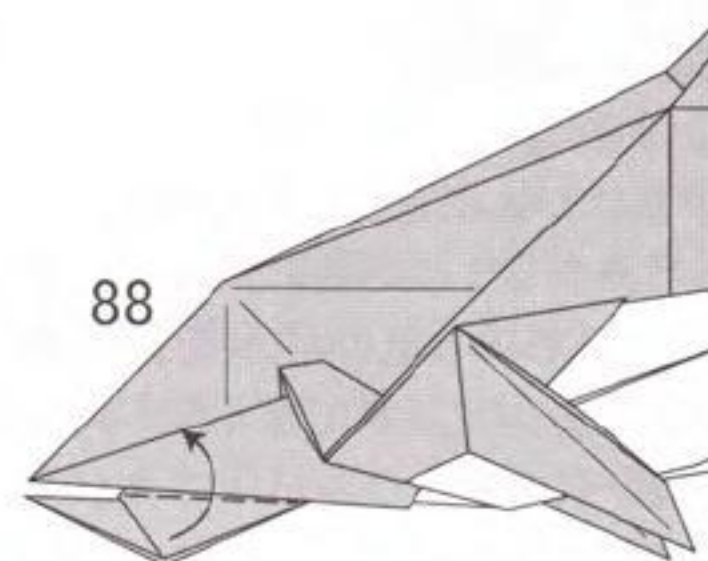
86

1枚折り返す
向こう側も同じ



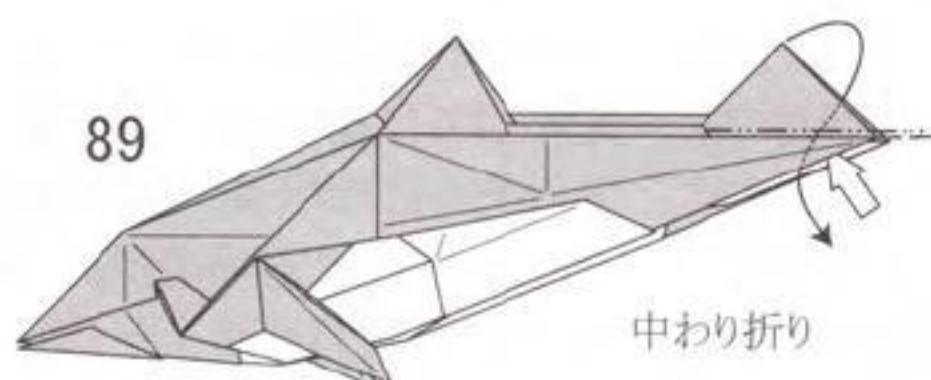
87

下側に差し込む
向こう側も同じ



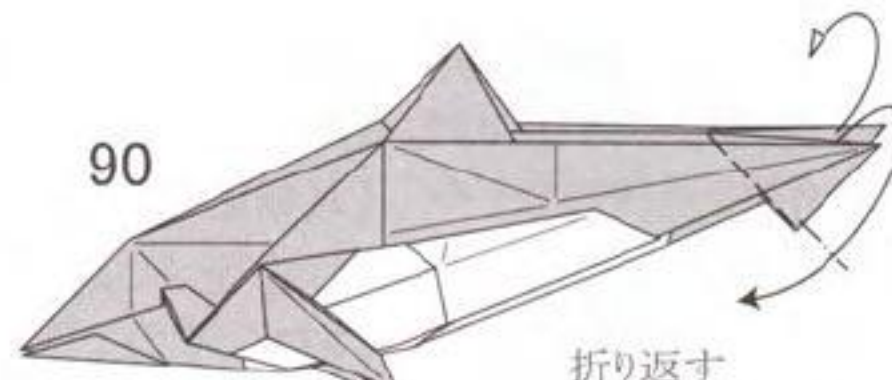
88

1枚折り返す
向こう側も同じ



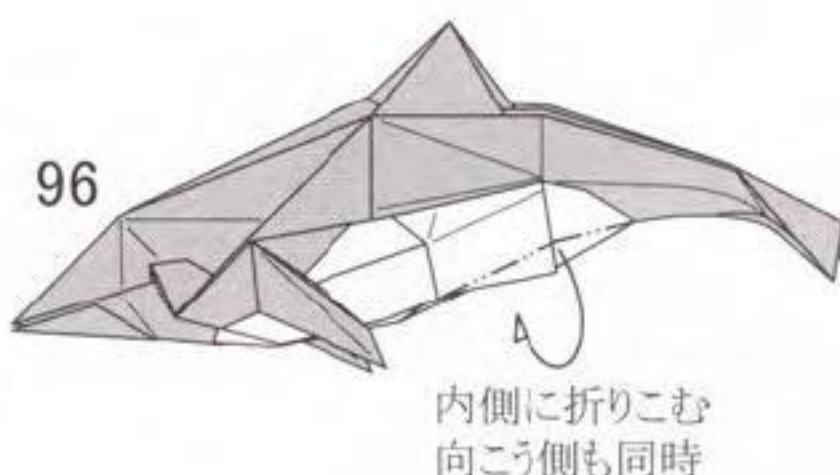
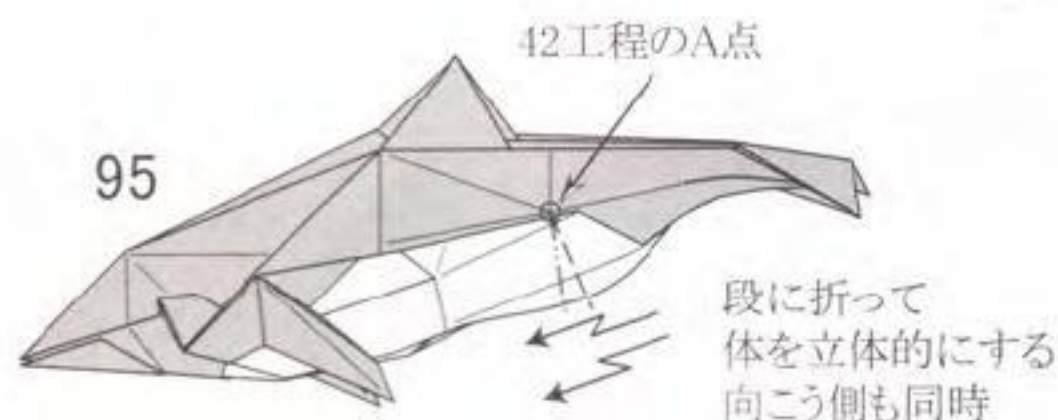
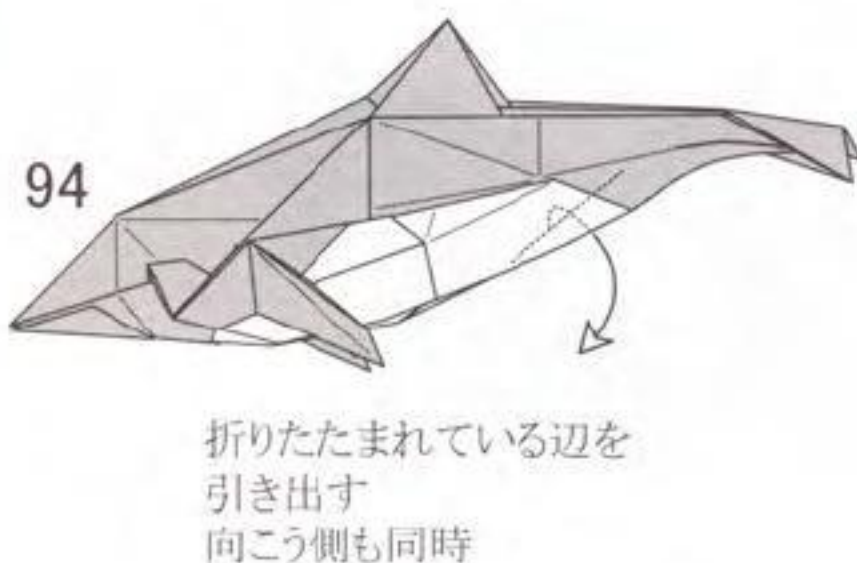
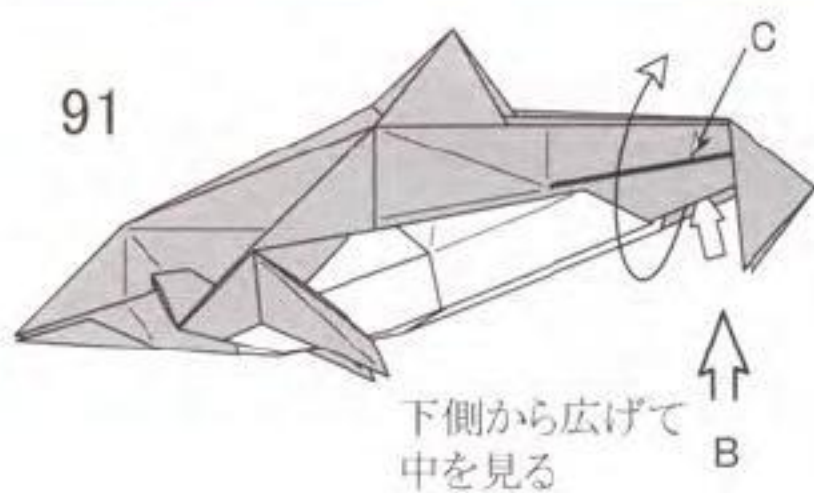
89

中わり折り



90

折り返す
向こう側も同じ



Orisuzi ("Fold-Creases")

折り紙を始めて

My New Life with Origami

櫻井明美

Sakurai Akimi

私は62才になるまで折り紙に興味がありませんでしたが、ふと突然やってみたくなった頃に、ちょうど市の文化祭で折り紙の展示を観る機会がありました。これでますます興味が湧き、そのサークルにすぐ入会したのですが、2年が過ぎた頃にちょっと物足りなさを感じるようになって、他の教室を探していました。

平成9年に日経の社会面で、西川誠司さんの「折り紙の奥深さを知り作品の表現力に磨き」との記事を発見(私はパソコンを持っていないアナログ人間で、折り紙の情報源は今でも例会と本、新聞等です)。おりがみはうすに早速問い合わせ、8月の第3回コンベンションに参加しました。当初は海老名から白山までは遠

く感じたものです。

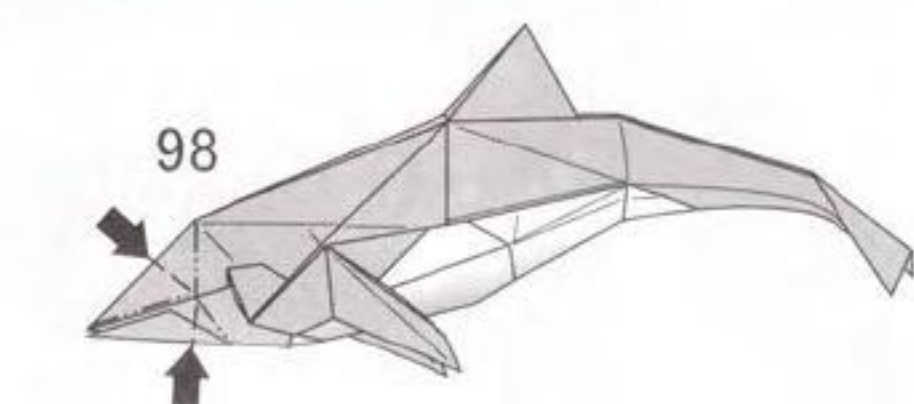
その後平成11年の6月より、東京友の会の例会に友人と参加することになって今日に至ります。これまでいろいろなサークルに参加してきましたが、探偵団の例会がなにより静かで紳士的なサークルだと実感しました。初めての教室では、『ビバ』や『トップ』掲載の作品を教えてくださいました。

当時の私は伝承折り紙も充分折ることができず、よく図書館で易しい本を借りては折って練習していました。今でも、作品の難易度に関係なく美しく折るのは難しいことだと思いますが、なるべく美しく折ることを心がけています。そのように折って楽しんでいるうちに、折り紙に関連する数学や歴史などにも触れることができました。

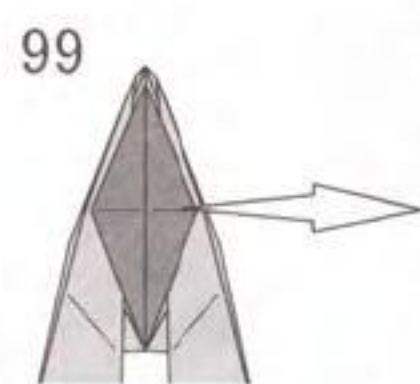
探偵団の例会では、若い方々から教えていただけることにも感謝の限りです。また、小さいお子さんも大人同様に扱ってくださることが折紙学会の良いところだと感じました。

おりがみはうすで最初に購入した本は、『ジョイ・オブ・オリガミ』です。さらに『季刊をる』との出逢いで、世の中が広がったように思えます。

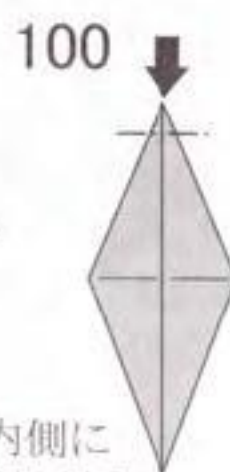
例会の会場も、文京区民センターからシビックセンター、JOASホールへと変わり、参加者も変わりました。おりがみはうすの展示作品もどんどんリアルになり、彫刻的な美しい作品も多くなって美術館のような趣を感じます。毎月の例会と、年6冊の探偵団マガジンを楽しみにしている次第です。



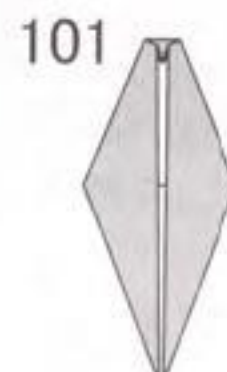
98
ついている折りすじを使って
口を平らにする



99
下あごの部分

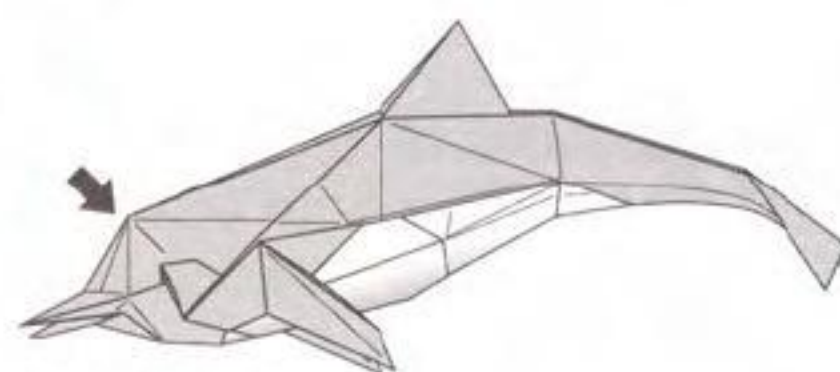


100
内側に
押し込む



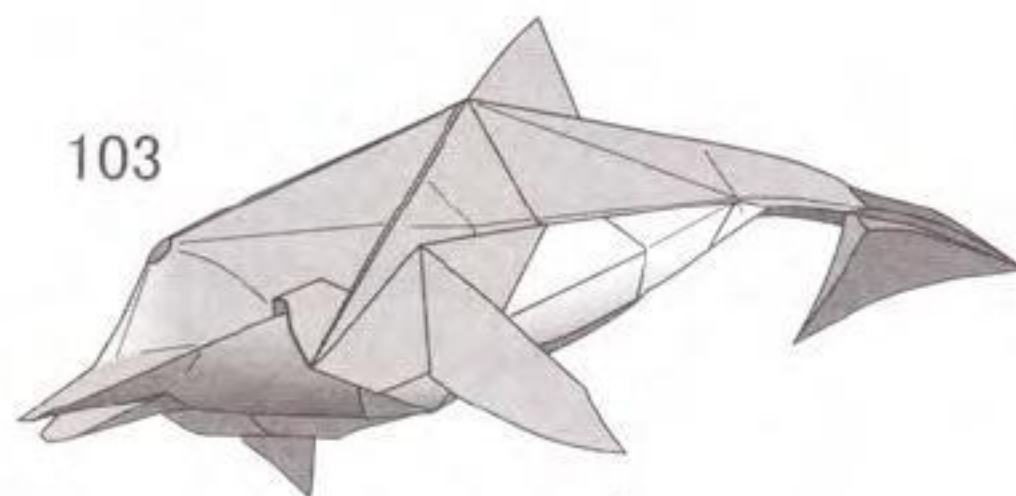
101

102



ここを爪楊枝などで
少しへこますと
鼻ができます

103



できあがり

折紙三昧⁶⁹

Origami-Zanmai (This Origami and That)

折り紙講習で利用可能な作品情報

The List of Models Usable for Origami Instructor

日本折紙学会では作品の講習を行うに際しては創作者にご確認いただくよう、ガイドライン^[1]やコンベンション講師申込書でお願いをさせていただいております。これは、多くの折り紙作品が著作物であり、著作権者(多くの場合は創作者)以外の第三者が不特定多数の人に講習する行為は著作権者の複製権に関わり、また創作者への配慮という意味からも大切なことだと考えるからです。著作権法では、私的な範囲や非営利使用などで他人の著作物を取り扱える場合があることが記載されていますが、そもそもの著作物の対象や私的な範囲や非営利の解釈には注意を要します。そこで、日本折紙学会では不特定多数を対象に折り紙講習を行う場合、その使用について

個別の許諾を必要としない作品リストについて情報提供することとし、昨年8月に第1版を公表いたしました。本情報提供の特徴は、一般的な折り紙講習会(講師が少々の謝礼を受け取る場合や受講料がある場合などを含め)について、日本折紙学会折紙指導員認定者に対して、予めその使用が許諾されていることを公表するものです。また、これから指導員認定を受けようとする方が、コンベンションでの受験作品を選定する際にもこの事前許諾は適用されます。情報の充実、運用の改善を目指して、本情報は毎年4月に更新する方針としており、この度2014年度版(有効期間2014年4月1日~2015年3月31日)を作成することが出来ました。今回は、川崎

敏和氏、川畑文昭氏、川村みゆき氏、小松英夫氏、館知宏氏、津田良夫氏、西川誠司氏、羽鳥公士郎氏、北條高史氏、前川淳氏、山口真氏の11名の作家の皆さんに情報提供に協力いただいております。各作家の許諾条件など詳細は下記のURL^[2]をご確認ください。今後も情報提供作家の充実を考えております。日本折紙学会会員の皆様には指導員認証を取得いただき本情報を有効に活用いただけるようお願いしております。

[1] ガイドライン

<http://www.origami.gr.jp/IPrights/JOASGuideline.pdf>

[2] 折り紙講習で利用可能な作品情報

<http://origami.gr.jp/Instructor/list20140401.pdf>

西川誠司 Nishikawa Seiji
日本折紙学会 評議員

展開図折りに 挑戦

Crease Pattern
Challenge!

第89回

カマキリ

Mantis

今井幸太

Imai Kota

Created: 2014/02/01

Paper Size: 48cm×48cm

Length: 17cm



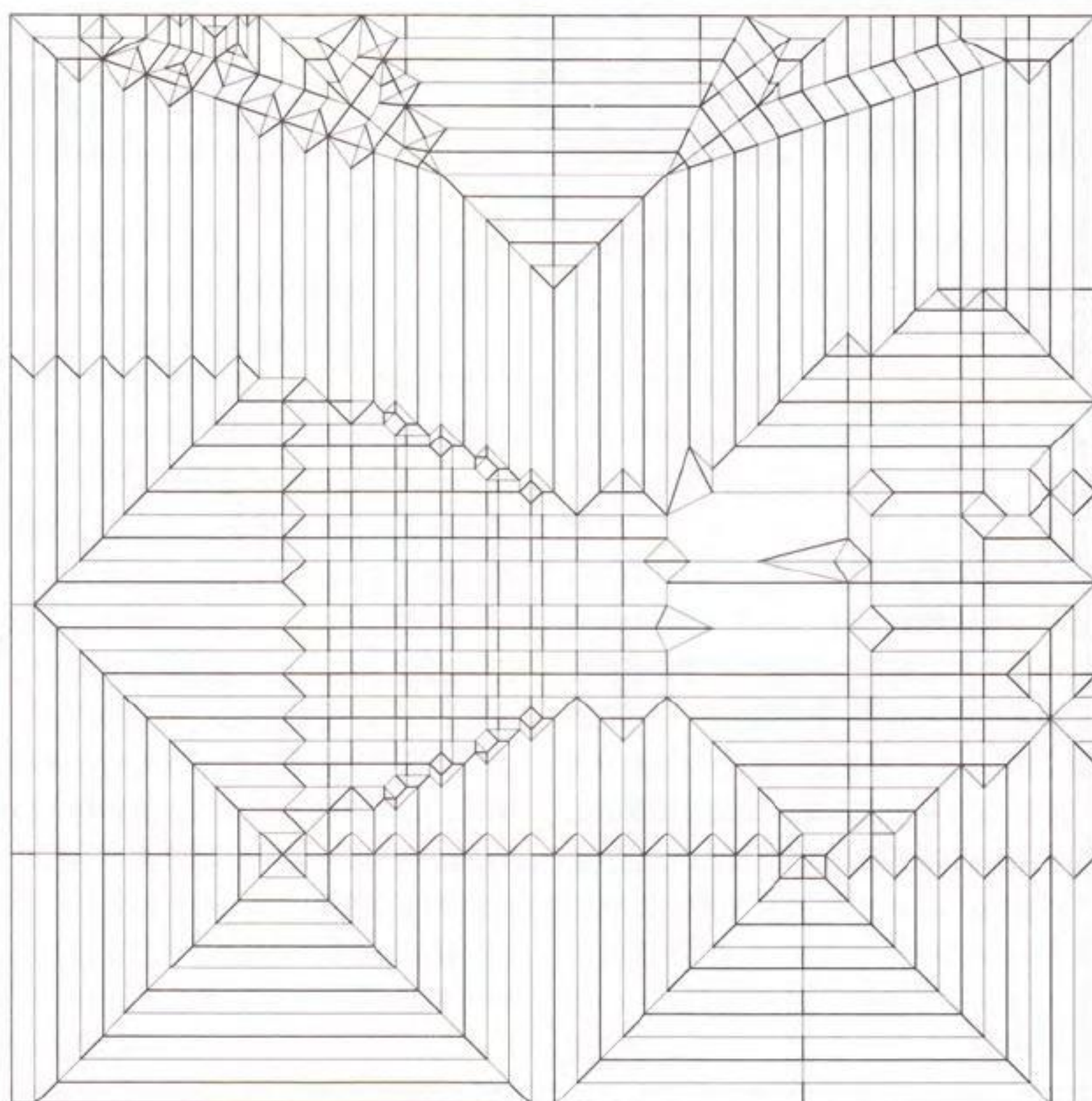
この作品、見ての通り非対称構造をしています。これを見ている方の中には、左右対称な題材であるカマキリを、なぜ非対称構造で折ったのか?と思う方がいるかもしれません。しかし、非対称構造にすることによって、対称構造では出来ないことが可能になる場合もあります。このカマキリでいいますと、本来前脚の間に来る頭が別の場所に移動したため、前脚に多くの紙を使うことが出来ました。また頭部も非対称構造にしたことで、触角が適切な位置にすっきり出るようになりました。

構造においてもひとつのポイントは前脚のトゲです。最近自分の中で流行っている神谷パターンを使って試行錯誤したところ、あまり見たことがない面白い形にまとまりました。小さな内部カドをたくさん出すことが出来るこの構造は、カマキリの他にもいろいろ使えそうなので今後の創作にも生かしたいと思っています。

自分は創作の際に、構造の面白さと見た目を両立した作品を作ることが心掛けています。その点カマキリは構造においても、見た目においてもかなり満足のいくレベルに達したと思っています。ただ個人的に不満な点もいくつかあるので、ここで止まらず、さらに上を目指したいと思っています。

作品解説に移ります。この作品は48等分蛇腹をベースにしております。この図は紙の表から見たものとなりますので折り筋を付ける際にはご注意ください。くびれの部分などは紙が重なりとても厚くなるので、なるべく薄くて大きな紙(カラペなど)で折ることをお勧めします。展開図を畳むときは、展開図上部の前脚から手を付け、その

後、辺にある他の脚、中央の体、右にある頭の順に畳むのが、自分の試した中では一番やりやすかったです。仕上げに関しては、説明するより実際に折っていただいたほうが分かりやすいかと思います。ただ前脚に関しては、左右を間違えやすいので注意してください。展開図左上のカドが右前脚、右上が左前脚となります。



File-55

津田良夫

Tsuda Yoshio

○津田良夫(つだ・よしお) = 1954年東京生まれ。国立感染症研究所勤務。蚊の生態を研究している。著書に『創作折り紙をつくる』(大月書店、1985年)、『蚊の観察と生態調査』(北隆館、2013年)。



■ごあいさつ

今期から日本折紙学会の評議員代表を務めることになりました。通常、この横顔のページはインタビュー形式で記事が書かれるのですが、今回は私のプロフィールや折り紙に対する考えなど思いつくまま書くことになりました。

■二足のわらじ

私は二足の“わらじ”を履いています。一足は小学校のころから履いている“折り紙愛好家／作家のわらじ”です。もう一足は職業として履いてきた“科学者のわらじ”です。

“科学者のわらじ”、特に蚊の研究としてのわらじは27年ほど履いています。蚊の行動や生態と私の研究については、昨年『蚊の観察と生態調査』(北隆館)という本を出版したので、興味のある方は読んでみてください。

私の場合二足のわらじは互いに表裏の関係あるいは包含関係にあります。蚊の生態調査のために国内外のいろいろな場所に行きますが、現地で野外調査をしていて出会う形の面白いものや印象的な生き物を創作の対象にしています。例えば、南大東島のダイトウコノハズク(探偵団マガ

ジン98号)や、石垣島のオオシママドボタルの幼虫、知人から見せてもらったイボイモリ、子供のころよく採って遊んだアリジゴク(雑誌おりがみ、2003年7、8、9月号)などです。

ツノゼミという虫たちは10年以上興味を持ち続けている虫で、小さな虫にもかかわらず胸部の背面などに奇妙なツノを持っています。インドネシア・スンバワ島で採集したツノゼミは比較的単純で大きなツノを持つ種類で、とても恰好よかったので創作してみました(探偵団マガジン88号、探偵団マガジン135号)、もっと複雑なツノを持つヨツコブツノゼミのような種類を創ってみたいと思っています。

■好きな作品

過去30年ほどの間にさまざまな新しい折り技法が考案され、このことが刺激になって私の場合も折る工程が長い作品を創作することが多くなっていますが、私はどちらかというと折り工程が短く印象的な作品が好きです。かわいいなと感じた虫はかわいらしく、恰好いい虫は恰好よく折れることが私の理想で、そのための工程はできるだけ簡単なのがよいと思っています。

私の作品の中では、「げた」(雑誌おりがみ13号)、「白鳥」(雑誌おりがみ8号)、「二枚貝」(津田、1985年)、「ダンゴムシ」(雑誌おりがみ105号)、「アゲハチョウ」(津田、1985年)、「ふくろう」(探偵団折り図集16巻)、「王蟲」(探偵団折り図集10巻)、「白雁」(探偵団マガジン115号)、「ツノゼミ」などが好きな作品です。マガジンに掲載された「蚊(展開図)」(80号)、「カラス」(121号)あるいは「インコ」(21期会員特別配布資料)などはうまくできたと思う反面、ちょっとややこしすぎる気もしています。

■折り紙っていいなと思うとき

折り紙がいいなと思うのは、長い待ち時間をたった1枚の折り紙であつという間に過ごすことができたとき、折り紙を通じておもしろい人と出会ったとき、自分の作品をプレゼントして喜ばれたときなどなど。

私が折り紙を通じて出会った一番の友人は山口真さんです。山口さんと知り合ったのは雑誌『おりがみ』が創刊されたころで、当時私は大学生でしたが、それ以来雑誌『おりがみ』や『折紙探偵団新聞』、『折紙探偵団マガジン』を通じてずっとお世話になっています。

数年前にスウェーデンで開催された国際学会のときには、論文を通じて知り合ったスウェーデンとリトアニアの研究者に「すずめ」と「蚊」の折り紙をプレゼントして喜ばれました。

■これから

『創作折り紙をつくる』(大月書店)という本を出してから30年が経ちましたので、なんとか機会を作って2冊目の折り紙本を書きたいと思っています。



▲「蚊」(本誌80号掲載)

▲「コノハズク」(本誌98号掲載)

▲「白雁」(本誌115号掲載)

大学折紙サークル交流会レポート

Report: The Inter-College Origami Circles Assembly

報告:堀口直人

Horiguchi Naoto



3月22・23日、湯島地域活動センターで大学折紙サークル交流会が開かれた。うち23日のみであるが、若手作家勉強会経由でゲスト招待を受け、大内康治・金沢隆史・原司と共に参加してきた。その時の様子を報告する。

交流会はOrist初代代表、西村光平氏の呼びかけに端を発し、全国7つのサークルから34人が集まった。展示・折紙教室・ゲームの他、22日には活動紹介や食事会もあったそうだ。勉強会は2時間の教室で、普段の活動に役立つ遊びや創作手法の解説を行った。

参加者はみな熱心で、東北大の展示を見ながら意見を交わす東工大生や、京都のサークルによる講習と一緒に受ける早慶生等、今までにない交流も見られた。また数年前ウェブやコンベンションで見知った子と再会できたのも印象的だった。

今後は「折紙サークルネットワーク」を結成し、継続的な交流活動を図っていくという。折紙サークルといっても活動には多様性がある。交流の進展は今後さらなる化学反応を促すだろう。若い学生達の活躍に期待したい。

参加サークル代表より

全国規模のつながりが持てた事を大変嬉しく思います。東北地方にはまだ大きな折り紙の組織や会があり



指1本折りゲームに熱中する参加者達

ません。今後こうしたつながりを生かし、東北の折り紙文化の向上発展に繋がれたら良いと思います。(東北大折り紙サークルORUXE代表 河本泰岳)

創作理論に詳しい人や教える技術に長けた人等、様々な人との交流は貴重なものでした。他大学の活動から学ぶこともあり、逆に自分たちの活動内容を発信できたのもいい経験となりました。(東京工業大学折紙同好会FIT代表 笹沼勇人)

若いサークルであるW.O.L.F.が折紙サークルネットワークの発足に携われたことを光栄に思います。団体の今後の発展、継続に期待が膨らむばかりです。(早稲田大学折り紙サークルW.O.L.F.代表 森澤碧人)

折紙は創始して間もないサークルなので、今回のイベントで他団体の様子を知ることができ、大変勉強になりました。また折紙がどのような団体を目指していくべきかを考える

良い機会となりました。(慶應義塾大学折り紙サークル「折禅」代表 水野翔)

設計理論を駆使した作品や正確な折りが光る美しい作品、様々な作品に接し、折紙意欲が大いに刺激されました。また折紙教室等、今後の活動に繋がる有意義な経験ができました。(東京大学折紙サークルOrist代表 中村智晴)

京都学生折り紙サークルcolorfulは折り紙を通したボランティアを中心に活動しているため、創作や複雑な折り紙を中心としている他のサークルと交流することで新たな発見があり、刺激になりました。(京都学生折り紙サークルcolorful代表 武藤優哉)

折紙サークルネットワーク(略して折りネット?)に参加しまして、私達と同じように様々なサークルが動き始めていることを知りました。我々のサークルも消滅しないよう頑張ります!(京大折り紙サークルいまじろ〜代表 小木曾浩也)

編注) 作品展示風景はカラーページP.24に掲載しています。



展示人気投票の表彰状を掲げて記念撮影



第20回折紙探偵団 コンベンション 参加申し込み受付開始

2014年8月15日(金)、16日(土)、17日(日)

会場:東洋大学1号館(東京都文京区)

今年の吉野一生基金招待者は、アレッサンドロ・ベバー氏
(イタリア)に決定!

ついに20回を迎える東京の折紙探偵団コンベンション。今年
はコンベンションの前に6OSME、第6回折り紙の科学・
数学・教育国際会議も開かれる。両方への参加を希望する
外国人参加者も少なくなく、今年は20回記念大会にふさわ
しい、より国際的な大会となりそうだ。

●特別講演会(15日)

現在のところ2つの講演が決まっています。1つは今回の吉野一生基金招待者
である、アレッサンドロ・ベバー氏、もう1
つはエリック・ドメイン氏による講演です。

マサチューセッツ工科大学(MIT)教授
のドメイン氏は、コンピュータ科学者で、
計算折り紙(コンピューショナル・オリガ
ミ)の研究を精力的に行っています。講演
では、身近にひそむ折り畳みや折り紙に
関わる数学的問題、形を変えるロボット
への応用、曲線折りやアートの実践など、
領域を横断する話題を予定しています。

●折り紙教室

当大会のメインイベント。各教室の定
員は難易度、講師によって異なります
が、20~25名で、1度に10~12の教室
が開講されます。

■教室受付順位の決定方法について

教室受付順位とは、希望の教室申し
込みを受け付ける順番です。番号が若
いほど、希望の教室を受講できる可能性
が高くなります。

まず最初に6月27日到着分までの申
し込み用紙がシャッフルされ、教室受付
順番が付けられます。この順番は、16日
と17日で逆になります。例えば、27日ま
でに到着した申し込みが100人ならば、
16日に1番だった人が17日に100番に
なります。それ以後の申し込みについて
は、申し込み締切の8月8日(金)に2度目
のシャッフルをして、残りの番号を振り
分けします。この番号も、16日と17日
では、(このグループ内で)順番が逆にな
ります。このシステムは、ボランティアによ

る事務処理の軽減を目的としています。
早期お申し込みにご協力をお願いします。

●折り紙教室講師募集

探偵団コンベンションのメインはや
はり折り紙教室です。この教室は、参加
者の皆さんの協力により成り立っていま
す。自信作、お気に入り、コンベンショ
ンで教えてみませんか。易しい作品、難
しい作品、初めての方もベテラン講師の
方も大歓迎です。折紙指導員資格を持
っている方は、実力を発揮するまたとない
機会です。詳しくは、同封されている「講
師参加のご案内」をご覧ください。

●お楽しみ懇親会

毎回100名を超す参加者で賑わう懇
親会。堅苦しさの無い、折り紙好きのた
めの親睦パーティーです。会場は、東洋
大学の3号館スカイホール。高台にある
校舎の16階で、夜景がとてもきれいで
す。美味しい料理と美しい夜景を眺め
ながら、折り紙談義に花を咲かせませ
んか? 初参加大歓迎です。恒例のお楽
しみゲームも予定。

●折紙指導員資格と 指導員向け講習

折紙探偵団コンベンションでは、日本
折紙学会が認定する「折紙指導員」の認
定試験を受けることができます。現在、
70名以上の資格取得者が、各地で活躍
されています。今回も受験者を募集しま
す。受験資格は、25期の日本折紙学会
会員であること。受験料は無料ですが、
合格後の登録料として3,000円が必要と
なります。詳しくは、同封の「指導員認定

制度について」をご覧ください。

●折り紙アイテムオークション

参加者から提供された折り紙アイテム
のオークション(多いのはやはり折り鶴
関係アイテム)。売り上げは、全額吉野一
生基金に寄付されます。皆さんからの折
り紙関係のアイテム提供をお待ちして
おります。

●作品展示

オリジナル作品を中心に、参加者皆さ
んの自慢の作品を展示。コンテスト応募
作品も展示しています。一般参加者の作
品展示では、事前申し込みをお願いし
ます。もし展示スペースが足りない場合
に、事前申し込みされた参加者を優先さ
せていただきます。

●参加費

大人=5,000円

学生=4,000円(小、中、高、大、専門学生)

親子割引(小学生以下2名まで適用可)=

大人5,000円+子ども2,500円×人数分

※折り紙教室の参加費には、折り紙用
紙、名札、記念バッジ、ボールペンなど
の費用が含まれています。折り紙用紙と
ボールペンは1人分の配布となります。

●参加申し込み方法

同封の申込用紙に必要事項を記入
し、郵便またはファックスで日本折紙学
会事務局までお送りください。

日本折紙学会事務局=〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

TEL&FAX/03-5684-6080

※申込用紙が複数必要な場合は、コ
ピーをとって使用してください。

◆折り図集原稿大募集

コンベンションに合わせて発行される折り図集への投稿作品を募集中。自信作(折り図)をお寄せください。

●応募資格 特にありません。アマ・プロ、年齢不問。本誌購読者及び日本折紙学会会員である必要もありません。採用者(ページ数の条件あり)には、掲載作品数に関係なく『第20回折紙探偵団コンベンション折り図集』を1冊進呈。

●応募作品の条件 創作もしくはアレンジの作品で、未発表の自作折り図に限ります。(アレンジ作品の場合は、オリジナルの原作者の了解を取った上で、名前も明記すること。)原稿はデジタルデータが基本となります。

●折り図投稿マニュアル入手方法
ダウンロード: 折紙探偵団 HP の「コンベンション特設ページ」より可能です。

◆応募締め切り: 2014 年 6 月末日

◆創作折り紙コンテスト

今回で 8 回目となる JOAS 創作折り紙コンテスト。腕におぼえのあるかたのご参加を待っています。

■ JOAS 賞 特別テーマ部門: 「進化」
ますます「進化」しつづける折り紙の世界。自由な発想・解釈で「進化」を表現した折り紙作品を募集。

■ JOAS 賞 干支部門: 「羊」
来年の干支である羊の作品を募集。

■ おりがみはうす賞: テーマ無し(自由題)
この賞は、おりがみはうすが審査し決定します。

▶ 1 つの賞に 1 人 1 作品まで応募できます ▶ いずれの賞でも複合は可(枚数・大きさを明記すること)。切り込みは原則不可 ▶ 平面・立体作品のいずれでも OK です ▶ 応募は未発表の創作作品に限ります。コンベンション前に web など公開しないよう気をつけてください ▶ JOAS 賞は JOAS 評議員およびコンベンション参加者の投票で決定します ▶ 著作権のあるキャラクターものをモチーフにした作品の応募については、権利者から許可をとったもの以外は審査の対象外となります。ご了承ください

●申込用紙入手方法

ダウンロード: 折紙探偵団 HP の「コンベンション特設ページ」より可能。

◆応募締め切り: 2014 年 7 月末日

20th Origami Tanteidan Convention Call for Diagrams and Models

We will be holding the 20th Origami Tanteidan Convention from August 15th to 17th, 2014. We are currently accepting diagrams for the annual convention book. You will receive a complimentary copy if your diagrams are included. Templates are available on the JOAS website. The deadline for submission is June 30th. During the convention, we will also hold the 8th JOAS Origami Model Competition with three categories: two JOAS awards themed on "evolution" and "sheep", and the Origami House award with no theme set. For more details, please visit the JOAS website.

<http://www.origami.gr.jp/Convention/20th/index-e.html>

◆“6OSME in Tokyo” 最新情報



第 6 回 折り紙の科学・数学・教育国際会議の参加登録を受付中だ。国内外から 150 を超える発表が集まってきており活

発な折り紙学の議論が期待される。早期割引期限が 6 月 9 日で締め切られるので参加をお考えの方はお早めの登録を。

<国際会議の概要>

1. スケジュール

会期) 2014 年 8 月 10 日(日)~13 日(水)4 日間

参加) 2014 年 2 月 1 日より公式ウェブサイト origami.gr.jp/6osme/ からのオンライン参加登録を開始しています。

参加登録(2014 年 6 月 10 日より):
一般 25,000 円 学生 15,000 円

早期登録(2014 年 6 月 9 日まで)
一般 20,000 円 学生 10,000 円
概要) 折り紙に関わる技術、数学、教育、芸術、デザイン、歴史など多岐にわたる研究発表。
総演題数は 150 演題を超え、ポスターセッションを含めて 5 つのセッションに分かれて行われます。

8 月 10 日(日)

受付およびウェルカムレセプション

8 月 11 日(月)

開会式

招待講演……Gregory Epps 氏

一般講演

8 月 12 日(火)

招待講演……岡村昌夫氏

一般講演

懇親会……東京ドームホテル

8 月 13 日(水)

一般講演

閉会式

2. 開催場所

東京大学本郷キャンパス 弥生

講堂(東京都文京区)

会期中、学会会場では発表に関連した作品の展示が行われる予定です。

3. 折紙探偵団コンベンションへ引き続き参加する方の特典

2014 年 8 月 15 (金) ~ 17 日(日) に東洋大学で開催される第 20 回折紙探偵団コンベンションへ引き続き参加される方は、コンベンション参加費が半額になる特典があります。両方の参加を検討されている方はお早めに 6OSME への参加登録を!



▲会場となる東京大学弥生講堂

◆一枚の紙から生まれる奇跡 吉澤章創作折り紙の世界

世界ではOrigami Godと呼ばれ、その偉業が高く評価されている吉澤章氏(1911～2005)。全てのクリエイターに一目置かれていると言っても過言ではない。没後10年を迎え、吉澤氏の折り紙の世界を改めて知ることができる個展(遺作展)が静岡県三島市にある佐野美術館で開催される。

海外にORIGAMIを広めた第一人者である事は誰もが認めるところ。亡くなられてからもその人気は衰える事なく、というより、一層貴重なものとして各地で作品展が開かれている。

既に、今年もスペインのサラゴサにあるオリガミミュージアムでも盛大な作品展が開かれた。

吉澤章展には欠かせない作品の一つゴリラを始め数多くの作品が見られる貴重な作品展である。

●平成26年7月12日(土)～平成26年9月28日(日)

●入館料

一般・大学生1,000円

小・中・高校生500円

※毎週土曜日は小中学生無料

※15名以上の団体は各2割引

●開館時間

10:00～17:00(入館の受付は16:

30まで)

●休館日 木曜休館

住所: 〒411-0838 静岡県三島市中田町1-43

電話055-975-7278

<http://www.sanobi.or.jp/>



◆第5回韓国折り紙コンベンション案内

今年で第5回目となる韓国折り紙コンベンション。回を重ねる毎に盛り上がりを見せている。このコンベンションは会場と宿泊施設が同じ建物ということもあってとても便利。東京の探偵団コンベンションに参加した海外からのゲストも、連続して両方のコンベンションに参加できるので、参加者が増えている。また、今年のスペシャルゲストはアメリカからクリス・パルマー氏と日本から若手勉強会の中心となって活躍している堀口直人氏。

◆日程:2014年8月23日(土)～24日(日)
折り紙教室、招待作家の特別講演会、懇親会など

◆会場:ハイスウルユースホテル

<http://www.hiseoulyh.com/jp/>

◆参加費:大人 / 70,000 ウォン

高校生以下 / 50,000 ウォン、

大人+子供(小学生) / 100,000ウォン

◆懇親会費(希望者のみ):30,000ウォン

◆参加申し込み受付:7月14日～7月31日

◆折り紙講師受付:7月14日～7月31日

◆折り図集投稿:7月14日～7月31日

◆創作公募展受付:7月14日～7月31日

◆主催:韓国折紙協会

問い合わせ・申し込み / 韓国折紙協会

E-Mail: koamail@hanmail.net

◆若手作家勉強会活動報告

新年度を迎え、若手作家勉強会も気づけば8度の開催を終えるに至った。3月・4月の活動内容を簡単ではあるが報告する。

第7回勉強会は3月30日、JOASホールにて行った。参加者は14名、初参加の高校生や東海からの来訪者もいた。個人発表は松田景吾氏による「創作における見立ての追求と雰囲気表現への挑戦」。引き続いてFIT前代表の高村侑樹氏より、同月22・23日に行われた「大学折紙サークル交流会」の報告があった(「大学サークル交流会」については該当レポートを参照のこと)。その後、第3回目となる集団創作に取り組んだ。今回はより一層の集団性をもたせるため、作業を「基本形の折り出し」「仕上げ」「洗練化」という3つの工程に分け、グループ内のメンバーに分担を割り振っ

てみた。最後に行った反省会では、ルールに対する要望や改正案について様々な意見が出た。

第8回勉強会は4月26日、JOASホールにて行った。参加者は11名。個人発表は各務均氏による「折り紙活動における取り組み事例の紹介」。今回は実践的活動は行わず、規約と今後の活動に関する議論に残りの時間を充てた。会の目的や運営の曖昧だった部分を見直し、今後の方向性について参加者の意見をまとめておくことで、活動をさらに進展させていくためである。それに合わせ、夏頃を目標に、これまでの活動内容を広く外部へ向け発信していくことが取り決められ、具体的に何をするかについて話し合った。詳細は検討中であるが、過去の個人発表の文章化や、探偵団コンベ

若手作家勉強会

ンションでの特別活動などを考えている。

最初は手探りだった勉強会も、次第に活動の幅が広がってきた。今後どこまで活動を広げていけるかは未知数だが、少しでも良い成果を出していけるよう努めていきたい。興味がある・あるいは一緒にやりたいという新規メンバーも引き続き大募集している。

▼夜まで続く盛り上がりを見せる勉強会



◆第16回折り紙の科学・数学・教育研究集会

折り紙の科学・数学・教育に関する最新研究の発表会が開かれます。どなたでも聴講することができます。8月10日から8月13日に開かれる折り紙の科学・数学・教育国際会議の関連発表を聴講できる機会になるでしょう。

◆日時：6月22日(日)10:00～15:00(昼食は各自)

◆会場：日本折紙学会・JOASホール(東京都文京区白山1-33-8-217)

◆参加資格：ありません。当日会場へお越しください。(定員約40名)

◆参加費：1,000円

◆懇親会：会のあとに予定しています。

◆主催：日本折紙学会

◆発表者を公募中です。

・締め切り6月9日(月)

・連絡先：webman@origami.gr.jp

発表の申し込み、最新の情報、および、これまでの会については、以下をご覧ください。

<http://www.origami.gr.jp/OSME/1406.html>

JOASホール今後の予定

※それぞれ定員になり次第締め切ります

◆「Origami ATC研究会」

6月5日(木)／参加費＝1,000円(材料費別)／11:00～16:00／講習内容＝アーティスト・トレーディングカード(ATC)作りと、折り紙講習、折り紙の情報交換等／講師＝松浦英子／定員＝20名／お茶を飲みながらの気軽な集まり。初心者大歓迎。

◆「知子の部屋」

6月21日(土)／講師＝布施知子／参加費＝2,500円／12:30～16:00／定員＝28名／アットホームな雰囲気の教室で、どなたでもご参加頂けます。15cmの折り紙持参。

◆「ある折り紙作家の教室」

7月6日(日)、7月13日(日)(2日とも同じ内容)／講師＝神谷哲史／講習作品＝ジャッカロフ／参加費＝3,000円(材料費別)／11:00～16:00／定員＝28名

※対象は、小学校5年生以上です。

※小学生の方が参加される場合は、必ず保護者の同伴をお願いします。

※会場へは参加者および同伴者(会場費500円が必要)のみ入場可能です。

※「知子の部屋」と「ある折り紙作家の教室」は、キャンセル料(受講費の半額)が発生しますので、ご注意ください。

参加のお申し込みはFAX(03-5684-6080)又は、メールinfo@origamihouse.jpで氏名、住所、Email、電話番号、参加希望教室名、希望日をお知らせください。

編集後記

■JOASホールでのOrigami ATC(オリガミ・アーティスト・トレーディング・カード)が盛り上がりを見せている。■やさしい、かわいいで参加者はご婦人ばかり。■規定のサイズ(64×89mm)の中にオリガミで個性を表現する。■リアル参加者だけでなく、郵送での交換も増えている。■リアル参加者はお菓子をつまみ、お茶を飲みながら(まるで井戸端会議?)楽しんでいる。■材料も安価で、色紙のように大きくなく、コレクションも楽といったところが受けているようだ。■ところで大事件!! おりがみはうすのオンラインショップの写真が無断使用されてしまった。■それもNOAのオンラインショップに。■写真はおりがみはうすで撮影加工したもの。■なんとその数200点以上。(や)

日本折紙学会公式HP

折紙探偵団 <http://www.origami.gr.jp/>

折紙探偵団マガジン

2014年5月25日発行 第25巻1号 通巻145号

発行所／日本折紙学会

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人／津田良夫

編集人／山口 真

編集スタッフ／松浦英子、神谷哲史

デザイン／おりがみはうす

翻訳／立石浩一

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

◆東海友の会の作品展

折紙探偵団東海友の会恒例の「東海友の会作品展」が開催されます。東海友の会のメンバー10名程が、この1年間折りためた作品を中心に展示します。今年と来年の干支「馬」「羊」をはじめ、作品数は100作品以上になる予定。会場は探偵団コンベンションでお馴染みの名古屋芸術大学、西キャンパス内のアート&デザインセンター。

会期：5月30日(金)～6月4日(水)

開館時間：12:15～18:00(日曜休館)

※最終日は17:00まで

東京友の会 ※折り紙は各自持参

会場＝JOASホール／参加費＝大人500円(中学生以下300円)／時間＝14:00～16:00／研究会＝16:00～(開場は13:45)

●6月7日(土)／講師：板垣悠一／作品：スワンボート

●7月5日(土)／講師：堀口直人／作品：靴

静岡友の会 ※折り紙は各自持参

会場＝「紙友館ますたけ」増武ビル3F／参加費＝大人500円(中学生以下は200円)／時間＝10:30～15:00

※昼食は各自ご用意下さい。会場は土足禁止です。各自上履き(スリッパ等)をご持参下さい。

●6月1日(日)午前＝講師：鈴木美恵子／作品：あじさい折り・藤本修三作／午後＝静岡コンベンション打ち合わせ、情報交換会等

東海友の会 ※折り紙は各自持参

会場＝名古屋芸術大学 西キャンパスA棟303号室／参加費＝大人500円(中学生以下は200円)／時間＝13:00～15:30

詳細未定。確定次第、東海友の会HP <http://joas-tokai.fan-site.net> にてご案内

入場無料 どなたでもご覧になれます。お問い合わせはjoas-tokai@10.fan-site.netまで。



▲昨年の展示風景

します。

●6月21日(土)／講師：未定／作品：未定

●7月19日(土)／講師：未定／作品：未定

関西友の会 ※折り紙は各自持参

会場＝高槻市立総合市民交流センター 3階第1会議室／参加費＝500円／日時＝6月22日／時間＝10:00～16:00

●10:00～11:00＝講師：吉田 順／作品：ふうりん(つがわみお作)／11:00～12:00＝講師：黒川紀男／作品：Origami Bowl と Star Flower(フィリップ・シェン作)／13:00～15:30＝講師：山口之彦／作品：ぞう／13:00～15:30＝作品発表、情報交換会など

九州友の会 ※折り紙は各自持参

会場＝佐賀県立アバンセ4F／参加費＝500円(中学生以下は100円)

●6月22日(日)／時間＝13:00～16:00／会場＝第3研修室B／講師：浜田 勇／作品：未定

●7月27日(日)／時間＝13:00～16:00／会場＝第4研修室／講師：藤田 洸／作品：未定

■ORIGAMI TANTEIDAN MAGAZINE / No.145 / Published on 25, May 2014 by Japan Origami Academic Society, 1-33-8-216 Hokusai Bunkyo-ku 113-0001 Tokyo JAPAN / Cover Photo: "Mantis" Produced by Imai Kota: Photographed by ORIGAMI HOUSE / Publisher: Tsuda Yoshio / Editor in Chief: Yamaguchi Makoto / Editor: Matsuura Eiko, Kamiya Satoshi / Editorial Design: ORIGAMI HOUSE / Translator: Tateishi Koichi

おりがみはうす商品案内

website = <http://www.origamihouse.jp/>

E-mail = info@origamihouse.jp

このページの商品の取扱いはいすべておりがみはうすです。
日本折紙学会とは別になります。

ATTENTION! : This advertisement is for Japan-internal use only.
For overseas shipment, please refer to the OrigamiHouse Web Site.



第19回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.19

日本折紙学会 編 / 2,480円 / 送料430円
B5判 / 全288頁 / 53作品収録

vol.18より **さらに16P増量!**

ジャバラン：川村みゆき、モザイク小物入れ：川崎敏和、ニワトリ：神谷哲史、リヤマ：川畑文昭、サイ：宮島 登、無限の輪：イザ・クライン、自転車：ジェイソン・クー、白ウサギ：ニコラス・ガハルド・エンリケス、グリズリー：セス・フリードマン等、国内外の53作品を収録。

書籍名／著者・編者	価格(税込)	送料	内 容
神谷哲史作品集 神谷哲史 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,320円	国内一律 1冊 430円 (梱包込) 複数冊は 異なります お問い合わせ ください	B5判 / 全228頁 / カラー口絵4頁 / 19作品収録 超複雑系折り紙の創作活動8年間の集大成
神谷哲史作品集2 神谷哲史 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,320円		B5判 / 全323頁 / カラー口絵8頁 / 16作品収録 折り紙界の最先端、神谷氏の約8年ぶりとなる作品集
小松英夫作品集 小松英夫 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,320円		B5判 / 全323頁 / カラー口絵8頁 / 20作品収録 折り図も1つの作品として捉える小松氏の初作品集
西川誠司作品集 西川誠司 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,460円		B5判 / 全196頁 / カラー口絵4頁 / 32作品収録 シンプルからコンプレックスまで幅広く楽しめる本
折紙図鑑「昆虫2」 ロバート・J・ラング 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,780円		B5判 / 全196頁 / カラー口絵4頁 / 18作品収録 初心者お断り、世界で一番難しい昆虫折り紙の本
面～The Mask～ 布施知子 著 山口 真 編	3,560円		B5判 / 全200頁 / 全27作品カラー写真紹介 作者がユニットに出会う前の、お面だけの作品集
エリック・ジョワゼル 山口 真 編著 ー折り紙のマジシャンー 立石浩一 訳	5,180円		B5判ハードカバー全144頁 / カラー80頁 2010年に逝去したジョワゼル氏の作品写真集
第19回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.19 日本折紙学会 編	2,480円		B5判 / 全288頁 国内・外から集まった秀作 53 作品を収録
第18回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.18 日本折紙学会 編	2,380円		B5判 / 全272頁 国内・外から集まった秀作 48 作品を収録
第17回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.17 日本折紙学会 編	2,160円		B5判 / 全256頁 国内・外から集まった秀作 50 作品を収録
第16回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.16 日本折紙学会 編	2,160円		B5判 / 全256頁 国内・外から集まった秀作 47 作品を収録

書籍2冊の送料は540円です。3冊以上は本によって異なりますので、お問い合わせください。書籍と紙はそれぞれ別発送となります。

商品名	価格(税込)	送 料	内 容
恐竜柄おりがみ用紙	1,080円	1～2セット	35×35cm / 10枚入り / 70kgの洋紙(コルキー)に細かなウロコ柄を印刷
恐竜柄おりがみ用紙 折り図つきセット	1,300円	450円	恐竜柄おりがみ用紙+ドラゴン(北條高史・作)の折り図セット
『折紙探偵団マガジン』専用ファイル	810円	1冊285円 2冊330円	193×268×28mm / 箔押しロゴ入り / 『折紙探偵団マガジン』1年分(6冊)と、会員特別配布物が収納可能なプラスチックファイル

折り紙用紙専門のオンラインショップ!

おりがみはうす オンラインショップ

<http://www.olshop.origamihouse.jp/>

おりがみのトーヨーの商品を
25%引きで販売中!

※創作専科・アウトレット商品等を除く / 発送は週1回木曜日

詳しくは
検索サイトで

おりがみはうす

検索



オンラインショップ限定価格で
一般店舗では取り扱いのない
大判折紙や単色折り紙等々、
500種類を超えるおりがみを
豊富に取り揃えています!



商品のお申し込み方法

先に郵便振替か現金書留で料金(商品価格+送料)をお送り下さい。入金を確認後、商品を発送させていただきます。ご希望の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の「通信欄」に記入)をお忘れのない様お願いします。

郵便振替番号 **00120-9-715400**

加入者名 **おりがみはうす**

※PayPalによるお支払いも可能です。

詳細は公式HP <http://www.origamihouse.jp>まで

※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。

※郵便振替用紙は郵便局備え付けのものをご利用ください。

※現金書留の場合は左記の住所へお送りください。

※商品のお届けは通常、送金から約1週間～10日です(お盆・年末年始等を除く)。

※商品名、数量及び料金をよくお確かめの上ご注文ください。



ギャラリー **おりがみはうす**

〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216
TEL:(03) 5684-6040 FAX:(03) 5684-6080
E-mail: info@origamihouse.jp
月～金 12時～15時 土・日・祝 10時～18時

**カラーペーパーは両面同色のコシがある紙なので
しっかりとした作品に仕上がります。**

¥350
(税抜き)



Pastel

淡くて綺麗なパステルカラーを12色
集めました。いろいろな色を使えば、
華やかな作品に仕上がります。



MONOTONE

4色のグレーと、白と黒が入っています。
コントラストが美しい、スタイリッシュな
作品に仕上がります。